令和３年度

授　業　概　要

四国医療専門学校
看護学科

目　　次

Ⅰ.まえがき…… 1
Ⅱ.教育理念、教育方針、教育目標…… 2
Ⅲ.教育方針3つのポリシー…… 3
Ⅳ.カリキュラムマップ…… 7
Ⅴ.カリキュラム…… 9
Ⅵ.履修規程…… 12
Ⅶ.大学併修制度…… 23
Ⅷ.学事暦…… 28
Ⅸ.看護学科自治会会則…… 29
Ⅹ.シラバス
1. 基礎分野
1）科学的思考の基盤
（1） 物理学…… 31
（2） 生物学…… 32
（3） 化学…… 33
（4） 情報科学…… 34
（5） 情報科学演習…… 35
（6） 生涯スポーツ論（体育実技）…… 36
2）人間と生活、社会の理解
（1） 哲学…… 37
（2） 人間関係論…… 38
（3） 死生論…… 39
（4） 家族社会学…… 40
（5） 発達心理学…… 41
（6） 日本語表現法…… 42
（7） 文化人類学…… 43
（8） 臨床心理学…… 44
（9） 笑いと医療…… 45
（10） 音楽療法…… 46
（11） 健康科学論…… 47
（12） 英語Ⅰ（基礎英語）…… 48
（13） 英語Ⅱ（英会話）…… 49
（14） 英語Ⅲ（看護英語・原著論文）… 50
（15） 英語Ⅳ（留学英語）…… 51
（16）＊中国語…… 52
（17）＊教育原理…… 53
（18）＊教育評価…… 54
（19）＊教育方法論Ⅰ（理論）…… 55
（20）＊教育方法論Ⅱ（演習）…… 56
（21）＊教育心理学…… 57
2. 専門基礎分野
1）人体の構造と機能
（1） 解剖生理学Ⅰ…… 58
（2） 解剖生理学Ⅱ…… 59
（3） 病理学…… 60
（4） 生化学…… 61
2）疾病の成り立ちと回復の促進
（1） 微生物学…… 62
（2） 疾病と治療Ⅰ…… 63
（3） 疾病と治療Ⅱ…… 64
（4） 疾病と治療Ⅲ…… 65
（5） 疾病と治療Ⅳ…… 66
（6） 疾病と治療Ⅴ…… 67
（7） 疾病と治療Ⅵ…… 68
（8） 疾病と治療Ⅶ…… 69
（9） 疾病と治療Ⅷ…… 70
（10） 疾病と治療Ⅸ…… 71
（11） リハビリテーション医学…… 72
（12） 薬理学・薬物療法…… 73
（13） 栄養学・食事療法…… 74
（14） 臨床検査学…… 75
3）健康支援と社会保障制度
（1） 医療経済論…… 76
（2） 医療行政論（関係法規）…… 77
（3） 公衆衛生学…… 78
（4） 社会福祉概論…… 79

（5）地域福祉論…… 80
（6）東洋医学…… 81
（7）リラクゼーション方法論…… 82
3．専門分野Ⅰ
1）基礎看護学
（1）看護学概論…… 83
（2）看護理論…… 84
（3）医療と看護倫理…… 85
（4）基礎看護方法論Ⅰ…… 86
（5）基礎看護方法論Ⅱ…… 87
（6）基礎看護方法論Ⅲ…… 88
（7）基礎看護方法論Ⅳ…… 89
（8）基礎看護援助論Ⅰ…… 90
（9）基礎看護援助論Ⅱ…… 91
（10）基礎看護援助論Ⅲ…… 92
（11）看護研究Ⅰ…… 93
（12）看護研究Ⅱ…… 94
2）臨地実習
（1）基礎看護学実習Ⅰ…… 95
（2）基礎看護学実習Ⅱ…… 96
4．専門分野Ⅱ
1）成人看護学
（1）成人看護学概論 …… 97
（2）成人看護方法論Ⅰ…… 98
（3）成人看護方法論Ⅱ…… 99
（4）成人看護方法論Ⅲ…… 100
（5）成人看護方法論Ⅳ…… 101
（6）成人看護方法論Ⅴ…… 102
2）老年看護学
（1）老年看護学概論…… 103
（2）老年看護方法論Ⅰ…… 104
（3）老年看護方法論Ⅱ…… 105
（4）老年看護方法論Ⅲ…… 106
3）小児看護学
（1）小児看護学概論…… 107
（2）小児看護方法論Ⅰ…… 108
（3）小児看護方法論Ⅱ…… 109
（4）小児看護方法論Ⅲ…… 110
4）母性看護学
（1）母性看護学概論…… 111
（2）母性看護方法論Ⅰ…… 112
（3）母性看護方法論Ⅱ…… 113
（4）母性看護方法論Ⅲ…… 114
5）精神看護学
（1）精神看護学概論…… 115
（2）精神看護方法論Ⅰ…… 116
（3）精神看護方法論Ⅱ…… 117
（4）精神看護方法論Ⅲ…… 118
6）臨地実習
（1）成人看護学実習Ⅰ…… 119
（2）成人看護学実習Ⅱ…… 120
（3）成人看護学実習Ⅲ…… 121
（4）成人看護学実習Ⅳ…… 122
（5）老年看護学実習Ⅰ…… 123
（6）老年看護学実習Ⅱ…… 124
（7）小児看護学実習Ⅰ…… 125
（8）小児看護学実習Ⅱ…… 126
（9）母性看護学実習…… 127
（10）精神看護学実習 …… 128
5．統合分野
1）在宅看護論
（1）在宅看護概論…… 129
（2）在宅看護方法論Ⅰ…… 130
（3）在宅看護方法論Ⅱ…… 131
（4）在宅看護方法論Ⅲ…… 132
2）看護の統合と実践
（1）高度先駆的看護…… 133
（2）医療安全管理…… 134
（3）国際看護学…… 135
（4）看護管理…… 136
（5）災害看護学…… 137
（6）救急看護…… 138

（7）看護情報システム論…… 139
（8）看護ゼミナール…… 140
（9）看護政策論…… 141
（10）クリティカルシンキングⅠ…… 142
（11）クリティカルシンキングⅡ……143
（12）総合演習…… 144
3）臨地実習
（1）在宅看護論実習…… 145
（2）統合実習…… 146

ま　え　が　き

本看護学科は四国医療専門学校の中に、平成１９年に設置され、「高度専門士」の称号が得られる４年制修学制度をとっています。皆さんがこれから学んでいくカリキュラムは深い人間理解のための「基礎分野」をベースに、人体の構造・機能、疾病などの「専門基礎分野」、さらに「専門分野」である看護の専門知識・技術の習得を積み上げていくことになります。すべてのカリキュラムが医療の高度化・専門化を反映したものであり、またそこに保健・医療・福祉の知識はもちろんのこと、医療従事者が備えていなければならない豊かな人間性の習得も含まれます。

四国医療専門学校には、皆さんが入学した看護学科の他に６つの医療系学科が含まれています。ですから、皆さんの学習には東洋医学の理論、リハビリテーションの実技も導入されています。また、卒業されてからの看護の現場ではチーム医療が求められますので、その基礎を形成するために他学科の学生との交流も球技大会、体育祭、学園祭などの学生行事でもつことができます。

この冊子は皆さんが看護学科に入学した学生として有意義な学生生活を送るための手引きとなるよう作成されたものです。一通り目をとおし、また必要に応じて参照することによってより充実した学生生活を送られることを願っています。

なお、この冊子には必ずしも全てにわたって説明が網羅されているわけではないので、疑問や不明な点については遠慮なく教員に相談してください。

教育理念、教育方針、教育目標

教育理念

四国医療専門学校看護学科の教育課程では、看護学を構成する主要概念を「人間」、「健康」、「環境」、「看護」、「教育」の５つとしている。「看護」は「人間」の「健康」に係るものですが、「健康」は「環境」に影響される。また、看護は人間とその環境に関して、自らも環境の１つとして関係する。

「教育」は、人間形成の上で欠かせないものであり、看護師の育成においては、「人」としての教育が最も重要である。看護の対象者に対する教育はもちろん、日々の看護業務の中で、人間としての自分を磨き、人に接するための原点を学ぶことが大切だと考えている。

四国医療専門学校看護学科は、医療の原点である「手当て」でもって、思いやりの心と正確な技術を用いて、人々に身体的・精神的・社会的側面から「癒し（ヒーリング）」を提供できる看護師の育成をめざす。また、人間らしさと生命を尊重し、福祉に精通した地域社会に貢献できる看護師を育成する。

また、本学科は大学併修制度を導入し、４年間の学生生活で福祉分野と心理分野の学習も深めていく。そして卒業後には、学士と高度専門士の称号を付与された看護師として、福祉と心理に強い、社会に役立つ看護師として活躍すると共に、将来は、認定看護師や専門看護師をめざせるような人材を育成する。

教育方針

四国医療専門学校看護学科は、看護師として必要な基礎的知識･技術･態度を教授し、保健・医療・福祉の向上と地域社会に貢献できる有能な看護師を育成する。

教育目標

１．生命・人権を学び、倫理観に基づいて判断･行動できる、心豊かな人間性を養う。

２．看護の対象を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた知識・技術・態度と、信頼される看護が実践できる基礎的能力を身につける。

３．東洋医学の理論・心・技を理解し、看護の対象を広く深く癒せる実践能力を養う。

４．保健・医療・福祉に関する理論及び社会の問題を「福祉学」と「心理学」の面から教育研究するとともに、福祉行政のあり方を考える能力を身につける。

５．看護の社会的役割を認識し、保健医療福祉チームの一員として、行動できる能力を養う。

６．専門職業人として成長・発達できるよう自己研鑽に努め、変動する社会のニーズに対応できる能力を養う。

７．国際社会の中で活躍する専門職業人である自覚をもち、広い視野で２１世紀の看護を創造する能力を養う。

教育方針の３つのポリシー

１．卒業認定・高度専門士付与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

看護学科では、所定の単位を修得し、以下の力を身につけた者に対して、卒業を認定し、高度専門士の称号を付与する。

１）生命・人権を学び、倫理観に基づいて判断･行動できる心豊かな人間性を身につけている。

２）看護の対象を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた知識・技術・態度と、信頼される看護が実践できる基礎的能力を修得している。

３）東洋医学の理論・心・技を理解し、看護の対象を深く癒せる実践能力を修得している。

４）保健・医療・福祉に関する理論及び社会の問題を「福祉学」と「心理学」の面から教育研究するとともに、福祉行政のあり方を考える能力を修得している。

５）看護の社会的役割を認識し、保健医療福祉チームの一員として行動できる能力を身につけている。

６）専門職業人として成長・発達できるよう自己研鑽に努め、変動する社会のニーズに対応できる能力を身につけている。

７）国際社会の中で活躍する専門職業人である自覚をもち、広い視野で２１世紀の看護を創造する能力を身につけている。

２．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

看護学科では、卒業認定・高度専門士付与の方針を実現するため、看護教育内容を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の５つの分野に分け、段階的、系統的に教育できるように各分野に必要な科目を配置している。

１）基礎分野

看護に必要な科学的思考及びコミュニケーション等について学び、感受性豊かで、主体的に判断し行動できる能力を養う。国際化及び情報化へ対応しうる能力、さらに看護の特性から、人権意識の普及・高揚が図れるよう、専門基礎分野及び専門分野の基礎となる科目を設定する。

２）専門基礎分野

看護学を学ぶ上での基礎的知識や、密接に関連する領域を学ぶ分野として位置づけた。人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を強化するため、人間の身体のつくりや働きを、看護の視点である生活と結びつけるよう設定した。さらに、人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるための科目を設定した。

３）専門分野Ⅰ

看護学の土台として、専門分野Ⅱ・統合分野に共通する概念・理論・技術を学ぶよう位置づけた。各看護学及び在宅看護論の基盤となる基礎的な理論や方法を学ぶために演習を含み、コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化する内容とし、看護師として倫理

的な判断をするための基礎的能力を養う科目を設定した。

４）専門分野Ⅱ

臨床実践能力の向上を図るため、演習を強化した内容とし、各看護学においては、看護の対象及び目的の理解、予防、健康の回復、保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ内容とした。老年看護学・小児看護学･精神看護学については各４単位、成人看護学は６単位で設定した。各看護学は概論･方法論として授業展開する。方法論Ⅰ･Ⅱ･Ⅲは、原則として援助論・病態・演習のまとまりで教授するが、成人看護学・母性看護学については、看護対象の特徴を踏まえた内容で教授する。

５）統合分野

在宅看護論・看護の統合と実践の２つで構成した。基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱまでに学習した内容の知識や技術を全て統合し、卒業後、臨床現場にスムーズに適応できるようにとの意図をもって、一般病床あるいは在宅現場で、実務に近い看護の内容や方法を学ぶ分野として位置づけた。

３．入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

看護学科では、卒業認定・高度専門士付与の方針を実現するため、以下の素養を有する人材を求める。

◎本校が求める人材像

1. 医療専門職としての夢を持ち、前向きに努力する人
2. 愛情を持って人に接し、協調性のある人
3. 人の役に立ちたいとの思いを実現する志のある人

◎看護学科の求める人材像

人が好きで細やかな心づかいと集中力が発揮でき、自ら積極的に学ぶ意欲のある人。また、学士の称号を持つ看護師として将来専門領域でのキャリアアップを目指す人。

学修成果の評価方針（アセスメントポリシー：ASP）

１．教育理念に基づく評価方針

本校では教育理念に基づく各学科で定める「卒業認定・称号付与の方針」（ディプロマ・ポリシー：ＤＰ）で示された教育目標の到達度の把握、卒業認定・称号付与の方針、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー：ＣＰ）並びに「入学者受け入れの方針」（アドミッション・ポリシー：ＡＰ）の三つのポリシーに基づき、機関レベル（学校）、教育課程レベル（学科）及び科目レベル（授業・科目）の３段階で、学修成果の把握・評価を査定する方針を定める。

１）機関レベル

学生の志望進路（就職率、資格・免許を活かした専門領域への就業率及び進学率等）から、学修成果の達成状況を査定する。

２）教育課程レベル

学科の所定の教育課程における資格・免許の取得状況及び卒業要件の達成状況（単位取得状況・GPA）から、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を査定する。

３）科目レベル

シラバスで提示された授業等科目の学修目標に対する評価及び学生による授業評価等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を査定する。

２．科目レベル及び教育課程レベルの学修成果の評価

本校は、科目レベル及び教育課程レベルの学修成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準及び評価の実施方法を、「四国医療専門学校学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）」を踏まえて、次のように定める。

１）目的

（１）各学科のディプロマ・ポリシーに定める「学生が身につけるべき能力」に関する学修成果の把握・評価を行う。

（２）学修成果を把握・評価することで、学生自らが、学修目標を持ち、PDCA に取り組み、学修到達度を把握し、学生が自らの成長を実感できるようにする。

（３）学修成果を把握・評価することで、授業科目担当者及び学科としての教育の改善・向上に取り組み、教育の質を保証する。

（４）学修成果の把握・評価に関する情報を公開することにより、社会への説明責任を果たす。

２）達成すべき質的水準

（１）授業科目の成績評価については、本校学則第３２条に定められた評価基準によるものとし授業科目について、達成すべき質的水準を成績評価の「可」（GP の「１」）以上とする。

成績評価	GP
秀（９０～１００点）	４
優（８０～８９点）	３
良（７０～７９点）	２
可（６０～６９点）	１
不可（５９点以下）	０

（２）修得単位数については、学年ごとに達成すべき質的水準として、本校学則第３６条（履修規程第４条第１項）に定められた単位の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とする。

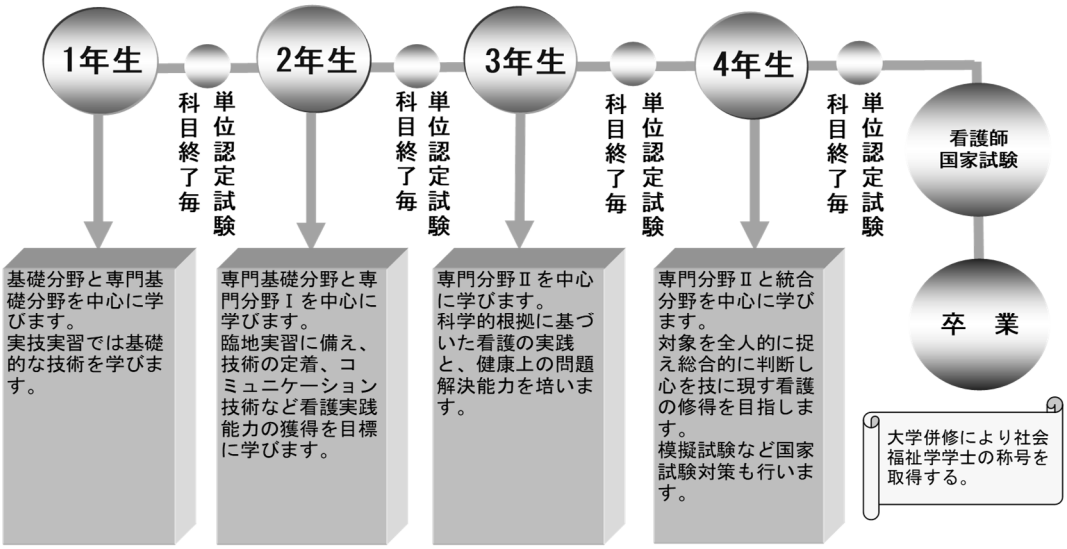
（３）卒業認定について、達成すべき質的水準として、本校学則第３７条（履修規程第４条第２項）に定められた出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とする。

（４）その他、達成すべき質的水準として、各学科が定めるディプロマ・ポリシーを用いる。

３）評価の実施方法

区分	入学前（入学直後） アドミッション・ポリシー	在学中 カリキュラム・ポリシー	卒業時 ディプロマ・ポリシー
機関レベル	・入学試験 ・進路決定に関するアンケート	・各科目の成績（GPA） ・退学率、休学率	・卒業率 ・就職・進学率 ・卒業時アンケート
教育課程レベル		・各科目の成績（GPA） ・退学率、休学率 ・授業評価	・卒業率 ・就職・進学率 ・卒業時アンケート
科目レベル		・各科目の成績（GPA） ・授業評価	

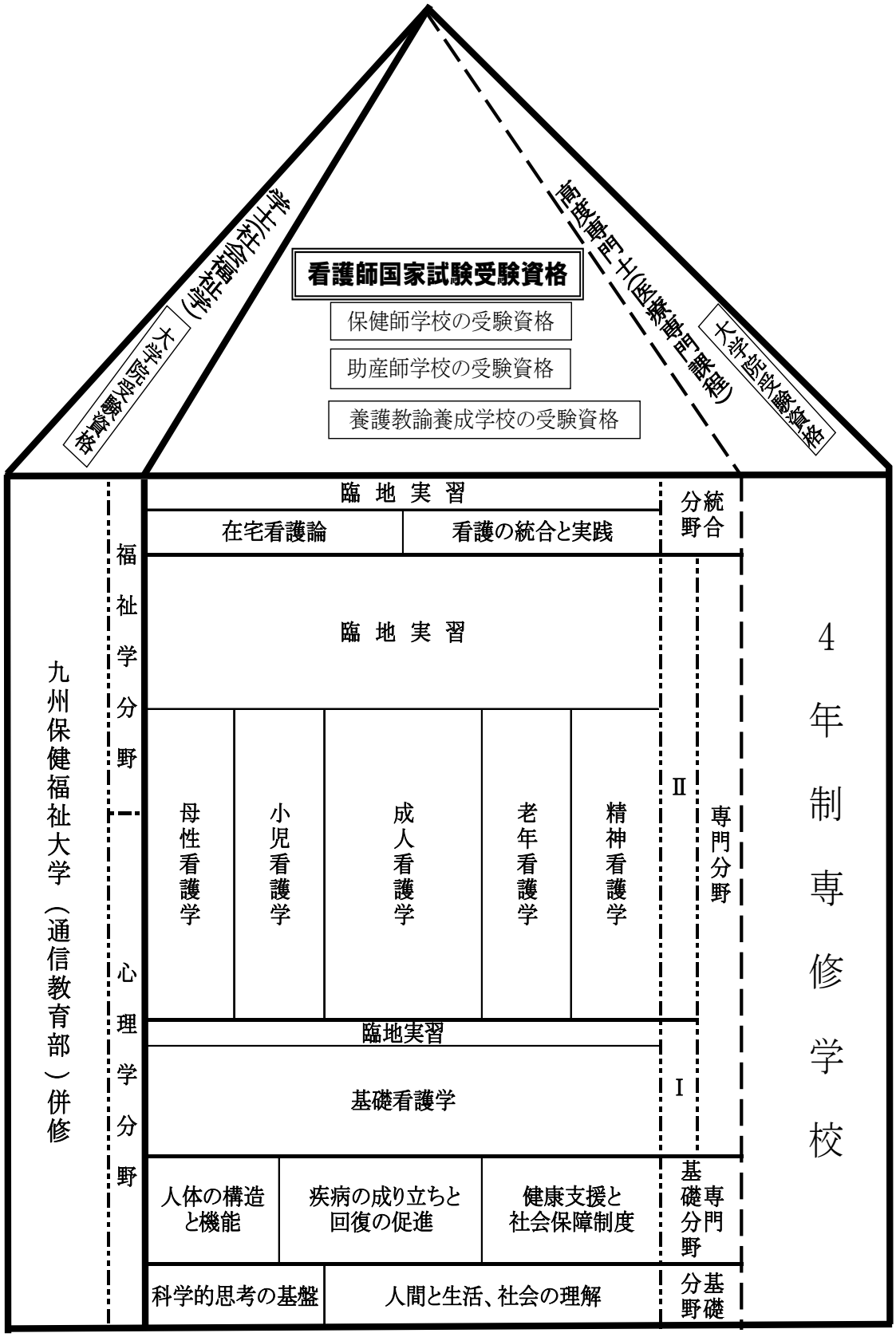
カリキュラムマップ



カリキュラム

基礎分野	「人間とは」を深く理解し、広い知識と豊かな感性、創造力を培います。 科学的、論理的な考え方を体得し、国際化及び情報化へ対応できる能力を養っていきます。
専門基礎分野	看護学を学ぶ上での基礎的知識や、密接に関連する領域を学びます。 健康・疾病・障害に関する観察力・判断力を強化するため人体を系統だてて理解し、看護の視点である生活と結びつけて学習します。
専門分野Ⅰ	各看護学及び在宅看護論の基盤となる基礎的な理論や技術を学びます。
専門分野Ⅱ	各看護学の対象や目的を理解します。 疾病や障害を持つ人に対する看護の方法を学習します。 臨床実践能力の向上を図るため、演習を強化します。
統合分野	「在宅看護論」と「看護の統合と実践」から構成しています。 これまで学習した内容の知識や技術を全て統合し、卒業後、臨床現場にスムースに適応できるように実務に近い環境で実践能力を養っていきます。

教育概念図


看護師国家試験受験資格
保健師学校の受験資格
助産師学校の受験資格
養護教諭養成学校の受験資格
大学院修了資格
大学院修了資格
看護士(准看護士)
高度専門士(医療専門課程)
臨 地 実 習
在宅看護論
看護の統合と実践
統合分野
臨 地 実 習
母性看護学
小児看護学
成人看護学
老年看護学
精神看護学
Ⅱ
専門分野
臨地実習
基礎看護学
Ⅰ
人体の構造と機能
疾病の成り立ちと回復の促進
健康支援と社会保障制度
専門基礎分野
科学的思考の基盤
人間と生活、社会の理解
基礎分野
福祉学分野
心理学分野
九州保健福祉大学（通信教育部）併修
4年制専修学校

カリキュラム

分野	科目名			単位数	時間	履修年次															
						第1学年				第2学年				第3学年				第4学年			
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
						単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	自然科学系	物理学	1	15	1	15														
			生物学	1	15	1	15														
			化学	1	15	1	15														
			情報科学	1	15	1	15														
			情報科学演習	1	30			1	30												
			生涯スポーツ論	1	30	1	30														
	人間と生活、社会の理解	人文・社会科学	哲学	1	15	1	15														
			人間関係論	1	15	1	15														
			死生論	1	15							1	15								
			家族社会学	1	30					1	30										
			発達心理学	1	15					1	15										
		コンプリメンタリーセラピー	日本語表現法	1	30			1	30												
			文化人類学	1	30			1	30												
			臨床心理学	1	30									1	30						
			笑いと医療	1	15											1	15				
			音楽療法	1	15							1	15								
			健康科学論	1	15	1	15														
		外国語	英語Ⅰ	1	30	1	15		15												
			英語Ⅱ	1	30					1	15		15								
			英語Ⅲ	1	30									1	15		15				
			英語Ⅳ	1	30															1	30
			*中国語	＊1	＊15															＊1	＊15
		＊教育学	*教育心理学	＊1	＊15					＊1	＊15										
			*教育原理	＊1	＊15					＊1	＊15										
			*教育評価	＊1	＊15					＊1	＊15										
			*教育方法論Ⅰ	＊1	＊15							＊1	＊15								
			*教育方法論Ⅱ	＊1	＊30															＊1	＊30
基礎分野 合計				21	465	9	150	3	105	3	60	2	45	2	45	1	30	0	0	1	30
基礎分野 （＊選択含め） 合計				＊27	570	9	150	3	105	＊6	＊105	＊3	＊60	2	45	1	30	0	0	＊3	＊75
専門基礎分野	人体の構造と機能		解剖生理学Ⅰ	1	30	1	30														
			解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30														
			病理学	1	30			1	30												
			生化学	1	30			1	30												
	疾病の成り立ちと回復の促進		微生物学	1	30			1	30												
			疾病と治療Ⅰ	1	15			1	15												
			疾病と治療Ⅱ	1	15			1	15												
			疾病と治療Ⅲ	1	15					1	15										
			疾病と治療Ⅳ	1	15									1	15						
			疾病と治療Ⅴ	1	15							1	15								
			疾病と治療Ⅵ	1	15			1	15												
			疾病と治療Ⅶ	1	15			1	15												
			疾病と治療Ⅷ	1	15			1	15												
			疾病と治療Ⅸ	1	15			1	15												
			リハビリテーション医学	1	15							1	15								
			薬理学・薬物療法	1	30	1	30														
			栄養学・食事療法	1	30			1	30												
			臨床検査学	1	15			1	15												
	健康支援と社会保障制度		医療経済論	1	15															1	15
			医療行政論（関係法規）	1	15							1	15								
			公衆衛生学	1	30					1	30										
			社会福祉概論	1	15	1	15														
			地域福祉論	1	15											1	15				
			東洋医学	1	30									1	30						
			リラクゼーション方法論	1	30									1	30						
専門基礎分野 合計				25	525	4	105	11	225	2	45	3	45	3	75	1	15	0	0	1	15

分野	科目名		単位数	時間	履修年次 第1学年 前期 単位数	時間	第1学年 後期 単位数	時間	第2学年 前期 単位数	時間	第2学年 後期 単位数	時間	第3学年 前期 単位数	時間	第3学年 後期 単位数	時間	第4学年 前期 単位数	時間	第4学年 後期 単位数	時間
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30														
		看護理論	1	30							1	30								
		医療と看護倫理	1	30	1	30														
		基礎看護方法論Ⅰ	2	60	1	30	1	30												
		基礎看護方法論Ⅱ	2	60					1	30	1	30								
		基礎看護方法論Ⅲ	2	60					1	30	1	30								
		基礎看護方法論Ⅳ	1	30					1	30										
		基礎看護援助論Ⅰ	2	60	1	30	1	30												
		基礎看護援助論Ⅱ	2	60	1	30	1	30												
		基礎看護援助論Ⅲ	1	30	1	30														
		看護研究Ⅰ	1	30							1	30								
		看護研究Ⅱ	1	30															1	30
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45			1	45												
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90							2	90								
専門分野Ⅰ 合計			20	645	6	180	4	135	3	90	6	210			0		0	0	1	30
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30					1	30										
		成人看護方法論Ⅰ	1	30					1	30										
		成人看護方法論Ⅱ	1	30									1	30						
		成人看護方法論Ⅲ	1	15									1	15						
		成人看護方法論Ⅳ	1	30							1	30								
		成人看護方法論Ⅴ	1	30									1	30						
	老年看護学	老年看護学概論	1	15					1	15										
		老年看護方法論Ⅰ	1	30					1	30										
		老年看護方法論Ⅱ	1	30							1	30								
		老年看護方法論Ⅲ	1	30							1	30								
	小児看護学	小児看護学概論	1	15					1	15										
		小児看護方法論Ⅰ	1	15					1	15										
		小児看護方法論Ⅱ	1	30									1	30						
		小児看護方法論Ⅲ	1	30									1	30						
	母性看護学	母性看護学概論	1	15					1	15										
		母性看護方法論Ⅰ	1	15							1	15								
		母性看護方法論Ⅱ	1	30									1	30						
		母性看護方法論Ⅲ	1	30									1	30						
	精神看護学	精神看護学概論	1	15					1	15										
		精神看護方法論Ⅰ	1	30					1	30										
		精神看護方法論Ⅱ	1	30									1	30						
		精神看護方法論Ⅲ	1	30									1	30						
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90											2	90				
		成人看護学実習Ⅱ	2	90											2	90				
		成人看護学実習Ⅲ	2	90													2	90		
		成人看護学実習Ⅳ	2	90													2	90		
		老年看護学実習Ⅰ	2	90											2	90				
		老年看護学実習Ⅱ	2	90													2	90		
		小児看護学実習Ⅰ	1	45							1	45								
		小児看護学実習Ⅱ	2	90													2	90		
		母性看護学実習	2	90											2	90				
		精神看護学実習	2	90											2	90				
専門分野Ⅱ 合計			41	1410					9	195	5	150	9	255	10	450	8	360		
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	30					1	30										
		在宅看護方法論Ⅰ	1	15							1	15								
		在宅看護方法論Ⅱ	1	30									1	30						
		在宅看護方法論Ⅲ	1	30									1	30						
	看護の統合と実践	高度先駆的看護	1	15															1	15
		医療安全管理	1	15															1	15
		国際看護学	1	15															1	15
		看護管理	1	15															1	15
		災害看護学	1	15															1	15
		救急看護	1	15															1	15
		看護情報システム論	1	15															1	15
		看護ゼミナール	1	15															1	15
		看護政策論	1	15															1	15
		クリティカルシンキングⅠ	1	15											1	15				
		クリティカルシンキングⅡ	1	15													1	15		
		総合演習	2	60															2	60
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90													2	90		
		統合実習	2	90															2	90
統合分野 合計			21	510					1	30	1	15	2	60			3	105	13	285
総合計			128	3555	19	435	18	465	18	420	17	465	16	435	13	510	11	465	16	360
					37		900		35		885		29		945		27		825	
総合計（選択を含む）			134	3660	19	435	18	465	21	465	18	480	16	435	13	510	11	465	18	405
					37		900		39		945		29		945		29		870	

＊ 印は 選択科目　　＊ 印 選択科目を含め 134単位 3660時間　　行事時間182時間を入れて 3842時間

臨地実習については下記のように計画している。

臨地実習計画表

学年	領域	単位・時間	実習施設
１年次	基礎看護学実習Ⅰ	1単位　45時間	KKR 高松病院 坂出市立病院 屋島総合病院 香川労災病院
２年次	基礎看護学実習Ⅱ	2単位　90時間	
	小児看護学実習Ⅰ	1単位　45時間	わかくさ保育園・わかくさ北保育園 育愛館
３年次 ４年次	成人看護学実習	8単位　360時間	KKR 高松病院 坂出市立病院 屋島総合病院 香川労災病院
	老年看護学実習	4単位　180時間	西香川病院・KKR 高松病院 坂出市立病院・屋島総合病院 香川労災病院・いきいき荘 坂出聖マルチン病院・聖マルチンの園
	小児看護学実習Ⅱ	2単位　90時間	坂出市立病院
	母性看護学実習	2単位　90時間	四国こどもとおとなの医療センター 屋島総合病院・香川労災病院
	精神看護学実習	2単位　90時間	県立丸亀病院・三船病院
	在宅看護論実習	2単位　90時間	坂出市立病院 宇多津町保健センター 訪問看護ステーションひかり 訪問看護　だん 中讃保健福祉事務所・いきいき荘
	統合実習	2単位　90時間	KKR 高松病院・坂出市立病院 屋島総合病院・香川労災病院
計		26単位　1170時間	

履修規程

この規程は、入学してから卒業するまでの学生の履修について、学則、その他の細則を補足しながら特に注意しなければならない事項を規定する。

Ⅰ．学事について

１．学年

授業は、学事暦に従って行われる。

学年は、４月１日から翌年３月３１日までで、これを前期と後期の２期に分ける。

２．学期

学年の学期は､次のとおりであるが､学校長は､必要によりこれを変更することができる。

前期・・・　４月１日から　　９月３０日まで。

後期・・・１０月１日から　翌年　３月３１日まで。

３．休業日

本学科の休業日は、次のとおりとする。

（１）　日曜日、土曜日

（２）　国民の祝日に関する法律に規定されている日

（３）　創立記念日（１０月２５日）

（４）　夏・冬・春季休業日

① ただし、学校長が必要と認めるときは休業日であっても授業または試験を行なうことができる。

② 荒天時の対応

鍼灸マ学科、鍼灸学科１部、柔道整復学科１部、理学療法学科、作業療法学科、看護学科	荒天のため、宇多津町または丸亀市に「特別警報」「暴風警報」が午前７時００分に発令されている場合は通学待機とし、午前１０時００分においても継続されている場合はその日は臨時休校とする。午前１０時００分までに解除された場合は、午後の授業は実施する。
鍼灸学科２部､柔道整復学科２部、スポーツ医療学科	午後３時３０分に発令されている場合は通学待機とし、午後４時３０分においても継続されている場合はその日は臨時休校とする。

③ 授業中に「特別警報」「暴風警報」が発令された場合や、公共交通機関（ＪＲ等）に運休等の支障が生じるような場合には、教育活動を中止し下校させることがある。

④ 上記による対応を原則とするが、暴風警報以外の気象警報が発令された場合も含め、その状況により学校長が別途判断することがある。

４．授業及び時限

（１） 授業は、単位制度に基づいて行なわれ、講義、演習、実習、臨床実習及び臨地実習があり、他に学生が出席を求められるものに、特別講義、補習、学校行事がある。

（２） 授業は、１時限９０分を原則とし、講義は、１時間を４５分、臨床実習及び臨地実習は、同６０分とする。

授業時間の区分は、以下のとおりである。

区分	１　部				２　部		
時　限	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
時　間	９：００ ↓ １０：３０	１０：４０ ↓ １２：１０	１３：００ ↓ １４：３０	１４：４０ ↓ １６：１０	１７：５５ ↓ １８：４０	１８：５０ ↓ ２０：２０	２０：３０ ↓ ２２：００

① 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科の臨床実習は、修業時間（１部１０：４０～１６：１０　２部１７：５５～２２：００）以外及び休業日に行う。

（３） 休講・補習・特別講義・学校行事

① 休講及び時間割の変更

学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割の変更を行うことがある。これについては、掲示板により通知する。

② 補習及び特別講義

授業時間が必要時間数に満たない場合には、補習を行うことがある。また、学校長が必要と認めた場合には特別講義を行うことがある。これらについても掲示板により通知する。

③ 球技大会、体育祭などの学校行事には、学生の健康増進、学生間の親睦のために出席が求められる。

Ⅱ．出席、補講、休学、退学、転部及び在籍期間などについて

１．出席すべき日数

学年の学期期間で上記休業日以外は、出席しなければならない。

２．授業の出席

（１） 講義、演習は、授業時間数の３分の２以上の出席が必要である。

（２） 実技、実習、臨床実習及び臨地実習は、原則として必ず出席しなければならない。

① 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科の実技、実習、臨床実習、補習授業及び特別授業には、原則として必ず出席しなければならない。止むを得ない理由での欠課は、５分の１の範囲で認めることがある。

② 柔道整復学科の実技、実習及び臨床実習において、やむを得ない理由での欠課は、５分の１の範囲で認めることがある。

③ 理学療法学科、作業療法学科の臨床実習において、やむを得ない理由での欠課は、５分の１の範囲で認めることがある。

④ 看護学科の臨地実習は、実習時間を満たさなければならない。

＜看護学科の臨地実習の履修について＞

基礎看護学実習Ⅰの単位取得をしていない者は、基礎看護学実習Ⅱを履修することはできない。

基礎看護学実習Ⅱの単位取得をしていない者は、専門分野別実習を履修することはできない。

ただし、小児看護学実習Ⅰについては、この限りでない。

また、専門分野別実習の単位取得をしていない者は、統合実習を履修することはできない。

⑤ スポーツ医療学科の実技、学内実習及び学外現場実習において、やむを得ない理由での欠課は、５分の１の範囲で認めることがある。

３．授業中の心得

（１） 講義・演習・実技・実習について

以下の項目を遵守し、真摯な態度で授業に臨まねばならない。

① 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。

② 授業中、体調の急変等やむを得ない理由による早退や、教員の指示等特別な事情のない限り、教室を退出しないこと。

③ 授業中の携帯電話・スマートフォン等は、必ず電源を切って鞄等に入れておくこと。また、授業以外でも節度を守って使用すること。

④ 授業中に飲食をしないこと（ガムを噛むことを含む）。また、授業中飲食物を机の上や床に置かないこと。

⑤ 私語や居眠りをしないこと。

⑥ 実技・実習科目受講の際は、実技にみあった服装（白衣・ジャージ、学校指定の靴）とし、化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめること。

⑦ 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科は、所定の道具も準備すること。

⑧ スポーツ医療学科は、学内実習の受講の際は、トレーニングウエア、運動シューズを着用し、学外現場実習時には、学校指定のウェア、ポロシャツ、運動シューズを着用すること。

（２） 臨床実習及び臨地実習について

病院などでの臨床実習及び臨地実習では、以下の項目を遵守し、真摯な態度で臨まねばならない。

① 病院と取り交わした提携書に従って行動する。

② 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。

③ 時間を厳守し、自己の存在をはっきりさせ、許可なく行動しない。事故については、すみやかに報告をする。

④ 実習中知り得た情報は、個人情報保護法に基づき取り扱い、他言してはならない。

⑤ 服装は清楚で、印象の良い身だしなみを心がける。化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめる。

⑥ 感染に注意し、また伝播者にならないよう感染予防の基本を病院のマニュアルにそって励行する。

⑦ 実習中の事故については、すみやかに実習指導者に報告し指示を受ける。

⑧ 臨床実習及び臨地実習の詳細については、学科毎に実習前のガイダンス時に説明する。

４．欠席、遅刻、早退及び欠課について

（１）欠席は、１日の授業を全て休んだ場合をいう。

（２）遅刻は、授業開始より３０分（２部の４５分授業については１５分）以内に入室した場合をいう。

（３）早退とは、授業時間の６０分（２部の４５分授業については３０分）以上出席し退出した場合をいう。

（４）欠課とは、出席時間が６０分（２部の４５分授業については３０分）に満たない場合をいう。

（５）遅刻、早退の欠課への換算については、遅刻、早退は欠課０．５回（２部の４５分授業における欠課は、欠課０．５回）と換算する。

（６）欠席、遅刻、早退及び欠課をするとき又はしたときは、それぞれの届を各学科の教務室に提出しなければならない。

５．補講について

（１）出席時間数がやむを得ない理由により、当該科目の定められた出席時間数に達しない者は、補講を受けなければならない。

① 鍼灸マッサージ学科は、講義、演習は３分の２、実技、実習、臨床実習は５分の４

② 鍼灸学科は、講義、演習は３分の２、実技、実習、臨床実習は５分の４

③ 柔道整復学科は、講義、演習は３分の２、実技、実習、臨床実習は５分の４

④ 理学療法学科は、講義、演習、実技、実習、は３分の２、臨床実習は５分の４

⑤ 作業療法学科は、講義、演習、実技、実習、は３分の２、臨床実習は５分の４

⑥ 看護学科は、講義、演習、実技、実習、は３分の２、臨地実習は５分の５

⑦ スポーツ医療学科は、講義、演習は３分の２、実技、実習、臨床実習は５分の４

（２）補講の受講は、不可抗力によるやむを得ない理由（気象状況等による公共交通機関のダイヤの乱れ、急病、交通事故等）のみとし、「補講受講許可願」とその証明書等を提出し、学校長が認めた場合に限る。

（３）補講が認められた場合は、追試験のみ受験できる（本試験は受験不可）。

（４）補講料は、　１０，０００円 ／ １時限（９０分）とする。ただし、感染症による出席停止や入院など、学校長が認めた場合は、補講料を減免することがある。

※看護学科の臨地実習の場合

① 再実習

各実習期間内で実習単位の取得が不可の者は、長期休暇等を利用して、再実習を受けることができる。

ただし、再実習料を添えて「再実習願」を提出しなければならない。実習を長期に欠席した者は、再実習に準ずる。

再実習料は、５，０００円/日とする。

② 補習実習

実習を欠席または欠課した者は、補習実習を受けることができる。

６．忌引期間

（１）忌引・出席停止は、欠課には含まれないが、それらを証明するもの（医師の診断書等）を必ず提出のこと。

提出がなされない場合は欠課とする。

（２）学生の親族の死去に伴う忌引の期間は、下記のとおりとする。

区分	続柄	期間	区分	続柄	期間
血族	配偶者	１０日	血族	おじ・おば	１日
	父母	７日		孫・曽祖父母	１日
	子供	７日	姻族	配偶者父母	３日
	祖父母	３日		配偶者祖父母	１日
	兄弟姉妹	３日		配偶者兄弟姉妹	１日

遠隔地の場合は、旅行日として学校長判断により２日以内の日数を認める場合がある。

７．感染症による出席停止

下記の表に規定する感染症の場合は、出席停止とする。出席停止期間は、学校保健安全法施行規則に定める期間､医師の診断書にある期間､若しくは学校医の判断に従うものとする。

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰かい白はく髄ずい炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属ＳＡＲＳコロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属ＭＥＲＳコロナウイルスであるものに限る。）及び特定鳥インフルエンザ（感染症法第６条第３項第６号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。） ※ 上記に加え、感染症法第６条第７項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第８項に規定する指定感染症、及び同条第９項に規定する新感染症は、第一種の感染症とみなされる。
第二種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）を除く）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱及び結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

＜出席停止期間の基準＞

（１）第一種の感染症にかかった者については、治癒するまでの期間とする。

（２）第二種の感染症（結核を除く）にかかった者については、次の期間とする。ただし、病状により学校医の他の医師において、感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。

① インフルエンザ及び新型インフルエンザ等： 発症した後５日を経過し、かつ、解熱した後２日を経過するまで。

② 百日咳： 特有の咳が消失するまで又は５日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。

③ 麻しん： 解熱した後３日を経過するまで。

④ 流行性耳下腺炎： 耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後５日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで。

⑤ 風しん： 発しんが消失するまで。

⑥ 水痘： すべての発しんが痂皮化するまで。

⑦ 咽頭結膜熱： 主要症状が消退した後２日を経過するまで。

⑧ 髄膜炎菌性髄膜炎： 症状により学校医等において感染のおそれがないと認めるまで。

（３） 結核及び第三種の感染症にかかった者については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

※出席停止期間の算定の考え方

「〇〇した後△日を経過するまで」とした場合は、「〇〇」という現象が見られた日の翌日を第１日として算定する。

例えば、「解熱した後２日を経過するまで」の場合、月曜日に解熱－火曜日（解熱後１日目）－水曜日（解熱後２日目）－この間発熱がない場合－木曜日から出席可能となる。

第二種の各出席停止期間は基準であり、症状により医師の診断により判断する。

８．休学

学生の休学については、学則第２２条に規定している。

９．復学

学生の復学については、学則第２４条に規定している。

原則、復学の時期は、年度の始めとする。

１０．退学

学生の退学については、学則第２５条に規定している。

１１．転部

学生の転部については学則第２９条に規定している。

※鍼灸学科と柔道整復学科のみが対象となる。

１２．在籍期間

学生の在籍期間は、下記の表の年数を超えることができない。

学　　科	在籍年数
鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科１部、鍼灸学科２部 柔道整復学科１部、柔道整復学科２部	６年
理学療法学科、作業療法学科、看護学科	８年
スポーツ医療学科	４年

Ⅲ．学業成績などについて

単位の認定は、履修した科目に出席し、受験資格を得たものに対して行われる。また、試験方法は、筆記試験が主であるが、授業科目によっては口頭、レポート、実技などによって行われる場合もある。

１．定期試験

学期末の試験を定期試験という。

（１）柔道整復学科では、前期及び後期のなかで、到達度確認試験を行うことができる。その評価は、定期試験の評価に加えることができる。

（２）看護学科とスポーツ医療学科においては、定期試験ではなく、授業科目の終了の都度試験が行われる。

２．受験資格

（１）講義、演習の受験資格

授業時間数の３分の２以上出席している者

（２）実技・実習の受験資格

授業時間数の５分の４以上出席している者

※理学療法学科、作業療法学科及び看護学科では、３分の２以上出席している者

（３）臨床実習及び臨地実習の成績判定資格

実習時間の５分の４以上の出席している者

※看護については、実習時間を満たす者

３．追試験

追試験については学則第３３条に規定している。

（１）感染症等やむを得ない理由により定期試験を欠席した者は、追試験を受けることができる。その場合は８０点を上限に採点される。

（２）追試験を受ける者は、受験料を添えて「追試験受験願」を期日までに当該学科長、学生総合窓口を経由のうえ学校長に提出し、許可を受けなければならない。

（３）受験料は、１科目あたり１，０００円とする。ただし感染症による追試験受験料は発生しない。

４．再試験

（１）定期試験の成績が合格点に達しない者は、再試験を受けることができる。その場合は６０点を上限に採点される。

（２）再試験を受ける者は、別に定める受験料を添えて「再試験受験願」を期日までに、当該学科長、学生総合窓口経由のうえ学校長に提出し、許可を受けなければならない。

（３）再試験は、基本的に１回限りとする。ただし、再試験においても合格しない者は、学科会議の協議により再度試験を行うことがある。

（４）受験料は、１科目あたり１，０００円とする。

５．試験にあたっての注意事項

（１）試験開始時刻に遅刻した者は、受験することができない。ただし、公共交通機関のダイヤの乱れ等による場合は遅延証明の提出を条件に、試験開始後１５分までの遅刻を認めることがある。

（２）受験に際しては、必ず学生証を携行すること。万一学生証を忘れてきた場合には、試験期間中に１回のみ、学生総合窓口にて、仮学生証の交付を受け代替とすることができる。仮学生証は、当該発行日のみ有効とする。

（３）試験開始後、原則、試験時間の半分を経過した後に退出することができる。ただし、一度退出した者は再び入室できない。

（４）試験中に不正行為をした者は、退場を命ずる。直ちに当該学期の受験資格が与えられず、すでに受験した科目も無効とする。

６．単位認定と単位取得

（１）講義、実習等に必要な時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において、６０点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。これを学校側からは、「単位認定」、学生側からは、「単位取得」という。

（２）講義、演習、実習、実技の成績は、以下のとおりである。

秀‥‥‥９０点以上

優‥‥‥８０点以上９０点未満

良‥‥‥７０点以上８０点未満

可‥‥‥６０点以上７０点未満

不可‥‥６０点未満

（３）臨床実習及び臨地実習の成績評価

実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記（２）のように最終評価する。

※理学療法学科と作業療法学科は、実習前後の評価を臨床実習の成績評価に含めて成績評価する。

（４）学業成績を総合的に評価するための基準

① 学業成績を総合的に評価するための基準として、GPA（Grade Point Average）を用いる。

② GPA は、学期ごとに算定する。

③ GPA の算定に当たっては、履修した各科目の評価に、GP（Grade Point）（以下「GP」という。）を割り当て、その平均を取ることとし、以下の数式により算定する。

$$\frac{\text{（履修登録した GPA 対象科目の GP×その科目の単位数）の合計}}{\text{履修登録した GPA 対象科目の単位数の合計}}$$

④ GPA の対象科目は、学則別表（１～７）に定める授業科目のうち、成績評価で示すことのできる授業科目とする。

⑤ GP の割当てについては、学則第３２条に定める試験の評価（以下「成績評価」という。）に応じて、次表に定める GP を割り当てる。

成績評価	GP
秀（９０～１００点）	４
優（８０～８９点）	３
良（７０～７９点）	２
可（６０～６９点）	１
不可（５９点以下）	０

（５）成績の通知

学生の成績結果は、前期、後期それぞれの成績集計後に、連帯保証人に郵送する。

Ⅳ．進級、卒業の認定について

１．進級認定

進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を取得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。

２．卒業認定

卒業認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。

Ⅴ．褒賞

学生の褒賞については学則第４０条に規定している。

Ⅵ．懲戒

学生の懲戒については学則第４１条に規定している。

Ⅶ．除籍

学生の除籍については学則第２６条に規定している。

Ⅷ. その他留意事項

１．休講・授業時間割等の変更

学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割を変更する場合がある。これについては掲示板により通知する。

２．掲示による通知、連絡について

学校からの学生への連絡は、原則として全て掲示で通知する。

緊急の場合もありえるので、必ず朝夕の２回は各掲示板を見るようにしておくこと。また、掲示板の見落としに起因する責任は学校側にはないので、特に注意しておくこと。

３．提出物について

各種申請書、レポート、その他当該学科教務及び学校事務局学務部学生総合窓口から学生に提出物を求められたときは、必ず定められた期限内に提出しなければならない。

４．不明な点は、当該学科教員及び学校事務局学務部学生相談窓口に問合せた上で、十分理解するように努めること。

５．大学併修について

本校では、看護学科は必須にて、理学療法学科及び作業療法学科は任意にて、九州保健福祉大学通信教育部と教育提携契約を締結している。履修方法等については、別に定める。

６．ここに定めない事項については、学校長の指示に従うものとする。

附　　則

この履修規程は、学則、その他の細則に基づき、令和３年４月１日から施行する。

施行後の規程は、令和３年４月１日以降の入学生に適用し、令和３年３月３１日以前の入学生については、各種届出及び申請様式以外は、なお従前の規程による。

大学併修制度

大学を卒業する為には、最低１２４単位以上の修得単位が必要です。本校看護学科では、九州保健福祉大学との教育提携により本校を卒業した時点で、最大６０単位が包括認定されるため、残り６４単位以上を４年間で修得すれば「学士」の称号及び「社会福祉主事任用資格」が取得されます。なお、修得すべき６４単位のうち４年間で２３単位以上はスクーリングもしくはメディアによる単位を修得しなければなりません。

本校に入学する前に他の大学（短期大学）を卒業したものに対しては、大学の通信教育の全部または一部の履修を免除することがあります。

１．　学生の種類

通信教育で学ぶにあたり、本校は九州保健福祉大学通信教育部社会福祉学部臨床福祉学科正科生として入学手続をとります。

※なお、通信教育における学生には次の２種類があります。

正科生	大学卒業資格取得を目的とする。
科目履修生	満 18 歳以上で、大学卒業資格取得を目的としない、希望科目のみを履修する。
特別履修生	満 18 歳以上で、大学入学資格をもたない者が、正科生としての入学資格を取得するための制度

２．　入学時期と出願期間

入学時期は春期入学となります。

本学合格と同時に大学の出願手続きを取ります。

３．　選考方法

入学試験（書類審査等）を行い、入学志願書の志望理由および、その他出願書類により九州保健福祉大学で総合的に選考され、出願期間の最終受付日から１週間後に合否通知が郵送されます。合格者には入学手続に必要な書類（入学手続・学費などの振込み依頼書）が同封されます。

４．　カリキュラム

通信教育部社会福祉学部臨床福祉学科のカリキュラムは別表に示すとおりです。

４．　カリキュラム(別表)

２０２１年度入学生（例）

四国医療専門学校看護学科九州保健福祉大学履修科目

大学卒業学位・社会福祉主事　／　看護教員（希望選択）

T:テキスト　S:スクーリング（面接授業）　M：メディア　TM：テキスト・メディア併用

TS:テキスト・スクーリング併用（S/Mは２３単位以上の取得が必要）

大学卒業学位	社会福祉主事	教員資格	学年	科目名	単位数	授業形態	T	S	M	合計
4	4	4	1	哲学	4	TM	2		2	4
4	4	4		心理学と心理学的支援	4	TM	2		2	4
				生物学	4	T	4			4
4	4	4		情報処理入門	4	TM	2		2	4
2	2	2		総合福祉研究Ⅰ	2	S		2		2
2	2	2		社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	S		2		2
2	2	2		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	T	2			2
2	2	2		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	T	2			2
2	2	2		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	T	2			2
2	2	2		芸術療法入門	2	T	2			2
2	2	2		カウンセリング総論	2	S		2		2
26	**26**	**26**		**計**	**30**		**18**	**6**	**6**	**30**
2	2	2	2	総合福祉研究Ⅱ	2	S		2		2
2	2	2		医学概論	2	T	2			2
2	2	2		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	T	2			2
4	4	4		介護概論	4	T	4			4
4	4	4		ソーシャルワーク演習Ⅰ	4	T	4			4
4	4	4		ソーシャルワーク演習Ⅱ	4	TS	3	1		4
2	2	2		※教育心理学	2	M			2	2
4	4	4		心理療法	4	TS	2	2		4
2	2	2		カウンセリング各論	2	S		2		2
		2		※教育原論	2	T	2			2
		2		※教育課程論	2	T	2			2
26	**26**	**30**		**計**	**30**		**21**	**7**	**2**	**30**
2	2	2	3	障害者福祉	2	T	2			2
2	2	2		貧困に対する支援	2	T	2			2
4	4	4		ソーシャルワーク演習Ⅲ	4	TS	2	2		4
4	4	4		芸術療法演習	4	TS	2	2		4
		2		※教育方法論	2	T	2			2
12	**12**	**14**		**計**	**14**		**10**	**4**	**0**	**14**
			4	3年次までに64単位修得できなかった学生のみ履修登録						
64	**64**	**70**		**合計**	**74**		**49**	**17**	**8**	**74**

看護教員資格に必要な科目：教育原論・教育課程論・教育方法論・教育心理学は卒業に必要な単位として認定されていません。

５．　学習を始めるにあたって

入学手続・学費等納入後「履修届」等を記入し郵送・提出することにより、主教材（履修する科目のテキスト・資料）が配布され学習開始となります。

九州保健福祉大学通信教育部では、次の４つの授業形態があります。

１）テキスト科目（印刷授業）

テキスト教材を主として自己学習を随時進めていく科目です。自己学習の段階的な成果を見せるために、原則として２単位につき１回の添削課題が義務付けられ、この添削課題を提出し合格しなければ、最終的な科目単位認定試験を受けることができません。科目によっては添削課題の他にレポートなどを求められる場合もあります。添削課題の締め切り・課題返却日・科目単位認定試験は九州保健福祉大学より郵送された日程表に従い、申込書を指定期日までに提出することにより受験ができます。

科目単位認定試験は春季・夏季・秋季・冬季の４回実施されます。つまり、テキスト科目については、年に４回の受験機会があります。試験は、択一式・レポートなどがあり、九州保健福祉大学で定められています。１日１科目４５分８科目まで受験可能です。成績についても九州保健福祉大学の定めによります。会場はスクーリング会場と同一会場となっていますが、本校については、提携校であるため、本校で受験することができ、この科目単位認定試験に合格することで科目の修了が認められます。

２）スクーリング科目（面接授業）

スクーリングの場所・日程は九州保健福祉大学より郵送された日程表に従い、申込書を指定期日までに提出することにより受講ができます。

スクール、つまり学校で授業を受ける科目になり、スクーリング科目２単位につき３日間の集中的な講義が実施されます。原則１科目３日間です。本校はスクーリング会場を岡山会場または本校会場で実施しています。スクーリングの最終講義時間には認定試験が実施されます。科目によってはスクーリング終了後にレポートを提出する場合もあります。これらの試験やレポートに合格することで、その科目の修了となります。

３）テキスト・スクーリング科目（併用授業）

テキストによる授業とスクーリング授業を組み合わせることで、より効果的な理解と実践能力を身につける授業形態です。テキスト部分およびスクーリング部分の２回の認定試験を受験し、両方に合格しなければなりません。

４）テキスト・メディア科目（併用授業）

メディア授業は、インターネット、あるいはCD-Rを利用して、先生の講義を聞きながら進めていくことになります。本校は視聴覚教室に設置されているパソコンをインターネットにアクセスして学習することもできます。講義は自宅のパソコンでも毎日順番に少しずつ見ていくこともできます。科目修了のためには、テキスト部分の科目認定試験に合格するとともに、メディア部分のレポートにも合格しなければなりません。

通信教育は家庭学習が主ですが、学生の負担を軽減するために、時間割の中にも組み込んでいます。

５）科目履修期間

科目履修期間は１年間です。「不合格」となった場合は、履修料が再度必要となります。在学期間は単位取得するまで科目認定試験を何度でも受験可能となります。

６）納付金

提携校のため次の下記のとおり納付金の一部が免除されます。

	入学検定料	入学金	科目登録料	授業料	スクーリング履修料	メディア履修料	CD－R教材費
提携校	10，000	免除	免除	124,000/年間	4,500/１単位	4,500/１単位	3,000/１科目

＊ CD-R 教材費はメディア科目を CD-R で受講する場合にのみ必要となります。

＊ ４年間で約618,500円です。スクーリングは本校で実施されます。本校で受講できない場合の交通費・宿泊費等は個人負担となります。

＊ 納付時期等については、九州保健福祉大学の指定する日までに、指定の方法にて納付してください。

７）資格等

①学士（社会福祉学）の学位

②社会福祉主事(任用資格)

社会福祉主事(任用資格)は、各種行政機関で保護・援助を必要とする人のために、相談・指導・援助の業務をおこなう専門家であり、所定の単位を取得することで資格を得ることができます。任用資格なので、公務員などに採用され、実際に業務についた場合に限り初めて名乗ることのできる資格ですが、昨今では、社会福祉施設職員や民間企業(福祉系)での採用基準として準用されるケースもあります。

③看護師養成所における看護教員の資格（希望選択）

大学在学中に教員課程科目を追加履修し合格したものは、看護師養成所看護教員の資格を取得できます。

８）学生相談

学習に関する事柄や事務手続きなどの相談事については随時受け付けております。

学事暦

前期

	月		火		水		木		金		土		日		
2021年 4月							1		2	入学式	3		4	春季休業終了	4月
	5	始業／新入生歓迎会	6	入学時教育	7		8		9		10		11		
	12	臨地実習（4年）始	13	⇒	14	⇒	15	⇒	16	⇒	17		18		
	19	臨地実習（4年）	20	⇒	21	⇒	22	⇒	23	⇒ ／球技大会	24		25		
	26	臨地実習（4年）	27	⇒	28	⇒	29	昭和の日	30	臨地実習（4年）終					
5月											1		2		5月
	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	臨地実習（4年）始	7	⇒	8		9	大学科目単位認定試験	
	10	臨地実習（4年）	11	⇒	12	⇒／献花祭	13	⇒	14	⇒	15		16		
	17	臨地実習（4年）	18	⇒	19	⇒	20	⇒ ／大島青松園見学（2年）	21	臨地実習（4年）終	22		23		
	24	臨地実習（4年）始	25	⇒	26	⇒／自治総会	27	⇒	28	⇒	29		30		
	31														
6月			1	⇒	2	⇒	3	⇒	4	⇒ ／研修（1年）	5		6		6月
	7	臨地実習（4年）	8	⇒	9	⇒	10	⇒	11	臨地実習（4年）終	12		13		
	14	臨地実習（4年）始	15	⇒	16	⇒	17	⇒	18	⇒	19		20		
	21	臨地実習（4年）	22	⇒	23	⇒	24	⇒	25	⇒	26		27		
	28	臨地実習（4年）	29	⇒	30										
7月							1	⇒	2	臨地実習（4年）終	3	学園祭	4		7月
	5	臨地実習（4年）始	6	⇒	7	⇒	8	⇒	9	⇒	10		11		
	12	臨地実習（4年）	13	⇒	14	⇒	15	⇒	16	⇒／スクーリング（1．2年） ／／夏季休業開始	17	スクーリング（1．2年）	18	スクーリング（1．2年）	
	19	臨地実習（4年） ／スクーリング（1．2．3年）	20	⇒ ／スクーリング（1．2．3年）	21	⇒／スクーリング（1．2．3年） ／臨地実習（4年）終	22	海の日	23	スポーツの日	24		25		
	26	スクーリング（1．2年）	27	スクーリング（1．2年）	28	スクーリング（1．2年）	29	スクーリング（2年）	30	スクーリング（2年）	31				
8月													1	大学科目単位認定試験	8月
	2	臨地実習（3年）始	3	⇒	4	⇒	5	⇒	6	⇒	7		8	山の日	
	9	休日	10	臨地実習（3年）	11	⇒	12	⇒	13	⇒	14		15		
	16	臨地実習（3年）	17	⇒	18	⇒	19	⇒	20	臨地実習（3年）終	21		22		
	23		24		25		26		27		28		29	夏季休業終了	
	30	臨地実習（3年）始	31	⇒											
9月					1	⇒	2	⇒	3	⇒	4		5		9月
	6	臨地実習（3年）	7	⇒	8	⇒	9	⇒	10	⇒	11		12		
	13	臨地実習（3年）	14	⇒	15	⇒	16	⇒	17	臨地実習（3年）終 ／体育祭	18		19		
	20	敬老の日	21	臨地実習（3年）始	22	⇒	23	秋分の日	24	⇒	25		26		
	27	臨地実習（3年）	28	⇒	29	⇒	30	⇒							
	月		火		水		木		金		土		日		

後期

	月		火		水		木		金		土		日		
10月									1	⇒	2		3		10月
	4	臨地実習(3年)	5	⇒	6	⇒	7	⇒	8	臨地実習(3年)終	9		10		
	11	臨地実習(3年)始	12	⇒	13	⇒	14	⇒	15	⇒ ／戴帽式	16		17		
	18	臨地実習(2年)始 臨地実習(3年)	19	⇒	20	⇒	21	⇒	22	臨地実習(2年)終 ⇒	23		24	創立記念日	
	25	創立記念日	26	臨地実習(3年)	27	⇒	28	⇒	29	臨地実習(3年)終	30		31		
11月	1	臨地実習(4年)始	2	⇒	3	文化の日	4	⇒	5	⇒	6		7		11月
	8	臨地実習(4年)	9	⇒	10	⇒	11	⇒	12	臨地実習(4年)終	13		14	大学科目単位認定試験	
	15	臨地実習(1年)始	16	⇒	17	⇒	18	⇒	19	⇒	20		21		
	22	臨地実習(1年)	23	勤労感謝の日	24	臨地実習(1年)終/ スクーリング(3年)	25	⇒ ／スクーリング(3年)	26	⇒ ／スクーリング(3年)	27		28		
	29		30												
12月					1		2		3		4		5		12月
	6	臨地実習(2．3年)始	7	⇒	8	⇒	9	⇒	10	⇒	11		12		
	13	臨地実習(2．3年)	14	⇒	15	⇒	16	⇒	17	⇒	18		19		
	20	冬季休業開始／ 臨地実習(2．3年)	21	⇒	22	⇒	23	⇒	24	臨地実習(2．3年)終	25		26		
	27		28		29		30		31						
2022年 1月											1	元日	2		1月
	3	休日	4	冬季休業終了	5	臨地実習(3年)始	6	⇒	7	⇒	8		9		
	10	成人の日	11	臨地実習(3年)	12	⇒	13	⇒	14	⇒	15		16		
	17	臨地実習(3年)	18	⇒／解剖見学実習	19	⇒	20	⇒	21	臨地実習(3年)終	22		23		
	24	臨地実習(3年)始	25	⇒／解剖見学実習	26	⇒	27	⇒	28	⇒	29		30		
	31	⇒													2月
2月			1	臨地実習(3年)	2	⇒	3	⇒	4	⇒	5		6	大学科目単位認定試験	
	7	臨地実習(3年)	8	⇒	9	⇒	10	臨地実習(3年)終	11	建国記念の日	12		13	看護師国家試験	
	14		15		16		17		18		19		20		
	21		22		23	天皇誕生日	24		25		26		27		
	28														
3月			1		2		3		4		5		6		3月
	7	臨地実習(3年)始 ／春季休業開始	8	⇒	9	⇒	10	⇒	11	⇒ ／卒業式	12		13		
	14	臨地実習(3年)	15	⇒	16	⇒	17	⇒	18	⇒	19		20		
	21	春分の日	22	⇒	23	⇒	24	⇒	25	臨地実習(3年)終	26		27		
	28		29		30		31								
	月		火		水		木		金		土		日		

注意事項　　学事暦の予定は変更する場合があります。その際は連絡します。

看護学科自治会会則

第一章　総則

第１条　　本会は四国医療専門学校看護学科自治会と称す。（以下、自治会という。）
第２条　　本会は四国医療専門学校の看護学科の全学生を正会員とする。
第３条　　本会は四国医療専門学校の看護学科の現教員を特別会員とする。

第二章　組織

第４条　　自治会に自治会本部会を置く。
（１）看護学科自治会顧問として教員を１名おく。

第三章　自治会本部会

第５条　　自治会本部会（以下、本部会という。）は、自治会活動に係る種々の問題等について協議および調整し、その活動が円滑にすすむよう支援する。
１．本部会は次の役員によって構成される。
１）自治会役員
（１）　会　　長　　１名
（２）　副 会 長　　２名
（３）　級　　長　　４名
（４）　書　　記　　２名
（５）　会　　計　　２名
（６）　会計監査　　１名
２）各種委員会
（１）　体育祭実行委員　　４名
（２）　学園祭実行委員　　４名
第６条　　本部会は次のことを行う。
１．会則の立案及び変更案の作成
２．予算案及び決算案の作成
３．学生会の議決事項の周知
４．その他
第７条　　本部会は、役員の２分の１以上の出席をもって成立する。
第８条　　本部会役員の任期は４月１日より３月３１日までの１年とする。
第９条　　本部会役員の選出を行う。
１．本部会役員のうち会長、副会長、書記、会計、会計監査、体育祭実行委員および学園祭実行委員については、第２学年より選出する。
２．級長は各学年のクラスから１名ずつ選出する。
第１０条　本部会役員の役割を定める。
１．会長は、本部会を代表し本部会の運営等について責任を有する。
２．副会長は、会長を補佐し必要に応じて会長の職務を代行する。
３．級長は本部会での決定事項を各クラスに周知する。
４．書記は、本部会の記録業務にあたり、議事録等の作成を行う。
５．会計は、本部会および自治会の会計業務にあたり、自治会総会において決算報告および会計報告を行う。
６．会計監査は、本部会および自治会の決算報告および会計報告の内容に虚偽の表示等がないことを確認し、自治会総会においてその結果を報告する。
７．体育祭実行委員は、体育祭の準備、運営を行う。
８．学園祭実行委員は、学園祭の準備、運営を行う。
９．顧問は自治会役員の相談役とする。
第１１条　自治会役員は第２学年の会員より選出する。

第四章　自治会総会

第１２条　自治会総会は毎年１回とし次の事項を審議する。
１．予算、決算
２．会則の改廃

３．その他必要な事項

第１３条　自治会総会は、正会員の２分の１以上の出席をもって成立する。

第１４条　やむをえない理由のため自治会総会に出席できない正会員は、他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

第五章　事業

第１５条　１年生の諸行事に関する事項（入学式準備・新入生歓迎会の企画・運営）

第１６条　２年生の諸行事に関する事項（成人を祝う会・戴帽式に関わる企画、運営・戴帽生への記念品、花束の準備）

但し対象学年になるので各クラスの級長に企画運営を委ねる。

第１７条　４年生の諸行事に関する事項（卒業生への記念品の準備・追い出しコンパ等の企画・運営）

但し追い出しコンパについては３年生級長に企画・運営を委ねる。

第１８条　学科行事に関する事項（献花祭に伴うボランティア活動・クリスマス会等の企画・運営）

第１９条　学生会主催行事に関する事項（球技大会・学園祭・体育祭等の企画運営に参加）

第六章　会計

第２０条　自治会の経費は会費及び、その他の収入によって充てる。

第２１条　自治会の会費は、自治会の活動目的を達成するために入学時に納入しなければならない。但し、留年生においては会計役員が直接徴収する。

１．看護学科自治会費　5,000 円×４年分

２．留年生会費　5,000 円×１年分

３．特別会員からの会費は徴収しない。

第２２条　自治会の会計は、一度納入すれば返却は認められない。

第２３条　自治会の決算は、毎会計年度終了後２ヶ月以内に本部会で行い、自治会総会において承認を得なければならない。

第２４条　自治会の予算割り当ては、毎年４月に本部会で立案し、総会において承認を得なければならない。

第２５条　当該会計年度の剰余金は次年次に繰り入れるものとする。

第七章　帳簿

第２６条　自治会に次の帳簿を置く。

１．自治会会則

２．各役員名簿

３．議事録

４．会計簿

５．備品台帳

６．その他

第八章　修正及び改正

第２７条　本会則の修正及び改正の動議は自治会員の３分の１以上の要求がある場合認められる。

第２８条　本会則の修正及び改正は、その動議が認められ、自治会総会出席者の３分の２の賛成がある場合可決される。

第九章　会員の権利及び義務

第２９条　自治会総会及び本部会において可決されたすべての事項に対して会員は忠実に実行する義務と責任を有する。

附　則

この看護学科自治会会則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則　　（平成２７年３月３１日一部改正）

この看護学科自治会会則は、平成２７年４月１日から施行する。

シ　ラ　バ　ス

物　理　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	伊藤　寛

8　授業概要

物理学の基礎的知識を学び、看護技術や看護に用いられる器具や検査法の原理及びその根拠を学習する。

9　到達目標

1.　自然も人間や機械も、力やエネルギーに従って動いている。力、エネルギーとはどんなものか？
2.　人体の運動を理解する為に必要なモーメント、圧力など、基本的な物理的知識を身につける。
3.　医療、看護では電気機器を多用する。そこで用いられる電気に関する物理法則などの基礎知識を学ぶ。

10　授 業 計 画

第 1 回　物理学を何のために学ぶのか
物理学を学ぶための準備
自然をどのように見るか, 自然科学とはどんな学問か

第 2 回　物体の運動と力（１）
物体の運動を考えるために
①速度　②加速度　③力　④重力（万有引力）

第 3 回　物体の運動と力（２）
力の釣り合いと力のモーメントー人体を動かす力
①物体の運動と力の釣り合い　②回転運動と力のモーメント　③テコの原理と人体の動き

第 4 回　仕事とエネルギー
すべての運動の原動力はエネルギー
①仕事, ②仕事率③エネルギー（位置エネルギーと運動エネルギー）

第 5 回　圧力ー人間の身体の中は圧力だらけ
①圧力とは何か　②気圧・水圧　③浮力　④サイフォンの原理

第 6 回　電気とはなにかー原子も分子も，人間の身体も電気の力で形つくられている
①原子と電気　②電気世界

第 7 回　身の回りの電気機器を使うためにー医療現場は電気機器で溢れている
①電流，電圧と抵抗　　ーオームの法則を理解しようー　②電流と磁場

第 8 回　試験

11　学 習 方 法

講義中心、演習問題，演示実験も含む

12　評 価 方 法

試験及びレポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　基礎分野　物理学　医学書院
配布資料

14　学生への要望

物理学は、力やエネルギーなど目に見えない量を扱っているので難しいというイメージを持たれる。我々が見ている自然界の運動の背景に在る仕組みが分かると、身近な現象も統一的に理解でる。又医療分野の電子機器も物理法則に則り動いている。自分で考える労力をいとわず取り組んでください。

生　物　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	伊藤松雄

8　授業概要

生物学の基礎内容として、生命体のつくり、生体維持のエネルギー、遺伝情報の維持及び伝達などを学び、生命現象に対する理解を深める。

9　到達目標

1. 生命について学びを深める。
2. 生体維持の仕組みを理解する。
3. 生物と環境について関連を理解する。
4. 地球のこれからの環境と生活する人類の健康について考えられる。

以上について人と植物の関わりからアプローチする。

10　授 業 計 画

第 1 回　　生命とは / 生命のつくりとはたらき / 生体維持のエネルギー

第 2 回　　細胞の増殖と身体 /生殖と発生

第 3 回　　遺伝情報の伝達と発現のしくみ

第 4 回　　個体の調節

第 5 回　　刺激の受容と行動

第 6 回　　生命の起源と進化

第 7 回　　生物と環境のかかわり　　地球環境と人類の未来を考える

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / 実験

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

配布資料

【電子版】系統看護学講座　基礎分野　生物学　医学書院（参考図書）

14　学生への要望

生物である人間を看護される皆さんには、特にしっかりと学習して欲しい。

化　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	山口孔丹子

8　授業概要

生命現象が、生物を構成する化学物質と化学反応によるものであることを理解する。

9　到達目標

1. 身体を構成する物質とその反応を実験を交えながら理解する。
2. 無機物の化学的性質、化学反応、および一般化学について理解する。
3. 有機化学として、生化学、栄養学、医薬がどのような化合物でできているのか基礎を理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　　身のまわりの化学

第 2 回　　化学の単位と元素の周期表

第 3 回　　物質の三態

第 4 回　　気体の性質、液体・溶液の性質

第 5 回　　化学反応

第 6 回　　反応速度・化学平衡

第 7 回　　物質の構成

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / 実験

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　基礎分野　化学　医学書院

14　学生への要望

生命体は化学物質（分子とイオン）でできている。化学の基礎をしっかりと学んでほしい。

情　報　科　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	梅木佳子 髙畑美佳(看護師)

8　授業概要

情報科学の初歩的倫理や基本的知識を学び、情報検索や情報の科学的な理解など情報活用能力を養う。
（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護の現場でどのように情報が取り扱われているのか実際を学ぶ。また、情報を取り扱う上で必要な倫理や患者の権利について学習をする。）

9　到達目標

1. コンピュータの仕組み、情報処理の仕組みなど、情報科学の基礎的な知識を理解し説明できる。
2. 情報セキュリティや個人情報保護・著作権の基本的な考え方を説明できる。
3. 情報科学の医療や看護にとっての必要性について説明できる。
4. IT の知識を深め、情報処理能力を身につける。
5. 学術情報の検索と活用と処理について，その方法を説明できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　情報科学の基礎　/　情報技術とコンピュータ　/　パソコン本体の構成

第 2 回　　出力装置（印刷・スキャナー）　/　入力インターフェース　/　アプリケーションソフト

第 3 回　　ネットワーク　/　LAN　/　インターネット　/　メール　/ソーシャルメディア

第 4 回　　情報セキュリティ（ウイルス・対策）　/　インターネット利用の心構え

第 5 回　　保健医療における情報　/　看護と情報
情報と倫理　/　情報倫理と医療倫理

第 6 回　　情報と倫理　/　患者の権利と情報　/ 個人情報の保護

第 7 回　　看護研究とコンピュータ　/　情報科学　/　文献情報の検索
地域看護と情報システム　/　実践例

第 8 回　　まとめ / 試験

第 1～4 回、第 7～8 回　梅木佳子（80）・第 5～6 回　髙畑美佳（20）

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　別巻　看護情報学　医学書院
情報リテラシー＜改訂版＞（Windows10・Office2019）FOM 出版

14　学生への要望

アンテナを広げ取り込むべき情報はもらさず集めて多くを学んでください。

情　報　科　学　演　習

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	梅木佳子

8　授業概要

情報科学での学びを基盤に、パソコンの基本操作として Windows（Word、Excel、Powerpoint）の機能を実際に活用し演習することにより操作を習得する。また、社会の情報化に応じた ICT 教育の導入により情報活用能力を育成していく。

9　到達目標

1. コンピュータを使って情報処理ができる。
2. コンピュータを使ってレポート作成ができる。
3. プレゼンテーション演習発表ができる。

10　授 業 計 画

第 1～2 回　　パソコンの基本操作
Windows の基本的な操作　/　文字入力＆変換

第 3～7 回　　Word 活用　（ビジネス文章 / 表作成 / 長文編集等）

第 8～10 回　　Excel 活用　（Excel の基礎 / 関数 / 書式設定等）

第 11～14 回　　Powerpoint 活用　（プレゼンテーションの基礎 / 演習）

第 15 回　　まとめ　/　演習　/　テスト

11　学 習 方 法

講義 / パソコンを活用した演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　別巻　看護情報学　医学書院（参考図書）
情報リテラシー＜改訂版＞（Windows10・Office2019）FOM 出版

14　学生への要望

遅刻・欠席しないこと。コンピュータを使って、論文の発表ができるように期待しています。
USB を各自用意して下さい。

生涯スポーツ論（体育実技）

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	六川利康 松本嘉次郎 山本幸男

8　授業概要

生涯学習の視点から、生涯にわたるライフステージにおいて個人の年齢・体力・嗜好に応じたスポーツを行うための知識、技術を学ぶことにより、適切なスポーツを楽しく行えるような実践能力を身につける。

新体力テストを行い自分の体力の状態を査定し運動の重要性を根拠に基づいて理解する。また地域で行われている介護予防活動の実際や高齢者への支援としてノルディック・ウォークの実際を学ぶ。

9　到達目標

1. 各スポーツ種目の実技を通して、それぞれに楽しむための基礎的技術を習得する。加えて魅力的なゲームの実践を行い、生涯、スポーツに対する運動習慣の重要性を理解できる。
2. 新体力テストにより自分の体力状態を査定し運動の重要性を根拠に基づいて理解する。
3. 高齢者の体力測定の方法や実践されている介護予防での体操を学ぶ。
4. 高齢者への支援方法の一つとしてノルディック・ウォークの実際を学ぶ。

10　授 業 計 画

第 1 回　　オリエンテーション（別館）
第 2～4 回　　ニュースポーツ（ディスクゲーム・インディアカ等）（３号館講堂）
　　基礎 / 応用 / ゲーム

第 5～6 回　　バドミントン（３号館講堂）
　　基礎 / 応用 / ゲーム/実技テスト

第 7～8 回　　ボールゲーム（ポートボール・ソフトバレー等）（３号館講堂）
　　基礎／応用／ゲーム/実技テスト

第 9～10 回　　高齢者の体力測定・介護予防体操

第 11 回　　ガイダンス（体力とは、身体活動とは）
第 12 回　　自分の体力を測定する（新体力テスト）

第 13 回　　ノルディックウォーキング 1
第 14 回　　ノルディックウォーキング 2

第 15 回　　自分の体力を見える化する（体力テスト（レーダー図、歩数：折れ線グラフ身体活動量（棒グラフ）、基礎代謝（円グラフ））
第 16 回　　試験

第 1～8 回・16 回六川利康（60）、第 9～10 回　松本嘉次郎（10）、第 11～15 回　山本幸男（30）

11　学 習 方 法

講義・実技

12　評 価 方 法

実技試験及び筆記試験、運動に関するレポート提出、出席、態度等の総合評価

13　教科書及び参考書

配布資料

14　学生への要望

楽しくスポーツができるように、体調管理をしておくこと。

哲　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	髙倉良一

8　授業概要

西洋の思想家からの哲学的思考を理解し、人間とは何かというテーマの一面性を自己の人間観、世界観、人生観、死生観を見つめることから、看護の対象である人間理解を深める。

9　到達目標

「人間は、どう生きるべきか」を自分自身の言葉で語ることができるようになるために、哲学は必要不可欠の学問である。この授業では、(1)哲学史を概観した上で、(2)人間として、いかに生きるべきかを熟考するとともに、(3)看護の道を志す者に必要な思考法の習得を目標とする。

10　授 業 計 画

第 1 回　　オリエンテーション
　人間は、どのような存在なのかを考えるとともに、哲学を学ぶことの意味を考える。

第 2 回　　思考法に関する技法を学ぶ
　フューチャー・マッピング、マインド・マップ、デッサンメモ、16 分割メモなどの技法を紹介する。

第 3 回　　哲学の歴史　その１
　西洋哲学の流れを概観する。

第 4 回　　哲学の歴史　その２
　東洋哲学の流れを概観する。

第 5・6 回　人間の尊厳と人間悪との関係
　映画「白バラの祈り」を素材として、人間としてあるべき生き方を考える。

第 7 回　　看護現場で直面する哲学的問題
　妊娠、出産、障害、終末期医療の課題を考える。

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク/ VTR

12　評 価 方 法

授業終了後に、毎回提出を求める感想レポートと、筆記試験の内容に基づいて評価する。

13　教科書及び参考書

哲学『看護と人間に向かう哲学』　田畑邦治　田中美恵子　　ヌーヴェルヒロカワ

14　学生への要望

授業の場を、教員と受講生がお互いに触発できるな空間とすることを目指したい。授業が開始されるまでに、教科書を通読して置くことが求められる。

人　間　関　係　論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	辰巳裕子

8　授業概要

看護師として質の高いケアを提供するためには、対象との援助関係・信頼関係が重要となる。対象を深く理解し、人間関係を構築するための基本的な考え方や、アプローチの方法を学ぶ。

9　到達目標

1. 人間の存在と人間関係および社会的役割について理解する。
2. コミュニケーションの基礎的技術と理論を理解する。
3. 看護現場で求められる人間関係の特性を知り理解する。
4. 地域共生社会における看護師としてコミュニケーション技術を習得する。

10　授 業 計 画

第 1 回　　人間の存在と人間関係

第 2 回　　社会的相互作用と社会的役割

第 3 回　　コミュニケーションの基礎的理解

第 4 回　　コミュニケーション技術の習得

第 5 回　　人間関係を築く面接技法

第 6 回　　保健医療チームの人間関係

第 7 回　　闘病生活・終末期等の患者と家族を支える人間関係

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / ロールプレイ / 口頭発表

12　評 価 方 法

出欠席 / レポート / 口頭発表 / 筆記試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　医学書院

配布資料

14　学生への要望

人との関わりが得意な人も、苦手な人も職業人になることを意識して積極的に授業に取り組んでください。

死　生　論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	小阪清行

8　授業概要

現代社会は核家族化、在宅出産の減少、病院死の増加、葬儀手段の簡略化など、人間が生き、そして死ぬということはどういうことなのかについて触れる機会が少なくなっている。「生・老・病・死」を自己の生老病死だけではなく、他者の生老病死をいかに受け止め、それにどのようにかかわっていくかを考える。

9　到達目標

1. 生と死について、文学者や宗教家たちの考え方を元に、一緒に考える。
2. 日本人と外国人の死生観の違いについて考える。
3. 死に関する多様な文化に触れる。
4. 自分自身の死生観について考えを深め、看護師としての仕事との関係を考える。

10　授 業 計 画

第 1 回　　死生学とは

第 2 回　　文学にみる生と死―文明の表在性と病根

第 3 回　　仏教にみる死生観―仏教理解のために

第 4 回　　キリスト教にみる死生観―キリスト教理解のために

第 5 回　　近代の抱える問題―ゲーテと三木成夫(解剖学者・思想家)

第 6 回　　医療現場と実践者たち―ナイチンゲール、ダミアン神父 etc.

第 7 回　　若さと老い―老いらくの恋、若さの秘訣

第 8 回　　試験（あるいはレポート提出）

11　学 習 方 法

講義

12　評 価 方 法

試験、あるいはレポート提出

13　教科書及び参考書

講師作成テキスト

14　学生への要望

われ未だ生を知らず、いずくんぞ死を知らんや　　(孔子)

「生と死」について一緒に考えてみましょう。

家　族　社　会　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	髙倉良一 安永さゆり(看護師)

8　授業概要

　社会的存在として人間を理解する一面として、家族を理解、家族としての役割機能を理解する。また、家族の健康、医療問題、家族の介護力に関連して、家族の理解をより深める。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、家族看護とは何か、また事例を用いて看護実践に活用できるように講義する。）

9　到達目標

　家族は、生老病死に関する喜びや苦悩を共有する最も身近な人間関係であると思われる。授業では、家族社会学を中心にしつつ隣接諸科学の成果も参考にしながら、現代の家族が直面する様々な問題に関する理解を深めたい。その上で、家族に関する困難な問題で悩んでいる人々に対して、適切な支援ができるようになろうと志す態度の習得を目標としたい。

10　授 業 計 画

第 1 回　　オリエンテーション　家族に関する受講生各自の問題意識を明確にする。
第 2 回　　家族の基本的な概念を理解し家族関係図の作成から家族の定義が可能かを考える。
第 3 回　　人生設計図の作成を通じて、家族が直面する問題を考える。
第 4 回　　映画「生きる」を素材として、親子の関係性を考える。
第 5 回　　映画「生きる」を素材として、危機に直面した人間の生き方を考える。
第 6 回　　家族看護とは何か、家族看護の対象を理解する。
第 7 回　　家族看護を支える理論、介入方法、家族看護の展開方法を理解する。
第 8 回　　事例に基づく家族看護学の実践（急性期患者の家族看護）ＧＷ・発表
第 9 回　　事例に基づく家族看護学の実践（慢性期患者の家族看護）ＧＷ・発表
第 10 回　事例に基づく家族看護学の実践（終末期患者の家族看護）ＧＷ・発表
第 11 回　事例に基づく家族看護学の実践（高齢の患者の家族看護）ＧＷ・発表
第 12 回　事例に基づく家族看護学の実践（先天奇形をもつ小児家族看護）ＧＷ・発表
第 13 回　事例に基づく家族看護学の実践（精神疾患患者の家族患者の家族）ＧＷ・発表
第 14 回　事例に基づく家族看護学の実践（周産期に関する患者の家族）ＧＷ・発表
第 15 回　まとめ / 試験

第 1～5 回　髙倉良一（30）、第 6～15 回　安永さゆり（70）

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク 発表/ VTR

12　評 価 方 法

授業終了後に、毎回提出を求める感想レポートと、筆記試験の内容に基づいて評価する。
レポート提出、発表にて評価する、またひっき

13　教科書及び参考書

配布資料
【電子版】系統看護学講座別巻　家族看護学（医学書院）

14　学生への要望

　授業の場を、教員と受講生がお互いに触発できるな空間とすることを目指したい。授業が開始されるまでに、教科書を通読しておくことが求められる。

発　達　心　理　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	宮地和樹

8　授業概要

発達の各段階における心の機能とその特徴及びその変化を学習する。人間の発達を誕生したときから死に至るまでの期間全体ととらえ、ライフサイクルの視点から各年代の発達課題を学ぶ。その上で実際の生活上の発達的問題を各々が考えるきっかけをもてるようになることをねらいとする。

9　到達目標

この講義では、人は生涯発達しているという視点から、人の成長過程と発達段階における生活上の変化や、そこで生じる「こころ」の問題について考えていきます。具体的には①各発達段階の特徴を理解することができること、②発達援助の方法について理解し、自分の意見にまとめることができることの二つを目標としたいと思います。

10　授 業 計 画

第 1 回　　発達とは何か / 生を受けて生まれてくること

第 2 回　　乳児期から幼児期（1）

第 3 回　　乳児期から幼児期（2）

第 4 回　　児童期にみる子どもの生活

第 5 回　　青年期から成人

第 6 回　　老年期

第 7 回　　発達を援助するために

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義

12　評 価 方 法

出席、試験 などで評価

13　教科書及び参考書

配布資料

14　学生への要望

単に人間の発達の流れを追うのではなく、自分自身に置き換えながら理解をする視点を培ってもらいたいと思います。また、講義の最後に毎回感想と質問を書いてもらいます。

日　本　語　表　現　法

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	金子えつこ 徳地暢子(看護師)

8　授業概要

言語とは何かを理解し、日本語での読む、書く、話すといった基本、適切な言葉づかいと話し方を身につける。クリティカルシンキングや論理的思考に基づく言語や文章が伝える力を磨く。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護の思考過程の基盤として、クリティカルシンキング及び論理的思考について講義する。）

9　到達目標

1. 日本語での読み書き、話すといった基本を学び、自己表現として語りの技術を習得する。
2. クリティカルシンキングの基本を学び、論理的思考に基づいた言語力、文章力を理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　概論　言語とは　/　ことばの力
第 2 回　こどもの言語獲得プロセスおよび言語障害について　/　言語中枢　/　こどもとのコミュニケーション
第 3 回　社会言語学　/　日本語のバラエティ
第 4 回　書くという行為　/ 執筆の基礎 / 表現する時の礼儀
第 5 回　読むという行為　/　何のために何を読むか /　どう読むか　/　図書館の利用方法　/　有名書籍の紹介
第 6 回　話すという行為 / 敬語の用法　/　ビジネス敬語のルール
第 7 回　適切な言葉づかいと話し方　/　履歴書等について
第 8 回　まとめ / 試験

第 9 回　クリティカルシンキング①（講義・演習）
第 10 回　クリティカルシンキング②（講義・演習）
第 11 回　クリティカルシンキング③（講義・演習）
第 12 回　論理的思考法①（講義・演習・ＧＷ）
第 13 回　論理的思考法②（講義・演習・ＧＷ）
第 14 回　論理的思考法③（講義・演習）
第 15 回　まとめ / 試験

第 1～8 回　金子えつ子（50）・第 9～15 回　徳地暢子（50）

11　学 習 方 法

第 1 回から第 8 回までは電子テキストでのプリント資料を用いたオンライン講義形式となります。第 9 回からは対面講義形式です。

12　評 価 方 法

授業プリントの提出、期末試験、実技、授業での諸成果による総合評価とします。

13　教科書及び参考書

配布資料

14　学生への要望

積極的に学び、伸びたい学生を歓迎します。学生のレベルや希望を、ある程度、考慮します。
クリティカルシンキングや論理的思考は看護を行う上での重要です。難しく考えず取り組みましょう。

文　化　人　類　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	伊藤松雄

8　授業概要

さぬきの歴史、文化を形成してきた人類の価値観、偏見などに関する学びを深める。また看護と讃岐人の文化と心についても触れ、昔から地域に根付いているお接待の心を学ぶことで、現代社会において集団から個人化する社会の現状を明らかにする。

9　到達目標

風景には、自然の造景のみでなく、人々の活動の歴史が刻まれている。ここでは、地元香川の風景をもとに、その自然と人々の活動について、文化人類学的に読み解いていく。その中で、香川の文化を再発見する。

10　授 業 計 画

第 1 回　　イントロダクション：讃岐・香川の自然と文化
第 2 回　　人はなぜこんぴらさんに詣でるのか？１
第 3 回　　人はなぜこんぴらさんに詣でるのか？２
第 4 回　　人はなぜこんぴらさんに詣でるのか？３
第 5 回　　お大師さんのふる里に眠る水脈とは？１
第 6 回　　お大師さんのふる里に眠る水脈とは？２
第 7 回　　天狗伝説の本当の意味とは？１
第 8 回　　天狗伝説の本当の意味とは？２
第 9 回　　海の覇権は誰の手に？１
第 10 回　　海の覇権は誰の手に？２
第 11 回　　なぜ城は山から降りたのか？１
第 12 回　　なぜ城は山から降りたのか？２
第 13 回　　なぜ城は山から降りたのか？３
第 14 回　　瀬戸の海、龍宮城はどこに？１
第 15 回　　瀬戸の海、龍宮城はどこに？２
第 16 回　　まとめ/試験、レポート

11　学 習 方 法

講義

12　評 価 方 法

試験、レポート提出

13　教科書及び参考書

配布資料

14　学生への要望

香川県の自然風景、人文風景について理解し、私見を述べることができるようになってほしい。

臨　床　心　理　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	3 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	竹森元彦

8　授業概要

心の動きの基礎的概念を理解し、こころの健康維持と増進についての心理的援助方法を学び、メンタルセラピーとして人に癒しを与える心を学ぶ。

9　到達目標

1. 臨床心理学に関する基礎的理論や歴史について学習する。
2. 心理テスト，心理療法，カウンセリングに関する基礎的学習を行う。
3. 心理アセスメントや心理テスト，映画分析などを通じて自分と他者について深く考える。
4. カウンセリングシナリオの実習を通じてカウンセリングコミュニケーションについて学習する。

10　授 業 計 画

第 1 回　　心への問い、臨床心理学とは
第 2 回　　現代社会と臨床心理学
第 3 回　　自分と臨床心理学
第 4 回　　心理アセスメント　映画の臨床心理学
第 5 回　　心理アセスメント　映画の臨床心理学
第 6 回　　心理アセスメント　性格検査，投影法
第 7 回　　シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション
第 8 回　　シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション
第 9 回　　シナリオ法によるカウンセリングコミュニケーション
第 10 回　　心理療法の実際
第 11 回　　心理療法の実際
第 12 回　　コラージュ療法
第 13 回　　コラージュ療法
第 14 回　　振り返り
第 15 回　　まとめ / 試験（レポート）

11　学 習 方 法

講義 / レポート / 演習
毎回の授業について感想及び質問などを書いてもらう。それを次回の授業の際にとりあげ補足説明を行う。

12　評 価 方 法

出席を基礎として、平常時とレポートによって、評価を行う。

13　教科書及び参考書

竹森元彦 「心の生まれる場所」　ふくろう出版
竹森元彦 「スクールカウンセリングにおける生徒学校家庭の支え方について」心理臨床研究第 18 巻第 4 号（参考図書）

14　学生への要望

心とからだの調和・バランスを考え人に癒しを与える看護師として成長してほしい。
実習や演習など自分と関係しながら展開しますので、積極的・主体的に学習をしてください。

笑 い と 医 療

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必選別	7 担当教員
基礎分野	3学年	後期	1単位	15時間	必修	熊谷恵利子 山本幸男

8 授業概要

笑いがもたらす医学的効用と笑いを通して患者さんとの対人間コミュニケーションの向上を図る。

患者さんとの心が通うコミュニケーションを図るためのユーモアセンス・実践力を養成し、回復促進を図ることができる。

9 到達目標

1. 笑いがもたらす医学的効用と笑いを通して患者さんとの対人間コミュニケーション力の向上を図る。
2. 患者さんと心が通うコミュニケーションをはかるためのユーモアセンス・実践力を養う。
3. クラウン（道化師）セラピーを学び、看護の実践に活かすことができる。

10 授 業 計 画

第1回　笑いと医療とは― クリニクラウンの実践に学ぶユーモアコミュニケーション
（こどもとの遊びを通して人との関わり方を考える）

第2回　信頼関係を築くためのユーモアコミュニケーションⅠ（自分をみつめる・非言語コミュニケーション）

第3回　信頼関係を築くためのユーモアコミュニケーションⅠ（自分と他者の関係性・オープンマインド）

第4回　信頼関係を築くためのユーモアコミュニケーション（コミュニケーションを考える）

第5回　信頼関係を築く癒しのコミュニケーション― 笑いのメカニズム

第6回　信頼関係を築く癒しのコミュニケーション―笑いとヨガ①

第7回　信頼関係を築く癒しのコミュニケーション―笑いとヨガ②

第8回　試験

第1回～4回　熊谷恵利子（60）・第5回～8回　山本幸男（40）

11 学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / ロールプレイ / 口頭発表

12 評 価 方 法

レポート / 口頭発表 / 試験

13 教科書及び参考書

配布資料

14 学生への要望

いつも笑顔を！（授業は楽しく人生は面白く）

音　楽　療　法

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	岩永十紀子

8　授業概要

補完医療として確立されてきた音楽療法の歴史、理論及び技法について学ぶとともに、実体験を通して音楽療法の有効性知る。

9　到達目標

1. 音楽療法の基礎理論や音楽史の学習と平行して進められる鑑賞、演奏等の活動を通して、情操豊かな人間形成を目指すとともに、生活の中に芸術を取り入れることによって得られる、より生き生きとして人間的価値あふれた生活を送ることの重要性を知ることができる。
2. 人間関係の構築のためのコミュニケーションの手段としての音楽療法の有効性を知り、活用法を体得することができる。
3. 音楽療法の有効性を示す歴史的背景や理論的考察、さらに具体的な技法について学習し、癒しや機能改善の役割を果たす音楽療法へのアプローチを図ることができる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　音楽療法の概要/ 音楽療法の歴史

第 2 回　　音楽の作用

第 3 回　　音楽療法演習―高齢者と音楽

第 4 回　　音楽療法演習―精神障害と音楽

第 5 回　　音楽療法演習―障害児（者）と音楽

第 6 回　　その他の音楽療法

第 7 回　　音楽療法の実際

第 8 回　　まとめ

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

記録 / レポート

13　教科書及び参考書

配布資料

14　学生への要望

音楽療法についての知識の獲得だけでなく、演習に積極的に参加することによって、音楽の持つ力を体験的に学習してください。

健　康　科　学　論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	漆原光徳

8　授業概要

身体運動の重要性を、運動学的および健康スポーツ科学の立場から理解し、運動やスポーツの生体に及ぼす作用を学び、ストレスコントロールやボディセラピーとして活用する。

9　到達目標

1. 身体運動の重要性を、運動学および健康スポーツ科学の立場から理解する。
2. 人間の身体の仕組みを理解し、健康科学の基礎的知識を身につける。

10　授 業 計 画

第 1 回　　健康科学とは？　体重管理の基礎理論

第 2 回　　肥満と疾病・中年太りはなぜ起こる？

第 3 回　　有酸素運動と無酸素運動・筋肉と脂肪燃焼

第 4 回　　部分やせは科学的に可能か？

第 5 回　　食事と健康・太らない食事法

第 6 回　　最新のダイエット理論

第 7 回　　サプリメントと健康

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

「大学ダイエット講義」漆原光徳著　二見書房

14　学生への要望

この講義で、人間のからだの基本的な仕組みを理解し、「健康」の基本的な概念を身につけて欲しい。

英　語　Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	1 学年	通年	1 単位	30 時間	必修	新宮久子

8　授業概要

中学程度の英語を使って日常会話を体得していきます。

9　到達目標

英語を使うさまざまな状況ですぐに役立つ英会話を身につけて、世界を拡げていきましょう。

10　授 業 計 画

第 1～7 回　Unit 1　Hi, I'm Rina.
Unit 2　How do you spell that?
Unit 3　What's the time?
Unit 4　Where are you from?

第 8 回　第 1 回試験

第 9～15 回　Unit 5　What's your favorite food?
Unit 6　How often do you get your hair cut?
Unit 7　What kinds of music do you like?
Unit 8　Who's older, you or your sister?

第 16 回　第 2 回試験

第 17～23 回　Unit 9　How was your weekend?
Unit 10 Have you ever been abroad?
Unit 11 What kinds of movies do you like?
Unit 12 What's the weather going to be like?

第 24 回　第 3 回試験

第 25～31 回　Unit 13 What' s your favorite coffee shop?
Unit 14 Do you have a part-time job?
Unit 15 How long have you had your phone?
Unit 16 What kinds of clothes do you like to wear?

第 32 回　第 4 回試験

11　学 習 方 法

講義 / ヒアリング / スピーキング / ロールプレイ

12　評 価 方 法

4 回の試験との各課の暗誦

13　教科書及び参考書

J.Cronin & E.Bray "New Getting Into English"　南雲堂

14　学生への要望

知らない単語や熟語は前もって調べておくこと。
中辞典を持っていない学生には“ジーニアス英和辞典”（大修館）をお薦めします。

英　語　Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	2 学年	通年	1 単位	30 時間	必修	新宮久子

8　授業概要

臨床で使う英会話。

9　到達目標

英語Ⅰで身に付けた基本的な英会話の世界を広げて、看護の現場で役立つ英語を修得しましょう。

10　授 業 計 画

第 1～2 回　Unit 1: Please speak more slowly.
第 3～4 回　Unit 2: Where are you from?
第 5～6 回　Unit 3: Could you tell me your address, please?
第 7 回　第 1 回試験
第 8～9 回　Unit 4: What department do you want to visit?
第 10～12 回　Unit 5: Where is the X-ray department?
第 13～15 回　Unit 6: What are your symptoms?
第 16 回　第 2 回試験
第 17～19 回　Unit 7: Where does it hurt?
第 20～22 回　Unit 8: Have you ever had any serious illnesses?
第 23～24 回　Unit 9: Take one tablet, four times a day.
第 25 回　第 3 回試験
第 26～27 回　Unit 10: Let me make an appointment for your test.
第 28～29 回　Unit 11: Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.
第 30～31 回　Unit 12: How are you feeling today?
第 32 回　第 4 回試験

11　学 習 方 法

講義 / ヒアリング / スピーキング / ロールプレイ

12　評 価 方 法

4 回の試験と各課の暗誦

13　教科書及び参考書

クリスティーンのやさしい看護英会話　　知念クリスティーン　上瀧真紀恵　　医学書院

14　学生への要望

知らない単語はあらかじめ調べておくこと。

英　語　Ⅲ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6 必 選 別	7　担当教員
基礎分野	3 学年	通年	1 単位	30 時間	必修	尾張豊

8　授業概要

（看護英語）

健康・医療・看護ケアに関するさまざまな文章を読みこなす力を養う。さらに、言葉(バーバル・ノンバーバルコミュニケーション)と看護することの関係について考える。

9　到達目標

医療系分野全般にわたる英語力の基礎を培い、聞く・話す・読む・書くの４技能を用いる活動を通して、次のような力をつけることを目指す。

・患者と接する場面で求められる英語表現を習得し、それを使うことができる。

・医療従事者が知っておくべき基本的専門語を理解し、使うことができる。

10　授 業 計 画

第 1 回　ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ　英語学習一般及び医療・看護系英語についてのガイダンス
第 2 回　Chapter 1　First Encounter with a Patient
第 3 回　Chapter 2　Symptoms
第 4 回　Review of the prerequisites
第 5 回　Chapter 3　Patient Profile
第 6 回　Chapter 4　Medical History and Lifestyle Habits
第 7 回　中間試験
第 8 回　Chapter 5　Unit Orientation
第 9 回　Chapter 6　Activities of Daily Living (ADL)
第 10 回　Review of the prerequisites
第 11 回　Chapter 7　Vital Signs
第 12 回　Chapter 8　Tests & Procedures
第 13 回　Review of the prerequisites
第 14 回　Chapter 9　Medication Administration
第 15 回　Chapter 10 Discharge Instructions
第 16 回　期末試験

11　学 習 方 法

演習 / ペア・グループワークを含む

12　評 価 方 法

出欠席・授業中の活動・試験の結果を総合的に評価

13　教科書及び参考書

Nursing English in Action～Invest in your future～

＜NPO 法人プロフェッショナルイングリッシュコミュニケーション協会＞

英和辞典（電子辞書可）＜毎時間携行のこと＞

14　学生への要望

必ず準備をして授業に臨み、積極的に参加すること。

英　語　Ⅳ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	4 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	新宮久子

8　授業概要

英語の資料や論文を理解するための基礎力を培う。

9　到達目標

短い看護のエピソードを購読します。
今後英文を読む機会に役立ちそうな構文を確認しながら、看護のさまざまな面を見ていきましょう。
毎回短い会話も取り入れて、これまでに培ってきた会話力が鈍らないようにしましょう。

10　授 業 計 画

第 1 回	Paid in Full	／短い会話
第 2 回	A Parade for Lucy	／短い会話
第 3 回	Tears for Stephanie	／短い会話
第 4 回	The Mirror	／短い会話
第 5 回	We Are Diminished by One	／短い会話
第 6 回	Therapeutic Touch in Hospice Care	／短い会話
第 7 回	〃	／短い会話
第 8 回	第 1 回試験	／短い会話
第 9 回	Dollie's Good-bye	／短い会話
第 10 回	〃	／短い会話
第 11 回	Summer Hours	／短い会話
第 12 回	Katie's and Millie's Eyes	／短い会話
第 13 回	Their Own Songs	／短い会話
第 14 回	The Truth About Harry	／短い会話
第 15 回	Graduation	／短い会話
第 16 回	第 2 回試験	／短い会話

11　学 習 方 法

講義 / 演習

12　評 価 方 法

試験 / 予習

13　教科書及び参考書

“Silent Partners ― 英語で読む看護のエピソード ―”　南雲堂
英語Ⅱの教科書（クリスティーンのやさしい看護英会話）

14　学生への要望

予習を欠かさないこと。

中　国　語

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	選択	董琴

8　授業概要

国際化社会の一員として海外に留学して、医療専門職として活躍できるレベルの会話をめざす。

9　到達目標

中国語の基礎文法を習得し、簡単な挨拶や日常会話を身につけることを目標とした授業です。
教科書に沿って会話の練習を中心に授業を進めます。
中国の文化、歴史等について、講義の内容に合わせて紹介し、中国の看護事情等についても紹介する。
1. ピンイン（中国語の発音記号）に従って、中国語の発音の基礎ができるようにする。
2. 基本的な会話能力の習得を目指す。

10　授 業 計 画

第 1 回　　ウォーミングアップ（中国事情紹介、中国はどんな国？、中国語はどんな言葉？）、発音練習

第 2 回　　発音練習・第 1 課　あなたのお名前は？　人称代名詞と「～である」の文法を学習する。

第 3 回　　第 2 課　これは何ですか？　疑問文と「～の～」の文法を学習する。

第 4 回　　第 3 課　どこへ行くのですか？　動詞文、所有を表す「有」の文法を学習する。

第 5 回　　第 4 課　この指輪はいくらですか？　助数詞の使い方、疑問詞の入った文法を学習する。

第 6 回　　第 5 課　今晩予定がありますか？　数字を使って、日付、時刻の表現を学習する。

第 7 回　　第 6 課　一週間に何日それをしますか？　時間量の表現を学習する。

第 8 回　　まとめ /　試験

※毎授業開始時に発音の練習、前回の復習をします。

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

≪最新版≫中国語はじめの一歩　白水社刊（CD 付）

14　学生への要望

中国語で一番難しいのは発音だといわれます。“よく聞く”、“よく話す” を続けることが上達の近道ですので、恥ずかしがること無く、しっかりと声を出して発音の練習をしてください。
また、付属の CD も充分活用ください。

教　育　原　理

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	2 学年	前期	1 単位	15 時間	選択	柳澤良明

8　授業概要

公教育の原理を学ぶことをとおして、学校教育（初等教育、中等教育、高等教育）に関する認識を深めるとともに、自らの人間形成を振り返ることをとおして、家庭教育、社会教育、看護教育を含む教育全般に関する認識を深める。

9　到達目標

1. 公教育の原理を学ぶことをとおして、初等教育、中等教育、高等教育の諸課題を説明することができる。
2. 人間形成において興味・関心あるテーマに関して、自分の見解をプレゼンテーションすることができる。
3. 自らの人間形成を振り返ることをとおして、家庭教育、社会教育に関する認識を深めるとともに、看護教育における自らの学習課題を明らかにすることができる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　人間形成と教育　　（教育の理念と制度Ⅰ）

第 2 回　　家庭教育の課題　　（教育の理念と制度Ⅱ）

第 3 回　　初等教育の課題　　（教育の理念と制度Ⅲ）

第 4 回　　中等教育の課題　　（教育の理念と制度Ⅳ）

第 5 回　　高等教育の課題　　（教育の理念と制度Ⅴ）

第 6 回　　社会教育の課題　　（教育の理念と制度Ⅵ）

第 7 回　　看護教育の課題　　（教育の理念と制度Ⅶ）

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。

14　学生への要望

授業では各自にプレゼンテーションの機会を与えるので、教育分野の中で自分の興味・関心あるテーマを見つけておくこと。

教　育　評　価

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	2 学年	前期	1 単位	15 時間	選択	松下文夫

8　授業概要

教育評価の意義や教育活動における目標から具体的な評価の方法を学ぶ。

9　到達目標

教育を評価することの意義を理解し具体的な評価の方法を学ぶことにより、多面的に評価ができる基礎が身につく。

10　授 業 計 画

第 1 回　　教育評価の意義　/ 教育評価の歩みと今日的意義

第 2 回　　教育活動の目標・評価　/ 形成的な評価

第 3 回　　到達基準に準拠した測定・評価 /　教育評価の分類体系（タキソミー）とその教育的活用

第 4 回　　学校における評価の実際

第 5 回　　評価の心理的影響 / 授業・教師・学校の評価

第 6 回　　わが国における教育評価の展開

第 7 回　　看護教育における教授・学習目標と評価　　看護教育評価の方法

第 8 回　　まとめ /　試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

『教育評価[補訂版]』　　梶田叡一　　（有斐閣）

ブルーム理論を学ぶ　　梶田叡一　　明治図書　（参考図書）

看護教育評価の基礎と実際　　田島桂子　　医学書院　（参考図書）

【電子版】系統看護学講座　基礎分野　教育学　医学書院（参考図書）

14　学生への要望

教育においては、カリキュラムに沿った学習によって得た子どもの変容と、教育目標との差異を随時検討している。この活動を評価と呼び、良い教育を施すには、この差異を小さくするために教育システムの工夫・改善が必要とされている。ここでは、工夫・改善に関わる諸般の知識・技術の基礎をしっかりと学んでもらいたい。

教　育　方　法　論　Ⅰ（理　論）

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	選択	松下文夫

8　授業概要

教育方法の理論と教授展開に必要な教育技術の基本を学び、看護教育における方法論につなげる。4 年生の科目である教育方法論Ⅱ（演習）の実践の基礎とする。

9　到達目標

1. 教育方法の理論と授業展開に必要な教育技術の基本を学び、わかりやすく興味ある授業にデザインしていく視点を身につける。
2. 看護領域における教育目的･方法について理解できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　学習はどのように進むか / 教科理解とその指導

第 2 回　　学習の方法（教師中心の授業）

第 3 回　　学習の方法（学習者中心の授業）

第 4 回　　個人差に応じた教育

第 5 回　　他者との相互交渉による学習

第 6 回　　教授･学習の研究方法

第 7 回　　看護教育の概念と目的　　看護教育方法

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / ビデオ / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / グループ討議への参加状況 / レポート

13　教科書及び参考書

吉田　甫 ・ 栗山　和弘　（編著）　『教室でどう教えるかどう学ぶか』　北大路書房

看護教育学　第 4 版　杉森みどり　舟島なをみ　医学書院　（参考図書）

「看護教育評価の基礎と実際」　田島桂子　医学書院　（参考図書）

【電子版】系統看護学講座　基礎分野　教育学　医学書院（参考図書）

14　学生への要望

学習指導要領では、目標が「主体的で対話的な深い学び」とあるが、グループでの対話で質の高い学びを得させるところに高いハードルを感じる。ここでは、ヒトに教育はなぜ必要か、ヒトの認知と記憶、動機付けと学習との関係など、最近の諸科学によって教育の原点を学ぶことで、深い学びとは何かを、考えてもらいたい。

教　育　方　法　論　Ⅱ（演　習）

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	4 学年	後期	1 単位	30 時間	選択	荻田育代(看護師)

8　授業概要

教育に対する基礎的理論・教育目標に沿った指導案を作成し実践、評価する。

また看護学生の実習指導案や指導方法の演習・評価の方法などについて学習する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践における教育の方法について講義する。）

9　到達目標

1. 教育方法の理論を生かし、模擬患者に合った生活指導が教育方法を使って実施できる。
2. 模擬患者に行った教育方法の実際を相互に評価できる。
3. 看護学生に対して模擬患者に合った実技指導ができる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　学習指導案とは何か　看護教育費必要な用語の定義

第 2 回　　看護業育の学習指導案の基礎知識

第 3 回　　看護教育に生かしたい教育方法　反転授業　協同学習　TBL

第 4 回　　看護教育に生かしたい教育方法　ティベート法と実践してみよう

第 5～6 回　　授業に必要な楽しさと没入感　「看護とは何かについて考える」

第 7～8 回　　授業に必要な楽しさと没入感　「看護技術とは何かを理解する」

第 9 回　　臨地実習指導者として看護学生指導案作成してみよう

看護学生に向けた計画案（ワークシート：知識、技術）作成

第 10 回　　学内演習　　演習：模擬患者に対してのオムツ交換

第 11 回　　学内演習　演習前リフレクション　学習指導案追加・修正

第 12～13 回　　校内演習：実技指導の実際　演習当日リフレクション

第 14 回　　看護学生への記録指導　　演習終了後のリフレクション　評価表に基づく他者評価

第 15 回　　まとめ/試験

※1 年生と合同

第 12～14 回

校内演習（荻田育代）（松田美穂）（小室直子）（西村登志子）（阿部美知子）（徳地暢子）（学内講師）

11　学 習 方 法

講義 / 演習

12　評 価 方 法

パンフレット等提出物 / 学習態度 / 実技指導 / 筆記試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　教育学　　医学書院　（参考図書）

看護教育学　第 4 版　　杉森みどり　舟島なをみ　　医学書院　（参考図書）

配布資料

14　学生への要望

教育・指導は看護師に求められる看護技術の１つです。学習者から教師へ。教育・指導の実体験を通して教育の楽しさ・難しさを学んで下さい。

教　育　心　理　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
基礎分野	2 学年	前期	1 単位	15 時間	選択	宮地和樹

8　授業概要

教育と心理学との関連づけができ、教育の諸問題に柔軟に対処する姿勢が身につく。

9　到達目標

この講義では、学習者の心理と学習過程における心理学的な特徴を学ぶことを目的として行います。具体的には、①対象となる青年期の心理的発達過程について理解し、心理的アプローチができる。②教育学と心理学との関連づけができ、教育上の諸問題点に柔軟に対処する姿勢を身につけることの二つを目標とします。

10　授 業 計 画

第 1 回　　教育心理学とは何か

第 2 回　　発達

第 3 回　　学習の理論 / 教授と学習

第 4 回　　人格

第 5 回　　記憶

第 6 回　　社会性の発達

第 7 回　　教師の悩み / 学校教育が持つ意義

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

配布資料

14　学生への要望

それぞれの内容をよく理解しその意味を熟知しながら進めていくこと。また、授業の最後に毎回感想と質問を書いてもらいます。

解　剖　生　理　学　Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	山内高圓

8　授業概要

解剖生理学Ⅰでは栄養の消化と吸収、呼吸と血液のはたらき、血液の循環とその調節、体液の調整と尿の生成について学ぶ。

9　到達目標

解剖生理学は、医学体系の中でも基礎となる領域である。人体の構造と機能がもとになって、病気のなりたちをはじめとしてすべての科目に関連性を持っている。人体の構造と機能の知識が、看護学の理解へとつながることを認識し、病気との関係について学ぶ。

10　授 業 計 画

第 1 回　　栄養の消化と吸収①
第 2 回　　栄養の消化と吸収②
第 3 回　　呼吸と血液のはたらき①
第 4 回　　呼吸と血液のはたらき②
第 5 回　　呼吸と血液のはたらき③
第 6 回　　血液の循環とその調節①
第 7 回　　血液の循環とその調節②
第 8 回　　血液の循環とその調節③
第 9 回　　体液の調節と尿の生成①
第 10 回　　体液の調節と尿の生成②
第 11 回　　体液の調節と尿の生成③
第 12 回　　内臓機能の調節①
第 13 回　　内臓機能の調節②
第 14 回　　内臓機能の調節③
第 15 回　　試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本 / 人体解剖見学

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能①　解剖生理学　　医学書院
解剖生理学ワークブック　医学書院

14　学生への要望

この科目はすべての分野の基礎となるので、きちんと理解、記憶して欲しい。人の生命との関連を考え学習して欲しい。

解　剖　生　理　学　Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	山西重機

8　授業概要

解剖生理学Ⅱでは、基礎知識として人体構成の基本単位である「細胞」について学び、身体の支持と運動、情報の受容と処理、身体機能の防御と適応、生殖・発生と老化のしくみについて学ぶ。

9　到達目標

解剖生理学は、医学体系の中でも基礎となる領域である。人体の構造と機能がもとになって、病気のなりたちをはじめとしてすべての科目に関連性を持っている。人体の構造と機能の知識が、看護学の理解へとつながることを認識し、病気との関係について学ぶ。

10　授 業 計 画

第 1 回　　解剖生理学の基礎知識①
第 2 回　　解剖生理学の基礎知識②
第 3 回　　身体の支持と運動①
第 4 回　　身体の支持と運動②
第 5 回　　身体の支持と運動③
第 6 回　　情報の受容と処理①
第 7 回　　情報の受容と処理②
第 8 回　　情報の受容と処理③
第 9 回　　身体機能の防御と適応①
第 10 回　　身体機能の防御と適応②
第 11 回　　身体機能の防御と適応③
第 12 回　　生殖・発生と老化のしくみ①
第 13 回　　生殖・発生と老化のしくみ②
第 14 回　　生殖・発生と老化のしくみ③
第 15 回　　試験

11　学 習 方 法

講義

12　評 価 方 法

試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能①　解剖生理学　　医学書院
解剖生理学ワークブック　医学書院

14　学生への要望

この科目はすべての分野の基礎となるので、きちんと記憶、理解して欲しい。人の生命との関連を考え学習して欲しい。

病　理　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	成澤裕子

8　授業概要

病理学総論では、疾病の成り立ちを理解するうえで重要な基本的病変について学ぶ。各論では、総論で学んだ基礎事項をふまえながら、臓器別に代表的疾患について、その病因・病理発生について学ぶ。

9　到達目標

疾病の成り立ちや機能と基本的疾病について学び、その病因、病理発生について理解する。

病理学総論では疾病の成り立ちを理解する上で重要な基本的病変について学ぶ。各論では、総論で学んだ基礎事項をふまえながら、臓器別に代表的疾患について、その病因・病理発生について学ぶ。

10　授 業 計 画

第 1 回　　病理学とは
第 2 回　　代謝障害
第 3 回　　循環障害
第 4 回　　炎症
第 5 回　　感染症と免疫、膠原病
第 6 回　　腫瘍
第 7 回　　老化と死
第 8 回　　循環器系の疾患
第 9 回　　血液・造血器系の疾患
第 10 回　　呼吸器系の疾患
第 11 回　　消化器系の疾患
第 12 回　　腎・泌尿器・生殖・内分泌系の疾患
第 13 回　　脳・神経・筋肉系の疾患
第 14 回　　骨・関節・耳・眼・皮膚の疾患
第 15 回　　試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本 / 人体解剖見学

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門基礎　疾病のなりたちと回復の促進①　病理学　　医学書院
配布資料
病気のしくみとなりたち　宣広社

14　学生への要望

他科目との関連のある科目のためしっかり学習すること。
特に解剖生理学を想起し復習しながら授業に臨むこと。

生　化　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	平峯千春

8　授業概要

人体を構築している生命現象は無数の化学物質による化学反応から成り立っている。人体の機能が生体組織のどのような細胞の機能に結びついているか、どのような化学現象と結びついているかを理解する。遺伝子工学についても基礎的な知識を理解する。

9　到達目標

1. 生命現象が、多数の化学物質による化学反応から成り立っていることを理解する。
2. 人体の機能が生体組織のどのような細胞の機能に結びついているか、どのような化学現象と結びついているか、いかにして生体の恒常性が保たれているかを理解する。
3. 遺伝子および遺伝情報とその発現について理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　生化学を学ぶための基礎知識
第 2 回　代謝の基礎と酵素・補酵素
第 3 回　ビタミン、酵素の反応速度、酵素阻害
第 4 回　糖質の構造と機能
第 5 回　糖質代謝（グルコースの分解、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系）
第 6 回　糖質代謝（グリコーゲン代謝、糖新生）
第 7 回　脂質の構造と機能
第 8 回　脂質代謝
第 9 回　タンパク質の構造と機能
第 10 回　タンパク質代謝
第 11 回　ポルフィリン代謝と異物代謝
第 12 回　遺伝と核酸
第 13 回　遺伝子の複製・修復・組換え
第 14 回　遺伝子の転写・翻訳
第 15 回　細胞のシグナル伝達、内分泌の生化学的基盤、がん
第 16 回　試験

11　学 習 方 法

講義

12　評 価 方 法

レポート/試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能②　生化学　医学書院

14　学生への要望

各章終了時に、ゼミナールの問題で必ず復習しておくこと。
種々の生体機能の中で、正常から異常（疾患）へと変化する際に、どの物質・どの経路が関連するのかを意識しながら学んで欲しい。

微　生　物　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	山西重機

8　授業概要

人の疾患にかかわる微生物の分類、形態、発育とそれに関与する因子、微生物による免疫を中心とする免疫学、感染、消毒、滅菌、院内感染とその予防、主要感染症化学療法を理解し、各種疾患における生体防御機構についての基礎概念を習得する。

9　到達目標

1. 人の疾患に関わる微生物の分類や形態・特徴を知り、感染予防・化学療法など理解する。
2. 人の疾患に関わる微生物の分類、形態、発育とそれに関与する因子、微生物による免疫を中心とする免疫学、感染、消毒、滅菌、院内感染とその予防、主要感染症化学療法を理解し、各種疾患における生体防御機構についての基礎概念を学ぶ。

10　授 業 計 画

第 1 回　　微生物と微生物学
第 2 回　　細菌の性質
第 3 回　　真菌の性質
第 4 回　　原虫の性質
第 5 回　　ウイルスの性質
第 6 回　　感染と感染症
第 7 回　　感染に対する生体防御機構
第 8 回　　感染源・感染経路からみた感染症
第 9 回　　感染症の予防
第 10 回　　感染症の診断
第 11 回　　感染症の治療
第 12 回　　感染症の現状と対策
第 13 回　　病原細菌と細菌感染症
第 14 回　　真菌・原虫と感染症・ウイルス感染症
第 15 回　　試験

11　学 習 方 法

講義

12　評 価 方 法

試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門基礎　　疾病のなりたちと回復の促進④　微生物学　　医学書院
配布資料

14　学生への要望

臨床での感染予防に役立てて欲しい。

疾　病　と　治　療　Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	15時間	必修	学内講師(看護師)

8　授業概要

呼吸器系統の解剖・生理を理解したうえで、それぞれの主要疾患を学ぶ。ここでの学びは呼吸器系統の障害をもつ患者の看護を学ぶ上での基礎的知識となる。そのため、疾病の成り立ちと回復の促進の理解が科学的根拠のひとつとして、主に症候から病態を把握し、診断、治療過程を学び、看護につなげるよう理解する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が呼吸器疾患に対する病態・検査・治療について講義する。）

9　到達目標

1. 呼吸器系統に関する器官の構造と機能について説明できる。
2. 呼吸器系統の障害をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を修得し治療の方法を説明できる。

10　授 業 計 画

第1回	呼吸器系疾患	構造と機能
第2回		症状とその病態生理
第3回		検査、治療･処置
第4回		疾患の理解（感染症、間質性肺炎、気道疾患､）
第5回		疾患の理解（肺血栓塞栓症、呼吸不全）
第6回		疾患の理解（肺腫瘍、肺・肺血管の形成異常）
第7回		疾患の理解（胸膜･縦隔・横隔膜の疾患、胸部外傷）
第8回	試験	

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　　成人看護学②呼吸器　　医学書院

14　学生への要望

解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。各系統別看護につなげる。

疾　病　と　治　療　Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	須﨑規之　次田誠 荻田育代（看護師）

8　授業概要

血液・造血器・内分泌・アレルギーの解剖・生理を理解したうえで、それぞれの主要疾患を学ぶ。ここでの学びは血液・造血器・内分泌・アレルギーの障害をもつ患者の看護を学ぶ上での基礎的知識となる。そのため、疾病の成り立ちと回復の促進の理解が科学的根拠のひとつとして、主に症候から病態を把握し、診断、治療過程を学び、看護につなげるよう理解する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が血液疾患に対する病態・検査・治療について講義する。）

9　到達目標

1. 血液・造血器・内分泌・アレルギーに関する器官の構造と機能について説明できる。
2. 血液・造血器・内分泌・アレルギーの障害をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を修得し治療の方法を説明できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　血液造血器疾患の症状と病態生理
第 2 回　　血液疾患の理解
第 3 回　　血液疾患の検査と治療
第 4 回　　内分泌代謝疾患の症状と病態生理、検査と治療
第 5 回　　内分泌・代謝疾患の理解
第 6 回　　アレルギー反応とその機序、検査と治療
第 7 回　　アレルギー疾患の理解
第 8 回　　試験

第 1～3 回、8 回　荻田育代（40）・第 4～5 回　次田誠（30）・第 6～7 回　須﨑規之（30）

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学④血液・造血器　⑥内分泌・代謝
⑪アレルギー　膠原病　感染症　医学書院

14　学生への要望

解剖生理学を復習し、疾患の理解につなげること。　各系統別看護につなげる。

疾　病　と　治　療　Ⅲ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	東藤智

8　授業概要

脳・神経・筋・骨関節・運動器系の解剖・生理を理解したうえで、それぞれの主要疾患を学ぶ。ここでの学びは脳・神経・筋・骨関節・運動器の障害をもつ患者の看護を学ぶ上での基礎的知識となる。そのため、疾病の成り立ちと回復の促進の理解が科学的根拠のひとつとして、主に症候から病態を把握し、診断、治療過程を学び、看護につなげるよう理解する。

9　到達目標

1. 脳・神経・筋・骨関節・運動器疾患の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。
2. 疾病の成り立ちと回復の促進を理解し、科学的根拠のひとつとして、主に症候から病態を把握し、看護につなげることができる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　脳・神経系の疾患
　　構造と機能　　脳・神経系の症状とその病態生理　検査と治療
第 2 回　　疾患の理解（脳疾患）
第 3 回　　疾患の理解（脊髄疾患、末梢神経疾患、神経･筋疾患）
第 4 回　　疾患の理解（脳神経系の感染症、中毒、てんかん、認知症）
第 5 回　　運動器系の疾患
　　構造と機能　　症状とその病態生理　検査･治療
第 6 回　　疾患の理解（先天性疾患、骨折、脱臼）
第 7 回　　疾患の理解（捻挫および打撲、骨･関節の炎症性疾患、骨腫瘍、骨系統疾患、代謝性骨疾患）
　　疾患の理解（筋および腱の疾患、麻痺性疾患、上肢および上肢帯の疾患、脊椎の疾患、下肢および下肢帯の疾患）
第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク
/ VTR / 模型 / 標本

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学⑦脳・神経　⑩運動器　医学書院

14　学生への要望

解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。
運動器疾患患者の看護につなげること。

疾　病　と　治　療　Ⅳ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	3 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	学外講師（助産師）

8　授業概要

疾病の成り立ちと回復の促進の理解ができるよう、病態を把握し、診断、治療過程を学ぶ。

9　到達目標

1. 母性における疾病の成り立ちと回復の促進について理解できる。
2. 妊娠・分娩・産褥・新生児の異常における診断・治療・検査が理解できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　妊娠の異常（Ａハイリスク妊娠）

第 2 回　　妊娠の異常（Ｂ妊娠疾患、Ｄ多胎妊娠、Ｅ妊娠持続期間の異常、Ｆ異所性妊娠　Ｇ⑥～⑨）

第 3 回　　分娩の異常（Ａ産道の異常、Ｂ娩出力の異常、ＣＤ胎児附属物の異常）

第 4 回　　分娩の異常（Ｅ胎児機能不全、Ｆ分娩時の損傷、Ｇ分娩第 3 期・直後の異常、Ｈ分娩時異常出血）

第 5 回　　分娩の異常（Ｉ産科処置と産科手術、Ｋ異常分娩時の産婦の看護）

第 6 回　　新生児の異常と看護

第 7 回　　産褥の異常と看護（Ａ～Ｄ）

第 8 回　　試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本

※１:「合併する全身疾患」は疾病と治療で既習できていることを前提に妊娠による影響について講義する

※２:「妊娠期の感染症」は微生物学で既習していることを前提に胎児への影響を主に講義する。

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学②　母性看護学各論　医学書院

14　学生への要望

※1※2 については予習をして講義に臨むこと。

疾　病　と　治　療　Ⅴ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	岩井艶子

8　授業概要

小児疾患に関する臓器の解剖・生理を理解したうえで、それぞれの主要疾患を学ぶ。ここでの学びは小児疾患に関する臓器の障害をもつ患者の看護を学ぶ上での基礎的知識となる。そのため、疾病の成り立ちと回復の促進の理解が科学的根拠のひとつとして、主に症候から病態を把握し、診断、治療過程を学び、看護につなげるよう理解する。

9　到達目標

1. 小児疾患の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。
2. 疾病の成り立ちと回復の促進について学び、疾患と病態生理を科学的に理解し、適切な看護につなげられる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　小児染色体異常の主な疾患/新生児の主な疾患

第 2 回　　小児代謝性疾患 / 内分泌 / 免疫アレルギー疾患・感染症

第 3 回　　小児の呼吸器 / 循環器 / 消化器疾患

第 4 回　　小児の血液造血器疾患 / 悪性新生物 / 腎泌尿器疾患

第 5 回　　小児の神経疾患 / 運動器疾患 / 皮膚疾患

第 6 回　　小児の眼疾患 / 耳鼻咽喉疾患 / 精神疾患

第 7 回　　小児の事故 / 外傷

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ 小児看護学②　小児臨床看護各論　医学書院

14　学生への要望

解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。

疾　病　と　治　療　Ⅵ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	15時間	必修	学内講師(看護師)

8　授業概要

消化器系統の解剖・生理を理解したうえで、それぞれの主要疾患を学ぶ。ここでの学びは消化器系統の障害をもつ患者の看護を学ぶ上での基礎的知識となる。そのため、疾病の成り立ちと回復の促進の理解が科学的根拠のひとつとして、主に症候から病態を把握し、診断、治療過程を学び、看護につなげるよう理解する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が消化器疾患に対する病態・検査・治療について講義する。）

9　到達目標

1. 消化器系統の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。
2. 疾病の成り立ちと回復の促進について学び、疾患と病態生理を科学的に理解し、適切な看護につなげられる。

10　授 業 計 画

第1回	消化器系の疾患	構造と機能
第2回		症状とその病態生理
第3回		検査と治療・処置（治療と診断の流れ、検査）
第4回		検査と治療・処置（治療・処置）
第5回		疾患の理解（食道の疾患、胃・十二指腸疾患、腸および腹膜疾患）
第6回		疾患の理解（肝臓・胆嚢の疾患）
第7回		疾患の理解（膵臓の疾患、急性腹症、腹部外傷）
第8回	試験	

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学⑤消化器　医学書院

14　学生への要望

解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。各系統別看護につなげる。

疾　病　と　治　療　Ⅶ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	水重克文

8　授業概要

循環器系統の解剖・生理を理解したうえで、それぞれの主要疾患を学ぶ。ここでの学びは循環器系統の障害をもつ患者の看護を学ぶ上での基礎的知識となる。そのため、疾病の成り立ちと回復の促進の理解が科学的根拠のひとつとして、主に症候から病態を把握し、診断、治療過程を学び、看護につなげるよう理解する。

9　到達目標

疾病の成り立ちと回復の促進について学び、循環器の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。主に症候から病態を把握し、疾患に合った適切な看護につなげる。

10　授 業 計 画

第 1 回	循環器系の疾患	構造と機能
第 2 回		症状とその病態生理
第 3 回		検査と治療・処置（診察と診断の流れ、検査）
第 4 回		検査と治療・処置（治療・処置）
第 5 回		疾患の理解（虚血性心疾患、心不全、血圧異常）
第 6 回		疾患の理解（不整脈、弁膜症、心膜炎、心筋疾患、肺性心）
第 7 回		疾患の理解（先天性心疾患、動脈系・静脈系・リンパ系疾患、高脂血症）
第 8 回	試験	

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学③循環器　医学書院

14　学生への要望

解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。

疾　病　と　治　療　Ⅷ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	丸川将臣　次田誠 小泉敬子（看護師）

8　授業概要

膠原病・感染症、腎・泌尿器の解剖・生理を理解したうえで、それぞれの主要疾患を学ぶ。ここでの学びは膠原病・感染症、腎・泌尿器の障害をもつ患者の看護を学ぶ上での基礎的知識となる。そのため、疾病の成り立ちと回復の促進の理解が科学的根拠のひとつとして、主に症候から病態を把握し、診断、治療過程を学び、看護につなげるよう理解する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が腎泌尿器疾患に対する病態・検査・治療について講義する。）

9　到達目標

1. 膠原病・感染症、腎・泌尿器の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。
2. 医学知識を身につけ、科学的根拠に基づいた看護に生かすことができる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　膠原病における免疫学・症状と病態生理/検査と治療
第 2 回　　膠原病の理解
第 3 回　　感染のメカニズムと予防/症状と病態生理
第 4 回　　感染症疾患の理解
第 5 回　　腎・泌尿器疾患の理解
第 6 回　　腎泌尿器疾患の症状と病態生理
第 7 回　　腎泌尿器疾患の検査と治療
第 8 回　　試験

第 1～2 回　次田誠（30）・第 3～4 回　丸川将臣（30）・第 5～8 回　小泉敬子（40）

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座 専門Ⅱ　成人看護学⑧腎・泌尿器　⑪アレルギー　膠原病　感染症　　医学書院

14　学生への要望

解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。

疾　病　と　治　療　Ⅸ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	金岡文　大垣修一 中江秀美(看護師) 小泉敬子(看護師)

8　授業概要

疾病の成り立ちと回復の促進の理解を目指し、科学的根拠のひとつとして、主に症候から病態を把握し、診断、治療過程を学び、看護につなげるよう理解する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が女性生殖器・皮膚・耳鼻咽喉疾患に対する病態・検査・治療について講義する。）

9　到達目標

1. 生殖器・感覚器の構造と機能・病態生理・治療処置・疾患について理解する。
2. 医学知識を身につけ、科学的根拠に基づいた看護に生かすことができる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　女性生殖器疾患の症状と病態生理　検査と治療
第 2 回　　女性生殖器疾患の理解
第 3 回　　眼疾患の症状と病態生理　検査と治療
第 4 回　　眼疾患の理解
第 5 回　　皮膚疾患の症状と病態生理　検査と治療　　皮膚疾患の理解
第 6 回　　耳鼻咽頭疾患の症状と病態生理　検査と治療　耳鼻咽頭疾患の理解
第 7 回　　歯・口腔疾患の症状とその病態生理　検査と治療
第 8 回　　歯・口腔疾患の理解
第 9 回　　試験

第 1～2 回　中江秀美（25）・第 3～4 回　大垣修一（25）・第 5～6 回　小泉敬子（25）・
第 7～8 回　金岡文（25）

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学　⑨女性生殖器　⑬眼　⑭耳鼻咽喉　⑮歯・口腔　⑫皮膚　医学書院

14　学生への要望

解剖生理学を復習し疾患の理解につなげること。

リハビリテーション医学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	東藤智

8　授業概要

障害とはどういうことかを学び、さまざまな障害に対する理解を深める。そしてリハビリテーションの仕組みや疾病の成り立ちと病態を把握し、回復への促進と精神的・身体的・社会的に具体的なリハビリテーションについて学ぶ。

9　到達目標

1. 障害とはどういうことか学び、さまざまな障害に対する理解を深める。
2. リハビリテーションのしくみや疾病の成り立ちと病態を把握し、回復への促進と精神的・身体的・社会的に具体的なリハビリテーションについて学ぶ。

10　授 業 計 画

第 1 回　　リハビリテーション概論

第 2 回　　運動器系の障害とリハビリテーション（骨折・関節リウマチ）

第 3 回　　中枢神経系の障害とリハビリテーション（脳血管障害）

第 4 回　　中枢神経系の障害とリハビリテーション（パーキンソン病）

第 5 回　　中枢神経系の障害とリハビリテーション（脊髄損傷）

第 6 回　　呼吸器・循環器系障害とリハビリテーション

第 7 回　　障害とリハビリテーション
1）移動技術・杖歩行、その他
2）運動訓練
3）自助・補助用具について

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　　医学書院

14　学生への要望

すべての疾患において必要とされるリハビリテーションの考え方と実技を臨地実習で応用できるようにして欲しい。

薬理学・薬物療法

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	吉村友良 佐藤アキ

8　授業概要

病気の治療に欠かすことのできない薬の基礎を学び、臨床において必要な一般的な薬物の知識を習得する。

9　到達目標

薬効の発生機序、作用特性、有害作用などの知識を学び、各疾患に対する薬物療法を理論的に習得すると共に、薬物の管理方法や扱いについて理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　　薬理学の基礎知識
第 2 回　　薬理学の基礎知識
第 3 回　　薬理学の基礎知識（処方せん、添付文書情報を含む）
第 4 回　　抗感染薬
第 5 回　　抗がん薬、免疫治療薬
第 6 回　　抗アレルギー薬・抗炎症薬
第 7 回　　末梢神経作用薬
第 8 回　　中枢神経作用薬
第 9 回　　中枢神経作用薬
第 10 回　　心臓・血管系作用薬
第 11 回　　呼吸器・消化器・生殖器系作用薬
第 12 回　　物質代謝作用薬
第 13 回　　皮膚・眼科用薬、漢方薬
第 14 回　　救急時使用薬、中毒時使用薬
第 15 回　　消毒薬・輸液・輸血剤
第 16 回　　試験

第 1～10、16 回　吉村友良・第 11～15 回　佐藤アキ　（100）

11　学 習 方 法

講義

12　評 価 方 法

レポート / 試験等

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門基礎　疾病のなりたちと回復の促進③　薬理学　　医学書院

14　学生への要望

看護師はもっとも患者に身近な存在であり、薬のことを聞かれることも多いので、薬物の作用・副作用だけでなく、取り扱いや管理も学んで欲しい。

栄養学・食事療法

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	村川みなみ

8　授業概要

栄養学の基礎として、栄養素の中心を学びます。エネルギー産生栄養素の代謝を知るために必要なキーワードを理解します。食品と栄養素の関係、栄養素の役割、特性などの身体と食事の関係を知るために必要な基本的な知識を理解します。

9　到達目標

1. 食物と栄養の関係、栄養素などの身体内での働きや代謝を理解し、ライフステージ毎の栄養特性を学ぶ。
2. 栄養と疾病・障害の関係を知り食事療法について理解し、調理実習を行い、その理解を深める。

10　授 業 計 画

第 1 回	オリエンテーション、栄養学・食事療法の概要
第 2 回	栄養素の種類とはたらき①　炭水化物・脂質・タンパク質の栄養（1）
第 3 回	栄養素の種類とはたらき②　炭水化物・脂質・タンパク質の栄養（1）
第 4 回	栄養素の種類とはたらき④　ビタミン・ミネラルの栄養
第 5 回	栄養素の消化・吸収・代謝
第 6 回	ライフステージと栄養①母性栄養と小児栄養の特性とその特徴
第 7 回	ライフステージと栄養②成人栄養と老年期栄養の特性とその特徴
第 8 回	臨床栄養①栄養ケアの概要（1）
第 9 回	臨床栄養②栄養ケアの概要（2）
第 10 回	臨床栄養③治療食の基礎
第 11・12 回	調理実習：治療食の実際（2 グループでの実施）
第 13 回	臨床栄養④疾患別治療食の基本（1）
第 14 回	臨床栄養⑤疾患別治療食の基本（2）臨床栄養⑥栄養食事指導演習（1）
第 15 回	臨床栄養⑦栄養食事指導演習（2）
第 16 回	試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / 調理実習

12　評 価 方 法

提出物/ 試験などから総合的に判断する。

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　別巻　栄養食事療法　医学書院

その他、参考図書等については、授業でその都度紹介する。

14　学生への要望

①生化学、生理学等で学ぶことをよく理解した上で授業に臨んでください。

②学ぶことは、自身の生活に直結していますので、知識を生活に取り入れてください。

③復習をしっかりしてください。テキストや参考書をよく読んで理解の助けにして、質問もあれば積極的に行ってください。

④調理実習では、体調管理、衛生管理に気をつけてください。事前に配布される資料をよく読んでください。

臨 床 検 査 学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	15時間	必修	立石謹也

8 授業概要

臨床検査が現代医療の中で果たす役割を理解すると共に、インフォームドコンセントや患者への説明責任の重要性など業務上の注意点、要点、心得を理解する。各論では、人間を正しく理解するための病態把握に必要な検査の目的や基準範囲を習得する。

9 到達目標

1. 病態把握に必要な検査の目的や方法を知り、検査データの査定について学ぶ。
2. 臨床検査が医療の中で果たす役割を理解すると共に、患者への説明責任、業務上の注意点、心得を理解する。
3. 病態把握に必要な検査の目的やデータの基準範囲を学ぶ。

10 授 業 計 画

第1回　臨床検査とその役割

第2回　一般検査・血液検査

第3回　化学検査

第4回　免疫・血清検査

第5回　ホルモン検査

第6回　微生物検査

第7回　臨床検査値の読み方
病理検査・生理機能検査

第8回　まとめ / 試験

11 学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR / 模型 / 標本 / 検査

12 評 価 方 法

レポート / 試験

13 教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　別巻　臨床検査　　医学書院

14 学生への要望

患者の状態を把握したり、治療を行う上で検査データの査定は重要である。臨床で検査データの判断ができる　ようになって欲しい。

医 療 経 済 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	4学年	後期	1単位	15時間	必修	平尾智広 渡邊照代

8 授業概要

健康保険の仕組み、現状、今後の展望を学び、医療が抱える問題を、医療者サイド、患者サイドの両サイドから考察し、対策を考える。

9 到達目標

1. わが国の医療保険の仕組みや現状を知り医療が抱える問題を理解する。
2. 看護職として調整、カウンセリング、コンサルタント、意思決定など臨床実践能力に必要な経済理論を学び医療保険のしくみや現状、今後の展望、医療が抱える問題などを医療者サイド、患者サイドの両サイドから理解する。

10 授 業 計 画

第1回　医療サービスの経済的特長

第2回　人々の健康と生活

第3回　医療経済について

第4回　社会保障の供給と資格制度について

第5回　経済発展と国民の水準との関連

第6回　これからの看護活動

第7回　これからの医療経済

第8回　まとめ / 試験

第1～2回　平尾智広・第3～8回渡邊照代（100）

11 学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / VTR

12 評 価 方 法

レポート / 試験

13 教科書及び参考書

配布資料

14 学生への要望

看護職として患者の相談に応える知識を身につけ、患者が意思決定できるように役立てて欲しい。

医　療　行　政　論（関係法規）

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	高木耕司

8　授業概要

社会保障の理念と基本的な制度の考え方を理解する。また、生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解すると共に考えられる。

9　到達目標

1. 社会保障の理念と基本的な制度、医療に関する関係法規を理解する。
2. 生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について考え、理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　　法規の概念 / 医療法規（保健師助産師看護師法、医師法、医療法など）

第 2 回　　医事法規（看護師の人材確保の促進に関する法律など）

第 3 回　　薬事法規

第 4 回　　保健衛生法規

第 5 回　　予防衛生法規　/ 環境衛生法規

第 6 回　　公害関係法規 / 福祉関係法規

第 7 回　　その他の関係法規

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義

12　評 価 方 法

試験

13　教科書及び参考書

配付資料

保健医療福祉の仕組み･看護と法律　メヂカルフレンド社

14　学生への要望

医療、看護に携わる人の身分や業務が法令で規制されていることを理解し、より良い安全な看護を行なうようにしてください。

公　衆　衛　生　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	須那滋

8　授業概要

公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度及び健康活動の進め方について理解する。

9　到達目標

公衆衛生の目的は、組織的な社会の活動と努力を通じて、地域に暮らす全ての人々の健康を保持増進することである。公衆衛生学ではそのための理論と方法について学ぶが、講義では、まず公衆衛生学の成り立ちと発展、保健・医療における疾病予防の概念、わが国の健康水準、疫学的方法論等について学習し、さらに、地域、学校、産業の場における公衆衛生の制度と保健衛生活動の実際について学習していく。

10　授 業 計 画

第 1 回　健康と公衆衛生：公衆衛生の定義、健康の概念、公衆衛生の歴史、憲法・法・制度
第 2 回　健康と公衆衛生：包括的保健医療、プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション
第 3 回　人口と公衆衛生：出生、人口の年齢構造、死亡
第 4 回　人口と公衆衛生：平均寿命、国民の傷病と健康
第 5 回　疫学と公衆衛生：記述疫学と分析疫学
第 6 回　疫学と公衆衛生：演習
第 7 回　感染症対策
第 8 回　環境と健康：公害、大気汚染、水質汚濁
第 9 回　環境と健康：廃棄物問題、地球環境
第 10 回　地域保健：栄養改善、国民栄養、食品保健対策
第 11 回　地域保健：母子保健、成人･老人保健、老人福祉、精神保健福祉
第 12 回　学校保健：学齢期の健康、保健管理と保健教育、学校環境衛生、学校給食
第 13 回　産業保健：労働衛生行政、労働衛生管理体制、健康保持増進対策、労災補償
第 14 回　産業保健：作業環境管理、作業管理、生物学的モニタリング
第 15 回　産業保健：健康管理、産業中毒、職業病、作業関連疾患ほか

11　学 習 方 法

講義

12　評 価 方 法

出席 / レポート　/ 試験など

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度②　公衆衛生　　医学書院
厚生統計協会編集　『国民衛生の動向』

14　学生への要望

公衆衛生学は自然科学から社会科学まで、きわめて広範囲の応用科学により成り立つ実践的な学問であり、このため総合的な理解力が要求されることを念頭に置き、学習してほしい。

社 会 福 祉 概 論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	1 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	山下妙子(看護師)

8　授業概要

社会福祉の歴史や制度・政策、援助の背景となる基本思想・理念、社会福祉実践の専門性について理解する。
（病院の看護業務に携わった経験を持ち、社会福祉分野の資格を有する教員が社会福祉について講義する。）

9　到達目標

1. 社会福祉の基本理念、人間に対する視座について理解する。
2. 社会福祉の歴史を通して、人間が社会的問題にどう関わってきたか理解する。
3. 社会保障の制度全体を把握しつつ、医療・看護との関連分野との連携について理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　　社会福祉とは何か― 社会福祉の基本理念について

第 2 回　　社会福祉の対象― 歴史に学ぶ

第 3 回　　社会保障制度と社会福祉　／　社会福祉の動向

第 4 回　　医療保障　／　介護保障

第 5 回　　所得保障　／　公的扶助

第 6 回　　社会福祉の分野とサービス

第 7 回　　社会福祉実践と医療・看護

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / グループ討議

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度③　社会保障・社会福祉　　医学書院

14　学生への要望

限られた回数で全体像を把握しなければならないので、予習を必ずすること。
講義は学生の発表・討論を主体とするので、積極的に発言すること。

地 域 福 祉 論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	3 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	山下妙子（看護師）

8　授業概要

現代の社会福祉における重要な意義と役割を持つ地域福祉についての知識を理論と実践の両側にわたって理解する。

（病院の看護業務に携わった経験を持ち、社会福祉分野の資格を有する教員が社会福祉について講義する。）

9　到達目標

医療・看護の目的を達成する上での社会福祉との連携の重要性を理解し、連携に関する基本的事項や実際の方法が理解できる。

1. 地域福祉の理念と内容が理解できる。
2. 地域福祉の推進方法が理解できる。
3. 事例を活用し、実際の場面を想定しながら、医療機関や地域との連携について考えられる。

10　授 業 計 画

第 1 回　現代社会におけるコミュニティと地域福祉
現代における地域社会の変容 / 現代社会におけるコミュニティの意味 / 地域福祉とコミュニティ
地域福祉の理念とその展開
地域福祉[理念]の発達 / 地域福祉の概念と範囲 / 地域福祉の展開

第 2 回　地域福祉のサービス体系
地域福祉サービスのネットワーク / 地域福祉の構成

第 3 回　地域福祉の推進方法
地域福祉ニーズの把握とコミュニティワーク / 地域福祉計画 / 福祉教育 / 地域福祉の財源

第 4 回　地域福祉の実際
地域福祉サービスの供給主体 / 関連行政施策との共同化、有機化 / 地域福祉のマンパワー

第 5 回　地域福祉の相談援助活動
地域福祉における相談援助活動の意義と特質 / 相談援助活動の展開と留意点

第 6 回　社会福祉と医療・看護ー 連携とその実際

第 7 回　地域福祉における相談援助の事例研究

第 8 回　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度③　社会保障・社会福祉　　医学書院
社会福祉士養成講座　7　地域福祉論（第 4 版）福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版

14　学生への要望

地域福祉に関しては多くの出版物があるので図書館などで目を通しておくこと。

東　洋　医　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	松木宣嘉

8　授業概要

　統合医療の今日的な意義と、統合医療のひとつであり日本で利用頻度の高い東洋医学の概論について学び、全人的医療の知識と態度を身につける。

9　到達目標

統合医療の考え方について理解できる。
統合医療に用いられる、補完代替医療や伝統医療の位置づけが理解できる。
伝統医療の一部である東洋医学の考え方が理解できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　統合医療とは

第 2～3 回　統合医療に用いる補完代替医療

第 4～5 回　東洋医学とその運用

第 6～7 回　EBM と東洋医学

第 8 回　　東洋医学的身体観 1 気血水

第 9 回　　東洋医学的身体観 2　臓腑経絡

第 10 回　　東洋医学的疾病観 3　診察法

第 11～12 回　実技デモンストレーション

第 13～14 回　漢方の利用

第 15 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 /実技

12　評 価 方 法

授業後レポート(2,000 字)にて評価する。

13　教科書及び参考書

配布資料

14　学生への要望

　積極的に質問してほしい。

リラクゼーション方法論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門基礎分野	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	大麻陽子

8　授業概要

多様化する健康ニーズに添える看護専門職者として、指圧・マッサージ・ツボ療法等さまざまなリラクゼーションの方法を学ぶ。

9　到達目標

1. 看護の基本は“手当て”である。手を用いたケアの有用性を自覚し実践する。
2. タクティールケア（背中、手、足）ができる。
3. 東洋医学の考え方を理解し、マッサージやお灸などセルフケアに活かすことができる。

10　授 業 計 画

第 1～2 回　講義　日本の三大手技療法（あん摩マッサージ指圧）の歴史や手技の特徴について
　　実技　マッサージの基本手技

第 3～4 回　講義　からだのバランスチェックとマッサージの効果
　　実技　マッサージの基本手技

第 5～6 回　講義　手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識①
　　実技　背中のタクティールケア

第 7～8 回　講義　手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識②
　　実技　手のタクティールケア

第 9～10 回　講義　手で“触れて”痛み・苦しみを緩和するタクティールケアの基礎知識③
　　実技　背中・手・足のタクティールケアの復習

第 11～12 回　講義　東洋医学のお灸とツボ
　　実技　各種お灸の体験とセルフケア

第 13・14 回　講義　東洋医学で体質チェック
　　実技　症状別のツボ療法とセルフケア

第 15 回　実技試験：タクティールケア／まとめ

第 15 回　実技試験（大麻陽子）（佐藤みか）（安永さゆり）（小泉敬子）（久保多美子）（百合葵）

11　学 習 方 法

講義 / デモンストレーション / ペアでの実技練習

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

配布資料

14　学生への要望

手技療法の実際を看護に活かせるように学んでください。

看 護 学 概 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅰ	1学年	前期	1単位	30時間	必修	中江秀美(看護師)

8 授業概要

団塊の世代が75歳に達し、後期高齢者が急増する2025年が到来する。我が国は高齢多死社会をすでに迎えている。看護の場は医療施設から生活の場にシフトしつつある。看護活動の場はますます拡大し変化していく。この現状に看護師に求められているものは何かを学ぶ。

（病院の看護業務・管理に携わった経験を持つ教員が、看護の概念について講義する。）

9 到達目標

1. 看護の定義と概念について理解する。
2. 健康・人間・環境の概念を理解する。
3. 保健・医療・福祉における看護の現状と看護の役割を理解する。

10 授 業 計 画

第1回　看護とは何か
第2回　歴史の中の看護（ナイチンゲールの功績）
第3回　歴史の中の看護（看護覚書：抄読と解説１章～５章）
第4回　歴史の中の看護（看護覚書：抄読と解説６章～13章）
第5回　健康のとらえ方
第6回　看護の対象の理解
第7回　健康生活の全体像の把握：統計的見かた
第8回　生活者としての人間の暮らしと環境
第9回　看護サービス提供の場
第10回　看護サービスと経済の仕組み
第11回　看護をめぐる制度と政策
第12回　医療安全と医療の質保障
第13回　国際化と看護
第14回　災害時における看護
第15回　多職種の理解と連携
第16回　まとめ / 試験

11 学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12 評 価 方 法

レポート / 試験

13 教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学①　看護学概論　　医学書院
『看護覚え書』　フローレンス・ナイチンゲール著　湯槙ます訳　現代社

14 学生への要望

自己の看護観につながる、なりたい看護師像を描きつつ授業に参加してほしいと思います。
そして、すばらしい専門職業人としての看護師を目指して共にステップアップして行きましょう。

看 護 理 論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅰ	2学年	後期	1単位	30時間	必修	江川隆子 中江秀美(看護師)

8 授業概要

理論は、相互に関連する概念・定義・命題の1つの組み合わせであり、現象について体系的な見方を提示してくれる。理論がその現象を説明したり予測したりする目的のためにあることを学ぶ。

（病院の看護業務携わった経験を持つ教員が、看護の理論について講義する。）

9 到達目標

1. 看護理論の中の概念を通して、看護の本質を理解し、健康障害時の看護の特徴について学ぶ。
2. 自己の看護観を育成する基礎とする。

10 授 業 計 画

第1回　看護診断とは
第2回　ＮＡＮＤＡ-Ⅰの分類
第3回　ゴードンの機能的健康パターン
第4回　看護過程と看護診断
第5回　看護問題、患者のニード及び看護診断との関係
第6回　理論とは何か（理論の構成要素と機能／広範囲・中範囲・小範囲理論）
第7回　ニード論：Ｖ.ヘンダーソン
第8回　ニード論：E.ウィーデンバック
第9回　人間関係論：Ｈ．Ｅペプロウ ／I．Ｊオーランド
第10回　人間関係論：J.トラベルビー
第11回　セルフケア論：Ｄ．Ｅオレム
第12回　環境適応論：Ｃ．Ｃロイ
第13回　健康行動論：ペンダー
第14回　習得理論：P.ベナー
第15回　試験

第1回～5回　江川隆子、第6回～15回　中江秀美（100）

11 学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク
第6回～14回については理論理解の講義とグループワークによる事例演習をおこなう。
各回で次回までの課題提出を求める。

12 評 価 方 法

レポート/グループワークの成果と課題提出/ 試験

13 教科書及び参考書

看護理論　看護理論20の理解と実践への応用　南江堂
看護覚え書　フロレンス・ナイティンゲール、日本看護協会出版会
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　第5版　ヌーヴェルヒロカワ
関連図でよくわかる病態・看護診断・看護記録　かみくだき診断過程　日総研出版
NANDA-Ⅰ看護診断　定義と分類　　監訳　日本看護診断学会　医学書院（参考図書）
『看護の基本となるもの』　ヴァージニア・ヘンダーソン著　湯槇ます訳　日本看護協会出版会（参考図書）

14 学生への要望

理論を構成している要素を学ぶことにより、看護の対象を理解する枠組みの重要性に気づいてもらいたい。

医　療　と　看　護　倫　理

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅰ	1学年	前期	1単位	30時間	必修	小泉敬子(看護師)

8　授業概要

人間の生命に対する基本的な考えを理解し、看護師としての食情倫理を学ぶ。
（病院の看護管理業務に携わった経験を持つ教員が、看護倫理について講義する。）

9　到達目標

1. 人間の生命に対する基本的理念が理解できる。
2. 専門職業人としての職業倫理が理解できる。
3. 医療現場で起こりうる倫理的諸問題について理解し、倫理的配慮の考え方を修得することができる。

10　授 業 計 画

第1回　倫理とは何か
第2回　医と看護の倫理綱領
第3回　患者の権利と公共の福祉
第4回　生命の始まりにおける倫理的問題（人工授精/体外受精/代理母/代理出産/妊娠中絶など）
第5回　生命の終末期における倫理的問題（脳死の再定義）
第6回　生命の終末期における倫理的問題（臓器移植と倫理）
第7回　ロールプレイング：グループでテーマを選択し演習・発表
～　テーマ1：信仰上の理由による治療拒否
　　テーマ2：悪い病名や予後をどの様に伝えるか
第9回　テーマ3：重度の障害を持つ新生児の治療
第10回　看護師の礼儀・作法・心構え
第11回　看護師の義務と責任
第12回　看護に必要とされる権利擁護
第13回　具体的ジレンマ事例を用いての演習
～　1.こちらの重症患者かあちらの重症患者か
　　2.服従か主張か
第14回　3.真実を言うべきか偽りも方便か
第15回　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / ロールプレイ

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学①　看護学概論　　医学書院
（以下参考資料）
医療倫理学の方法原則・手順・ナラティブ　著：宮坂　道夫　医学書院
ケースブック医療倫理　著：家永　登/白浜雅司/中尾久子/村岡潔/森下直貴　医学書院
生命と倫理について考える　生命と倫理に関する懇談報告　編集　厚生省健康政策局医事課　医学書院
身近な事例で学ぶ看護倫理　著：宮脇美保子　医学書院
具体的なジレンマからみた看護倫理の基本　責任編集：坪倉繁美　医学芸術社
『看護者の倫理綱領』で読み解くベッドサイドの看護倫理事例30　著：医療人権を考える会日本看護協会出版会

14　学生への要望

命の深さと尊さを学び、よりよい看護につなげてください。看護倫理の大切さを学び、看護師としての資質を養ってください。高い倫理性と責任感を持って判断し、行動できる能力の育成に努めること。

基礎看護方法論Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅰ	1学年	通年	2単位	60時間	必修	木戸みどり 逢坂幸佳 佐藤みか(看護師)

8　授業概要

看護活動の基礎となる共通基本技術と態度を習得する。日常生活行動援助の看護技術提供過程について身につける。(病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護活動の基本となる基礎看護技術について講義する。)

9　到達目標

1. 看護活動の基本となる基礎看護技術とは何か考え理解する。
2. バイタルサイン・環境・食事援助等の技術を習得する。
3. 看護の基本原則である安全・安楽を学び、技術を習得する。

10　授 業 計 画

第1回	看護技術とは　看護技術の特徴	第16回	食事援助技術
第2回	環境調整：環境とは	第17回	食事援助技術の実際
第3回	環境調整技術：環境整備、ベッドメイキング	第18回	校内演習：食事援助技術
第4回	校内演習：環境調整技術（環境整備）	第19回	食事援助技術
第5回	校内演習：環境調整技術（ベッドメイキング）	第20回	口腔ケア
第6回	環境調整技術（シーツ交換）	第21回	口腔ケア
第7回	校内演習：環境調整技術（シーツ交換）	第22回	摂食・嚥下訓練
第8回	ヘルスアセスメントとは	第23回	摂食・嚥下訓練
第9回	健康歴、セルフケア能力のアセスメント	第24回	排泄援助技術
第10回	ヘルスアセスメントの実際	第25回	排泄援助技術の実際
第11回	ヘルスケアアセスメントの実際 バイタルサイン、計測	第26回	校内演習：排泄援助技術
		第27回	校内演習：排泄援助技術
第12回	ヘルスケアアセスメントの実際 校内演習：バイタルサイン測定	第28回	排泄援助技術
		第29回	実技試験：おむつ交換
第13回	ヘルスケアアセスメントの実際 校内演習：バイタルサイン測定	第30回	筆記試験
第14回	実技試験：臥床患者のバイタルサイン測定		
第15回	筆記試験		

第1～19回、第24～30回佐藤みか（90）・第20～21回木戸みどり・第22～23回逢坂幸佳（10）
第4.5.7.12.13.14.18.26.27.29回
校内演習・実技試験（佐藤みか）（徳地暢子）（百合葵）（髙畑美佳）（学内講師）

11　学 習 方 法

講義 / 視聴覚教材 / 実技演習

12　評 価 方 法

筆記試験 / 実技試験 / 校内実習記録 / 小テスト / 演習態度

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学②・③　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院
【電子版】eナーストレーナー
医学書院　基礎看護技術まとめドリル―基本の技術と生活の援助編―宣広社

14　学生への要望

対象者に安全・安楽な看護が提供できるよう、基礎看護技術を根拠に基づいて学習してください。
学内での実技演習では、看護技術だけでなく実習記録の記載方法についても学びます。自己の看護技術を根拠とともに振り返り、評価・修正する機会としてください。
iPadによる視聴覚教材での予習、復習も必ず行うようにしてください。

基礎看護方法論　Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅰ	2 学年	通年	2 単位	60 時間	必修	松田美穂（看護師） 学内講師(看護師)

8　授業概要

対象の症状と症状別看護の実際および検査･治療における援助技術を学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、経過別・症状別・治療処置に伴う看護ついて講義する。）

9　到達目標

1. 対象に必要な経過別、症状別、治療処置別看護についての基礎が理解できる。
2. 治療・処置に伴う看護援助のための根拠・観察点・適応と禁忌を理解し基本技術が習得できる。

10　授 業 計 画

第 1 回	健康上のニーズをもつ生活者と家族 健康生活と看護	
第 2～3 回	経過に基づく患者の看護	（急性期・慢性期/リハビリテーション期/終末期）
第 4～5 回	検査・治療における援助	（看護師の役割、検査、治療・処置）
第 6～7 回	校内演習：検査・治療における援助	（酸素療法、体位ドレナージ、吸引）
第 8 回	検査・治療における援助	（与薬に関する基礎知識、経口与薬）
第 9 回	検査・治療における援助	（吸入、点眼）
第 10～11 回	検査・治療における援助	（与薬の技術・注射）
第 12～13 回	校内演習：検査・治療における援助	（薬液の吸い上げ･皮下注射）
第 14～15 回	検査・治療における援助	（校内演習/静脈内持続注射点滴の準備と管理）
第 16 回	筆記試験	
第 17 回	校内演習：検査・治療における援助	（静脈内持続点滴輸液ポンプ･シリンジポンプ）
第 18～19 回	検査・治療における援助	（検体検査・採血）
第 20～21 回	検査・治療における援助	（針刺し事故・安全管理）
第 22 回	検査・治療における援助	（輸血管理）
第 23 回	検査・治療における援助	（腰椎穿刺、胸椎穿刺、腹腔穿刺、骨髄穿刺）
第 24 回	主要症状を示す患者の看護	（痛み、呼吸障害、循環障害、消化器・排泄障害のある患者の看護）
第 25 回	主要症状を示す患者の看護	（消化器・排泄障害、意識障害、精神障害のある患者の看護）
第 26 回	治療・処置を受けている患者の看護	（安静療法、食事療法、薬物療法、輸液療法を必要とする患者の看護）
第 27 回	治療・処置を受けている患者の看護	（手術療法、創傷処置、人工臓器、放射線治療を必要とする患者の看護）
第 28 回	治療・処置を受けている患者の看護	（精神療法、救急法、集中治療を必要とする患者の看護）
第 29 回	校内演習：静脈血採血	
第 30 回	筆記試験	

第 1～7 回､16 回､第 24～28 回　学内講師(40)・第 8～15 回､17～23 回､29～30 回　松田美穂(60)

第 12.13.14.15.17.29 回　校内演習（松田美穂）（北村弘江）（中谷洋見）（荻田育代）（川田政子）

11　学 習 方 法

講義 / 視聴覚教材 / 演習

12　評 価 方 法

レポート / 筆記試験 / 実技試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ、基礎看護学④臨床看護総論　医学書院

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

基礎看護技術まとめドリル２―治療・処置・検査に伴う技術編―　宣広社

14　学生への要望

1 年生で学習した解剖生理学、疾病とその治療についての知識と関連させて看護技術を学習しましょう。

毎回の予習、復習は必ず行ってください。

基礎看護方法論　Ⅲ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅰ	2 学年	通年	2 単位	60 時間	必修	六車輝美（看護師） 山内豊明

8　授業概要

フィジカルアセスメントの目的・意義を理解し基本技術の習得及びアセスメント能力を習得できる。
（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、系統別のフィジカルアセスメントについて講義する。）

9　到達目標

1. フィジカルアセスメントの意義と目的が理解できる。
2. 系統的にフィジカルアセスメントのテクニックを習得できる。
3. 収集した情報を看護援助に結びつけてアセスメントができる。

10　授 業 計 画

第 1～2 回　フィジカルアセスメントの概論、フィジカルアセスメントの基本技術
第 3 回　体液調節機能のフィジカルアセスメント
第 4～6 回　呼吸機能のフィジカルアセスメント（GW、演習）
第 7～9 回　循環機能のフィジカルアセスメント（GW、演習）
第 10～11 回　実技試験：呼吸音聴取
第 12～13 回　摂食・嚥下機能のフィジカルアセスメント、栄養・吸収代謝機能のフィジカルアセスメント
第 14～15 回　腹部の聴診・触診（演習）
第 16～17 回　排便機能のフィジカルアセスメント、排尿機能のフィジカルアセスメント
第 18～19 回　運動機能のフィジカルアセスメント、運動調節機能のフィジカルアセスメント
第 20 回　筆記試験
第 21 回　感覚器のフィジカルアセスメント
第 22 回　感覚器機能のフィジカルアセスメント
第 23 回　高次機能のフィジカルアセスメント
第 24 回　内部環境調節機能のフィジカルアセスメント
第 25 回　生体防御機能（皮膚・免疫・リンパ）のフィジカルアセスメント
第 26～28 回　事例で学ぶフィジカルアセスメント（GW・発表）
第 29～30 回　症状・徴候からのフィジカルアセスメント（GW、発表）
第 31 回　筆記試験

第 1～30 回　六車輝美（100）・特別講義（4 コマ）　山内豊明
第 10.11 回　実技試験（六車輝美）（北村弘江）（中谷洋見）（荻田育代）（川田政子）

11　学 習 方 法

講義 / 視聴覚教材 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

レポート / 筆記試験 / 実技試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統別看護講座　専門Ⅰ　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
フィジカルアセスメントガイドブック　第 2 版　山内　豊明　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

フィジカルアセスメント技術は、「患者様を知る」ためのひとつの手段です。決して難しいものではありません。今までの学習内容を活かし、技術の根拠を理解することで興味を持って取り組める教科です。

基礎看護方法論　Ⅳ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅰ	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	佐藤みか(看護師)

8　授業概要

患者の状態を観察、判断、実施したケアの評価をするための思考過程の手段であることを理解し、事例を用いて、看護過程の展開方法を学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護過程の展開について講義する。）

9　到達目標

1. 看護過程の意義と目的が理解できる。
2. 看護過程の展開は、対象の状態を観察、判断、実施したケアの評価をする思考過程の手段であることを理解できる。
3. 看護過程の各段階について理解できる。
4. ペーパー・ペイシェントの事例をもとに看護過程を展開することができる。

10　授 業 計 画

第 1 回	看護実践の方法論	看護過程とは、問題解決過程、クリティカルシンキング
第 2 回	看護実践の方法論	看護過程の各段階（アセスメントとは、アセスメントの枠組み）
第 3 回	看護過程の展開	アセスメント（情報の収集と分析）
第 4 回	看護過程の展開	アセスメント（情報の収集と分析）
第 5 回	看護過程の展開	全体像の把握（関連図）
第 6 回	看護過程の展開	看護問題の明確化、看護問題の種類と優先順位
第 7 回	看護過程の展開	看護計画（期待される成果、看護の立案）
第 8 回	看護過程の展開	看護計画の実施と評価
第 9 回	看護過程の展開	看護記録（ＳＯＡＰ、フローシート、実習記録）
第 10～13 回	看護過程の実際	グループワーク
第 14 回	まとめ	
第 15 回	試験	

第 3～8 回講義：事例①「ＣＯＰＤ」

第 10～13 回講義：事例②「大腿骨頸部骨折」

第 10～13 回　グループワーク（佐藤みか）（北村弘江）（川田政子）（久保多美子）（学内講師）

11　学 習 方 法

講義 /グループワーク

12　評 価 方 法

提出物 / 視聴覚教材 /筆記試験

13　教科書及び参考書

基礎看護技術Ⅰ　医学書院

病態生理と実践がみえる関連図と事例展開　根拠がわかる疾患別看護過程　南江堂

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

看護過程は、看護の対象者にとって必要な援助を見きわめ、安楽で安全に提供するための手段・方法論です。

臨地実習で必要な記録に関しても学習します。履修に必要な事前学習と復習をし、授業に取り組んでください。ＰＣやタブレット端末については、必要時持参し受講してください。

基礎看護援助論　Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅰ	1学年	通年	2単位	60時間	必修	荻田育代(看護師) 徳地暢子(看護師)

8　授業概要

日常生活者としての自立を援助する技術を習得する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活援助技術について講義する。）

9　到達目標

1. 清潔・衣生活の基本を理解し、根拠に基づいた援助技術を習得する。
2. 感染予防と創傷管理について理解し、無菌操作方法を習得する。
3. 安楽に関連する症状を示す対象の看護として安楽に関連するニーズの充足にむけた援助技術を習得する。

10　授 業 計 画

第1回	看護技術を学ぶにあたって（安全・安楽の確保）	第16回	感染防止基礎知識
第2回	標準予防策の基礎知識	第17回	無菌操作・感染性廃棄物の取扱い
第3回	病床での衣生活の援助	第18回	滅菌手袋・滅菌ガウンの着脱
第4回	校内演習：病床での衣生活の援助	第19回	校内演習：無菌操作の実際
第5回	清潔援助の実際　入浴・シャワー浴	第20回	創傷管理の技術
第6回	清潔援助の実際　整容	第21回	創傷処置と看護、包帯法
第7回	校内演習：清潔援助の実際　手浴・足浴・爪切	第22回	校内演習：創傷管理の技術
第8回	清潔援助の実際　全身清拭	第23回	褥瘡予防
第9回	清潔援助の実際　清拭と寝衣交換	第24回	褥瘡の好発部位、褥瘡発生予測
第10回	清潔援助の実際　全身清拭の実際	第25回	罨法の実際
第11回	清潔援助の実際　全身清拭の実際	第26回	一時的導尿
第12回	清潔援助の実際　洗髪	第27回	持続的導尿
第13回	校内演習：清潔援助の実際　洗髪の実際	第28回	校内演習：導尿の実際①
第14回	校内演習：清潔援助の実際　洗髪の実際	第29回	校内演習：導尿の実際②、まとめ
第15回	筆記試験	第30回	筆記試験

第1～15回　荻田育代（50）・第16～30回　徳地暢子（50）

第4.7.13.14.19.22.28.29回

校内演習（荻田育代）（徳地暢子）（百合葵）（髙畑美佳）（学内講師）

11　学 習 方 法

講義 / 演習 /視聴覚教材

12　評 価 方 法

筆記試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　医学書院

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学④　臨床看護総論　医学書院

【電子版】eナーストレーナー　医学書院

基礎看護技術まとめドリル―基本の技術と生活の援助編―　宣広社

基礎看護技術まとめドリル２―治療・処置・検査に伴う技術編―　宣広社

14　学生への要望

根拠に基づいた看護基礎技術アセスメントや援助技術を習得するために、自ら調べて考察し、看護技術をみがいていきましょう。また、グループ演習ではお互いに調べ・話し合い、技術チエックし合いながら課題に取り組みましょう。

基礎看護援助論　Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6 必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅰ	1学年	通年	2単位	60時間	必修	西村登志子（看護師） 藤沢千春 逢坂幸佳

8　授業概要

健康上のニーズを持つ対象とその家族に対して看護ケアを実践するために、必要な基本的な知識、技術を習得するとともに、症状・生体機能・管理技術について学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活の自立支援技術について講義する）

9　到達目標

1. 日常生活者としての自立を援助する看護方法と技術を習得する。
2. 救急時の看護を理解し、一次救命処置が実施できる。
3. 死亡時の看護を理解し、対象を人間として尊厳し、家族の思いも配慮した対応について説明できる。

10　授 業 計 画

第1回	基本的活動の援助　基本体位・特殊体位	第16回	呼吸・循環を整える技術
第2回	体位変換	第17回	呼吸・循環を整える技術
第3回	体位変換・ポジショニング	第18回	呼吸・循環を整える技術
第4回	移乗・移送の援助	第19回	呼吸・循環を整える技術
第5回	移乗・移送の援助	第20回	校内演習：排たんケア
第6回	実技試験：移乗・移送の実技試験	第21回	校内演習：排たんケア
第7回	睡眠・覚醒の援助	第22回	筆記試験：排たんケア
第8回	筆記試験	第23回	校内演習：生体情報のモニタリング
第9回	ボディメカニクス	第24回	校内演習：生体情報のモニタリング
第10回	ボディメカニクス	第25回	救命救急処置技術
第11回	ボディメカニクス	第26回	救命救急処置技術
第12回	ボディメカニクス	第27回	看護における教育・指導
第13回	ボディメカニクス	第28回	看護における教育・指導
第14回	ボディメカニクス	第29回	死の看取りの技術
第15回	筆記試験：ボディメカニクス	第30回	筆記試験

第1～8回、第16～19回、第23～30回　西村登志子（70）・第9～15回　藤沢千春（20）
第20～22回　逢坂幸佳（10）
第6.20.21.23.24回
校内演習・実技試験（西村登志子）（徳地暢子）（髙畑美佳）（百合葵）（学内講師）

11　学 習 方 法

講義 / 視聴覚教材 / グループワーク / 演習

12　評 価 方 法

筆記試験 / 実技試験 / 提出物

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学④　臨床看護総論　医学書院
【電子版】eナーストレーナー　医学書院
基礎看護技術まとめドリル―基本の技術と生活の援助編―　宣広社

14　学生への要望

人間の尊厳や羞恥心に配慮した看護の基本的知識や援助技術が身につくよう熱心に学習に取り組んで欲しい。

基礎看護援助論　Ⅲ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅰ	1学年	前期	1単位	30時間	必修	安永さゆり(看護師)

8　授業概要

医療におけるコミュニケーションの特徴と重要性を理解し、基本的な実践方法を習得する。
（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が医療におけるコミュニケーション技術について講義する。）

9　到達目標

1. 医療におけるコミュニケーションの重要性と基本的な方法について学び、実践できる。
2. 様々な対象へ適切なメッセージを伝える方法を学ぶ。
3. コミュニケーション障害がある人の特徴と効果的な対応を学ぶ。

10　授 業 計 画

第1回　コミュニケーションとは何か・コミュニケーションの種類
第2回　コミュニケーションに影響するもの・看護におけるコミュニケーション
第3回　良好なコミュニケーションに必要な技法―質問技法―
第4回　積極的傾聴
第5回　良好なコミュニケーションに必要な技法―関係構築の技法―
第6回　看護面接のプロセス　13STEP
第7回　看護面接のトレーニング
第8回　校内演習：「看護面接」
第9回　高度なコミュニケーション
第10回　多職種連携とコミュニケーション・患者家族とのコミュニケーション
第11回　領域別コミュニケーション「急性期・慢性期」
第12回　領域別コミュニケーション「老年期・認知症」
第13回　領域別コミュニケーション「小児」
第14回　領域別コミュニケーション「母性」
第15回　領域別コミュニケーション「精神・在宅」
第16回　試験

11　学 習 方 法

講義 / 視聴覚教材 / グループワーク / ロールプレイ

12　評 価 方 法

課題・演習・試験

13　教科書及び参考書

基礎看護技術Ⅰ　医学書院
看護コミュニケーション　医学書院
対象を理解して学ぶ領域別コミュニケーション　学研メディカル秀潤社
配布資料

14　学生への要望

さまざまな背景や価値観を持つ対象と相互の発するメッセージの意味や感情の理解を深め、信頼できる関係性を築くことを目的にコミュニケーションについて学びます。医療職者としての役割をふまえ、演習に臨んでください。

看　護　研　究　Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅰ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	佐藤みか(看護師) 尾張豊

8　授業概要

看護専門職として文献を活用する意義を理解し、文献検索、論評する能力を身につける。科学的な看護実践を研究し、その成果を看護活動に活用する方法を理解する。

（病院の看護業務及び看護研究に携わった経験を持つ教員が、看護学における研究について講義する。）

9　到達目標

1. 看護学領域における研究について学ぶ。
2. 看護研究の目的と意義、質的・量的研究の概略、倫理的課題について学ぶ。
3. 研究のプロセスや研究論文を批判する視点を学び、先行文献を批判的に検討し、自分の研究に繋げる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　看護研究とは
第 2 回　　看護研究のはじめ方
第 3 回　　情報の探索と吟味
第 4 回　　研究における倫理的配慮
第 5 回　　研究デザイン
第 6 回　　データの収集
第 7 回　　データの分析
第 8 回　　研究計画書の作成
第 9 回　　研究を伝える
第 10 回　　ケースレポート・事例研究の進め方
第 11 回　　調査研究の進め方
第 12 回　　文献研究・実践報告の進め方
第 13 回　　質的な看護研究
第 14 回　　効果的なプレゼンテーション
第 15 回　　抄録の書き方・まとめ
第 16 回　　試験

第 1～5 回　佐藤みか(30)・第 6～16 回　尾張豊(70)

11　学 習 方 法

講義 / 自己学習 / グループ学習 / クラス討論

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　別巻　看護研究

14　学生への要望

「研究」の方法や手順をしっかりマスターして未来の臨床研究につなげてください。

看　護　研　究　Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅰ	4 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	六車輝美(看護師)

8　授業概要

研究研究Ⅰの学びを活かして、科学的な思考に基づきクリティカルシンキングⅡの課題であるケーススタディーまとめる。

（病院の看護業務及び看護研究に携わった経験を持つ教員が、看護学領域における研究について講義する。）

9　到達目標

1. 事例研究を通して研究の流れを体得する。
2. 倫理的配慮をしながらテーマに沿った研究計画を立案し、論文としてまとめることができる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　研究とは、文献検討
第 2 回　　文献検索、文献クリテーク、文献整理の方法
第 3 回～4 回　ケースレポートと事例研究の違い
第 5 回　　前回（3 年生）の事例研究を振り返る
第 6 回～8 回　文献検討文献クリテーク、文献整理
第 9 回　　研究における倫理的配慮
第 10 回　　今回（4 年生）の事例研究を深める
第 11 回　　研究計画書作成
第 12 回　　集録作成
第 13 回　　集録作成
第 14 回　　発表の基本
第 15 回　　まとめ、試験

11　学 習 方 法

講義 / 自己学習

12　評 価 方 法

レポート／筆記試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　別巻　看護研究
看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方　照林社

14　学生への要望

論文作成により、科学的な思考方法を体得し、常に学び、研究する姿勢を身につけてほしい。

基礎看護学実習Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅰ	1学年	後期	1単位	45時間	必修	看護学科教員

8　目　　的

1.病院の構造、機能を知り、患者を取り巻く環境を理解し、対象とのコミュニケーションがとれる。

2.看護の知識・技術・看護師の役割や看護業務を理解する。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9　到達目標

1.病院の構造、機能を知り対象を取り巻く環境を理解する。

2.対象を理解し、コミュニケーションがとれる。

3.看護師の役割や、看護業務を理解する。

10　実習内容

1. 病院の構造、病棟の構造の中で患者を取り巻く環境について知る。（温度、湿度、音、採光、プライバシー等）
2. 対象とコミュニケーションがとれ、人間関係を築くことができる。
3. 最初は看護師について見学実習を行い、対象者の人間を理解し入院生活、対象の環境としての病院の機能と役割を知り、看護師が病院の中でどのような役割を果たしているか実際の場面を体験し修得する。
4. 臨地実習指導者の指導・助言のもとに、患者の状態を判断し、安全安楽に援助できる。
5. 実習生としての責任のある言動を取り、積極的に実習に取り組む。
6. 社会人基礎力を培う。

11　実習方法

病院や病棟の構造や看護活動を知ったうえで、看護師と共に担当患者に関わり、バイタルサイン測定や清潔援助等を実践する。

12　評 価 方 法

援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、視聴覚教材

実習までにやっておきたい　基礎看護技術まとめドリル―基本の技術と生活の援助編―　宣広社

詳細は実習概要参照

【電子版】eナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

患者様やご家族から学ばせて頂くという基本的な態度と心構えを忘れないこと。好感がもてる挨拶や言葉遣い、実習にふさわしい身だしなみ、自己の健康管理も大切です。

基礎看護学実習Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅰ	2 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員

8　目　的

1. 日常生活の援助、診療の援助技術を習得する。
2. 看護過程展開の基礎を理解する。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9　到達目標

1.対象に応じた基本技術、日常生活援助が実施できる。

2.対象に応じた看護過程の展開ができる。

10　実習内容

1. 看護過程の展開
   1 週目：情報収集、情報の整理・解釈・総合ができる。
   2 週目：情報の分析・統合の後、問題点を抽出し、関連図で確認ができ、計画立案ができる。
   3 週目：看護計画に従って実施できる。（セルフケアの 1 つを展開する）
2. 受け持ち患者の基本技術・日常生活援助技術は、実習 2 日目より、臨地実習指導者とともに実施する。
3. 受け持ち患者で経験できない技術は、他の患者で臨地実習指導者とともに実施する。
4. 患者の治療に携わる各部門との連携方法を学ぶ。
5. カンファレンスの実施。
6. 実習生としての責任のある言動を取り、積極的に学びを深める。
7. 社会人基礎力を培う。

11　実習方法

グループを編成し講義、学内実習で学んだ日常生活の援助や診療の援助技術を対象者の、現状に合わせ実践する。

12　評 価 方 法

援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、視聴覚教材
実習までにやっておきたい　基礎看護技術まとめドリル―基本の技術と生活の援助編―　宣広社
実習までにやっておきたい　基礎看護技術まとめドリル②―治療・処置・検査に伴う技術編―　宣広社
詳細は実習概要参照
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

患者様やご家族から学ばせて頂くという基本的な態度と心構えを忘れないこと。対象や場に応じた挨拶や言葉遣い、実習にふさわしい身だしなみ、自己の健康管理も大切です。看護過程や SOAP の基礎を学んで下さい。

成人看護学概論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	北村弘江(看護師)

8　授業概要

成人の特性を理解し、健康に及ぼす因子を理解する成人看護の目的を理解する。成人看護活動の場と役割を学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護について講義する。）

9　到達目標

1. 成人の生活と成人各期における健康問題を理解する。
2. 成人を看護するときのアプローチの基本を理解する。
3. 成人の健康レベルに応じた看護を理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　成人期にある対象の特徴
第 2 回　成人期にある人のライフステージ
第 3 回　成人を取り巻く環境
第 4 回　成人の健康問題
第 5 回　生活習慣病の予防と看護
第 6 回　保健・医療・福祉システムの連携の重要性
第 7 回　生活を脅かす要因と看護
第 8 回　健康生活の急激な破綻から回復を促す
第 9 回　慢性的な健康状態の揺らぎと慢性病（生活習慣病）
第 10 回　障害がある人の生活とリハビリテーション
第 11 回　人生の最後のときを支える看護
第 12 回　学習者である患者への看護技術
第 13 回　療養の場を移行する人々への看護技術
第 14 回　新たな治療法、先端医療と看護
第 15 回　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / グループワーク / 視聴覚教材

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学①　成人看護学総論　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

成人に生じやすい健康上の問題を将来身近な問題としてとらえ、基本的なアプローチを理解してほしい。

成人看護方法論Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	北村弘江(看護師)

8　授業概要

急性的展開をする疾患または病態の人を理解し、その援助を学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が成人看護学領域における看護技術について講義する。）

9　到達目標

1. 成人看護の急性期の病態と看護の特徴を理解する。
2. 急激な健康状態の変化が起こっている患者に対し、観察や適切な対処、医療処置、心理的安定などを理解する。
3. 集中治療の特徴と治療を受けている患者の心理を理解する。
4. 急性期における看護技術を理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　急性期看護概論
第 2 回　脳・神経系に障害を受けた患者の看護
第 3 回　ドレーンを付けている患者の看護
第 4 回　呼吸器系に障害を受けた患者の看護
第 5 回　気管内挿管・人工呼吸器装着中の管理・気管切開中の患者の看護
第 6 回　胸腔ドレナージを受ける患者の看護
第 7 回　運動器系に障害を受けた患者の看護
第 8 回　多発外傷の患者の看護（人口呼吸器・胸腔ドレーン・牽引中の患者の看護）（校内演習）
第 9 回　循環器系に障害を受けた患者の看護
第 10 回　循環動態の評価（ショック状態・中心静脈圧）
第 11 回　カテーテル治療を受ける患者の看護
第 12 回　事例展開　急性期患者の看護（救急看護）
第 13 回　事例展開　急性期患者の看護（侵襲の大きい治療を受ける患者の看護）
第 14 回　事例展開　急性期患者の看護（集中治療中の患者の看護）
第 15 回　まとめ / 試験
※第 12～14 回事例　急性心筋梗塞

第 8 回　校内演習（北村弘江）（中谷洋見）（荻田育代）（川田政子）（安永さゆり）

11　学 習 方 法

講義 / グループワーク / 校内実習

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学③循環器、②呼吸器、⑦脳・神経、⑩運動器　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

成人の定義、成人であることの自覚、成人の特徴などを学び臨地実習での援助に役立てて欲しい。

成人看護方法論Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	本村香代子 西紋佳奈　塩田和代 中谷洋見（看護師）

8　授業概要

回復期の病態を理解し、その人らしい生活を再構築していく過程の看護援助を学ぶ。
（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が成人領域における障害を受けた患者の看護について講義する。）

9　到達目標

1. 回復期の病態を理解し、心身の機能・構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした対象とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程の看護を理解する。
2. リハビリテーションの概念と看護の役割を理解する。
3. 機能障害別リハビリテーション看護について理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回	リハビリテーション看護の考え方、倫理と法的問題	
第 2 回	リハビリテーション看護を必要とする対象の特徴と理解	
第 3 回	消化器系の障害を受けた患者の看護	
第 4 回	運動器系に障害を受けた患者の看護（脊椎損傷）	
第 5 回	脳神経に障害を受けた患者の看護（脳梗塞）	
第 6 回	脳神経に障害を受けた患者の看護（脳梗塞）、嚥下リハビリ	
第 7 回	女性生殖器に障害を受けた患者の看護（乳がん）	
第 8 回	看護過程の展開・・・事例	乳がんの患者の看護（導入・グループワーク）
第 9 回	事例	乳がんの患者の看護（グループワーク）
第 10 回	事例	乳がんの患者の看護（まとめ）
第 11 回	事例	乳がんの患者の看護（発表/総評）
第 12 回	日常生活行動の援助技術	ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（グループワーク）
第 13 回	日常生活行動の援助技術	ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（グループワーク・まとめ）
第 14 回	日常生活行動の援助技術	ボディイメージの障害のある患者の衣類の工夫（発表・総評）
第 15 回	まとめ / 試験	

第 1～3 回　中谷洋見（10）・第 4～6 回　塩田和代（30）・第 7～11 回　西紋佳奈（30）・
第 12～15 回本村香代子（30）

11　学 習 方 法

講義 / グループワーク / 校内実習 / 視聴覚教材

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学⑦脳・神経、⑩運動器、⑤消化器、⑨女性生殖器　医学書院
【電子版】系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

リハビリテーションの基本や方法などを学び、臨地実習での援助に役立てて欲しい。

成人看護方法論Ⅲ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	金丸トモ子

8　授業概要

健康危機状況にある成人の看護、周手術期看護の役割と術前・術中・術後看護について学ぶ。

9　到達目標

1. 手術療法における看護に必要な知識と方法を理解する。
2. 主な手術療法を受ける人の術前術後の看護の特徴と援助方法について理解する。
3. 手術を受ける患者、家族の精神的援助方法について理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　周手術期にある患者の術前/術中/術後の看護
手術療法の過程
周手術期におけるチーム医療
インフォームドコンセント

第 2 回　校内実習　術後ベッドメーキング/手術前の剃毛/外科的手洗い

第 3 回　意識レベルの測定と記録の仕方

第 4 回　開腹術を受ける人の看護（術前の看護、術前に行われる検査、処置）

第 5 回　開腹術を受ける人の看護（術後合併症の予防と看護）

第 6 回　開胸術を受ける人の看護（術前の看護/術後合併症の予防と看護）　呼吸リハビリ

第 7 回　開頭術を受ける人の看護（脳神経症状の観察と看護/術後合併症の予防と看護）
内視鏡による手術の看護

第 8 回　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 校内実習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院（参考図書）

14　学生への要望

術前、術中、術後の看護を学び臨地実習での援助に役立てて欲しい。
自宅での学習も十分にしておいて欲しい。

成人看護方法論Ⅳ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	西村登志子(看護師) 中澤尚子

8　授業概要

慢性的の病態を理解し、セルフケア再獲得についての援助を学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、成人疾患におけるセルフケと看護について講義する。）

9　到達目標

1. 慢性期の病態を理解し、セルフケア再獲得についての援助を理解する。
2. セルフケアが低下した状態に陥ったとき、セルフケアを再獲得し、その人らしく生きていく看護を理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回	セルフケアマネジメント・セルフケア低下状態にある対象の理解
第 2 回	セルフケア再獲得を支援する看護（システム・アドボカシー）
第 3～4 回	腎不全をもつ患者の看護（日常生活指導/食事指導など）
第 5 回	慢性閉塞性肺疾患をもつ患者の看護
第 6 回	糖尿病合併症の予防と看護・糖尿病をもつ患者の食事指導及びインスリン自己注射（視聴覚教材/デモスト）
第 7 回	心不全の患者の看護・脳・神経の障害をもつ患者の看護（脳梗塞患者の合併症の予防）
第 8 回	校内演習：糖尿病患者の自己血糖測定法の実際
第 9～10 回	肝障害をもつ患者の看護（肝硬変症・Ｃ型肝炎患者の看護）
第 11～12 回	校内演習：人工肛門造設術をうける看護（ストーマ管理/社会資源の活用その他）
第 13 回	事例展開①　糖尿病腎症（透析導入）
第 14 回	事例展開①　糖尿病腎症（透析導入）
第 15 回	まとめ / 試験

第 1～10 回、第 13～15 回　西村登志子（100）・第 11～12 回　中澤尚子

第 8.11.12 回　校内演習（西村登志子）（中澤尚子）（北村弘江）（中谷洋見）（川田政子）

11　学 習 方 法

講義 / 校内実習 / グループワーク / 視聴覚教材 / デモスト

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学②呼吸器、⑤消化器、⑩運動器、⑥内分泌・代謝、⑧腎・泌尿器、⑦脳・神経　医学書院

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

セルフケア再獲得における精神面、身体面、社会面の援助を学び臨地実習で役立てて欲しい。

成人看護方法論Ⅴ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	北村弘江(看護師)

8　授業概要

終末期の病態や対象を理解し、その援助について学ぶ。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、終末期における看護について講義する。）

9　到達目標

1. 終末期の病態や対象を理解し、その援助を理解する。
2. 人間の死をどうとらえるか、また延命治療との違いなどターミナルを理解しそのアプローチや苦痛の緩和、精神的援助を理解する。
3. 終末期における患者や家族を理解し、様々な苦痛に対する援助を理解する。
4. 死生観や QOL の視点から日常生活援助を理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　緩和ケアの歴史
第 2 回　緩和ケアにおけるチームアプローチ
第 3 回　生と死を支えるケア
第 4 回　意思決定を支えるための看護師の役割
第 5 回　緩和ケアにおける倫理的課題
第 6 回　全人的ケアの実践
第 7 回　緩和ケアの広がり
第 8 回　終末期の家族ケア
第 9 回　症状マネジメントにおける看護技術
第 10 回　臨時期のケア
<u>第 11 回　校内演習：死後の処置</u>
第 12 回　事例展開　緩和ケアの実際（グループワーク）
第 13 回　事例展開　緩和ケアの実際（まとめ）
第 14 回　事例展開　緩和ケアの実際（発表・総評）
第 15 回　まとめ / 試験
※第 12～14 回事例肝硬変

第 11 回　校内演習（北村弘江）（佐藤みか）（安永さゆり）（小泉敬子）（久保多美子）

11　学 習 方 法

講義 / 校内実習 / グループワーク / 視聴覚教材

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　別巻 緩和ケア　医学書院
【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　成人看護学②呼吸器　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

死生論、生命倫理学、哲学などを想起し、人の死をどうとらえるか考え、臨地実習での援助に役立てて欲しい。

老年看護学概論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	阿部美知子(看護師)

8　授業概要

老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化を知り、老年のライフサイクル、ライフステージとその健康課題を理解する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、老年看護における特徴とその理解について講義する。）

9　到達目標

1. 高齢者の特徴や加齢に伴う身体的･精神的･社会的変化を看護の視点から理解できる。
2. 高齢者の生活を保健･医療･福祉と関連づけて理解できる。
3. 高齢者と家族及び支える人を対象とした、老年看護の機能と役割が理解できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　老いるということ、老いを生きるということ
　高齢者の理解
　グループワーク「老いとは何か」

第 2～4 回　　超高齢社会と社会保障
　保健医療福祉の動向と超高齢社会の現況(権利擁護･虐待･身体拘束)
　新聞記事を用いてのグループワーク

第 5 回　　老年看護の成り立ち
老年看護教育の発展
老年看護の役割

第 6～7 回　　高齢者のヘルスアセスメント
　身体の加齢変化とアセスメント(感覚器･循環器･呼吸器・運動器)

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護学　　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

老化現象というマイナスイメージだけでなく、エイジングの多様でポジティブな側面に着眼しつつ、広い視野から老年看護を学んで欲しい。また、高齢者を取りまく施策の動きに注目して欲しい。

老年看護方法論　Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	小室直子(看護師)

8　授業概要

老年看護の目標を明確にし、対象の特徴を多角的に理解した上で、対象に必要な看護ケアの知識・技術を習得する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、加齢現象が日常生活に及ぼす援助について講義する。）

9　到達目標

1. 老年看護の原理と倫理を機軸に置いた活動の展開方法が理解できる。
2. 加齢現象が日常生活に及ぼす影響をふまえ、生活機能の観点から日常生活援助の基本が習得できる。

10　授 業 計 画

第 1～5 回　高齢者の生活機能を整える看護
日常生活を支える基本的活動、食事・食生活、排泄、清潔、生活リズム、
コミュニケーション
セクシュアリティ、社会参加

第 6～9 回　健康逸脱から回復を促す看護
症候のアセスメントと看護、身体疾患のある高齢者の看護、
認知機能障害のある高齢者の看護

第 10～12 回　治療を必要とする高齢者の看護
検査･薬物療法を受ける高齢者の看護、手術を受ける高齢者の看護
リハビリテーション･入院治療を受ける高齢者の看護

第 13 回　エンドオブライフケア
エンドオブライフケアの概念、死生観、意思決定支援、末期段階に求められる援助

第 14 回　生活療養の場における看護
高齢者とヘルスプロモーション、住まい･家族への援助

第 15 回　高齢者のリスクマネジメント
医療安全・救命救急・災害

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護学　　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

超高齢社会における健康長寿をめざし、高齢者への対応を学びそれを実践して社会に貢献してほしい。

老年看護方法論　Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	井川咲子

8　授業概要

老化と疾病・障害のメカニズムを学び、程度に応じた老年看護の特徴、その必要性を理解し、方法と技術を習得する。

9　到達目標

1. 老年者の生理的特徴から症状の現れ方や罹患しやすい疾患を関連づけて考えることができる。
2. 老年者の健康障害の特徴をふまえ、QOL を重視した看護を展開できる基礎的能力が習得できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　高齢者の生理的特徴

第 2～4 回　　老年症候群
老年症候群の特徴、おもに急性疾患に付随する症候、おもに慢性疾患に付随する症候
主に ADL 低下に合併する症候、フレイル

第 5～6 回　　高齢者の健康状態の把握と総合機能評価
高齢者のフィジカルアセスメント、バイタルサイン測定･身体測定、
訪問場面での健康状態の把握、高齢者総合機能評価

第 7～11 回　　高齢者の疾患の特徴
認知症、精神･神経疾患、循環器系の疾患、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、
内分泌･代謝系の疾患、自己免疫疾患、血液の疾患、腎･泌尿器系の疾患、運動器の疾患
皮膚の疾患、感覚器の疾患、歯･口腔の疾患、感染症

第 12 回　　高齢者と薬

第 13～14 回　　高齢者のリハビリテーション
高齢者におけるリハビリテーションとは、内部障害リハビリテーション
肢体不自由リハビリテーション、廃用性疾患のリハビリテーション、
非薬物療法としてのリハビリテーション

第 15 回　　まとめ・試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

高齢者におこりやすい疾患と看護について学習します。「疾病と治療」で学習した内容を確認しておきましょう。

老年看護方法論　Ⅲ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	小室直子(看護師)

8　授業概要

健康障害を持つ高齢者に必要な看護やケアマネージメント・ケアシステムの理解ができ看護理論を用いながら、看護過程の展開を習得する。

（病院の看護業務に携わった経験を持つ教員が、老年期にある対象の看護過程について講義・演習する。）

9　到達目標

1. 老年期にある対象を総合的に理解し、高齢者の身体的特徴を体験する。
2. 老年看護を実践するうえで必要な看護理論を活用する方法を習得する。
3. 健康障害をもった高齢者の特性やエンドオブライフをふまえた基本的な看護過程の展開方法を習得する

10　授 業 計 画

第 1 回	老年看護過程の考え方　老年看護過程の倫理的側面
第 2 回	高齢者の身体的特徴の体験　老年看護過程における理論・概念の活用
第 3 回	老年看護過程におけるアセスメント（ヘルスケア・生活機能） 老年看護過程の看護の焦点（問題解決思考・目標志向型思考）と全体像 老年看護過程における看護情報の分析 健康障害をもつ高齢者の看護上の問題点の明確化
第 4.5 回	老年看護過程の具体的展開（看護計画）①②　事例：誤嚥性肺炎
第 6.7 回	老年看護過程の具体的展開（看護計画）③④
第 8.9 回	老年看護過程の具体的展開（看護計画実施、実施後計画の追加・修正）⑤⑥ 校内演習：誤嚥性肺炎のある患者の ADL の援助①
第 10.11 回	老年看護過程の具体的展開（看護計画追加・修正後の実施）⑦⑧ 校内演習：誤嚥性肺炎のある患者の ADL の援助②
第 12.13 回	老年看護過程の具体的展開（実施・実施後の評価）⑨⑩
第 14 回	老年看護過程の実施におけるリフレクション 質の高い老年看護の提供に向けた看護理論の活用
第 15 回	試験

第 8～11 回　校内演習（小室直子）（北村弘江）（中谷洋見）（川田政子）（荻田育代）

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / 筆記試験

12　評 価 方 法

筆記試験 ・レポート・演習態度等の総合評価

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　　老年看護学　医学書院　　根拠が分かる疾患別看護過程　　南江堂

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

老年期に関わる看護職は様々な場面で看護を実践しているため、高齢者の尊厳や生活をまもりながらエンドオブライフケアを実践する方法として老年看護過程を学びます。学生自身の看護観・老年観・死生観を統合しながら学習を深めていきましょう。

小児看護学概論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	松田美穂(看護師)

8　授業概要

1.現在の子どもと家族の概況や倫理的観点から、小児看護の役割と課題を学ぶ。
2.子どもと家族を取り巻く社会と子どもをめぐる社会システムや制度について学ぶ。
3.　子供の成長・発達に関する基本的な知識について学ぶ。
（病院の小児看護に携わった経験を持つ教員が、小児特徴の特徴と成長発達について講義する。）

9　到達目標

1.　小児看護の特徴、理念、役割を理解する。
2.　小児期の成長・発達とその特徴を理解する。
3.　小児の発達課題とその意義について理解する。
4.　小児を取り巻く環境と社会システムや制度について理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　小児看護の特徴と理念　（小児看護の目指すところ・小児看護の変遷・課題・小児と家族の諸統計）

第 2 回　小児の成長発達　（成長発達とは・成長発達に影響する因子）

第 3 回　小児の栄養　（子どもにとっての栄養の意義・発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護）

第 4 回　家族の特徴とアセスメント　（子どもにとっての家族とは・家族アセスメント）

第 5 回　小児を取り巻く現代社会の動向（小児保健・福祉行政の推移）

第 6 回　小児をめぐる法律と政策　（児童福祉法・母子保健法・児童虐待防止法・少子化対策 etc）

第 7 回　小児と家族を取り巻く社会　（学校保健・予防接種・病児教育）

第 8 回　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / グループワーク

12　評 価 方 法

課題 / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論　　医学書院
配布資料
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

成長･発達過程にある子どもと子どもを取り巻く社会について学びましょう。
小児看護の役割や意義について考えましょう。

小児看護方法論Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	徳地暢子(看護師)

8　授業概要

1. 看護の対象となる子どもの各期の成長・発達の特徴について学ぶ。
2. 子どもを取り巻く環境とそれらが与える子どもへの影響、各期の望ましいかかわりについて学ぶ。

（病院の小児看護に携わった経験を持つ教員が、小児各期における特徴と発達課題への援助について講義する。）

9　到達目標

1. 小児各期の成長・発達とその特徴について理解する。
2. 各期の子どもを取り巻く環境をふまえ、子どもへの理解を深めるとともに望ましいかかわりを学ぶ。
3. 小児が健康な生活を送り健全に発達を遂げるため必要な援助について理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　　新生児期の成長・発達の特徴と発達課題への援助

第 2 回　　乳児期の成長・発達の特徴と発達課題への援助

第 3 回　　幼児期の成長・発達の特徴と発達課題への援助

第 4 回　　学童期の成長・発達の特徴と発達課題への援助

第 5 回　　思春期の成長・発達の特発達課題への援助

第 6 回　　小児期における事故防止

<u>第 7 回　　校内演習：小児の日常生活援助</u>

第 8 回　　まとめ / 試験

第 7 回　校内演習（徳地暢子）（松田美穂）（髙畑美佳）（北村弘江）（中谷洋見）

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

レポート / 試験／提出物

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論　　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院
配布資料

14　学生への要望

身体･精神･社会的各側面から各期の子どもの成長発達を具体的にとらえ、理解を深めてください。
子どもへの共感・理解を持って望ましいかかわりについて学びましょう。
小児の認知やコミュニケーションについて意識して演習に臨んでください。

小児看護方法論Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	徳地暢子(看護師)

8　授業概要

1.疾病や障害を持つ小児と家族の看護を学ぶ。

2.小児看護の技術を習得する。

（病院の小児看護に携わった経験を持つ教員が、疾病や障害を持つ小児に必要な看護について講義する。）

9　到達目標

1.　疾病や障害が小児とその家族に及ぼす影響と反応を理解する。

2.　疾病や障害を持つ小児とその家族に応じた看護を理解する。

3.　小児看護に必要な看護技術を習得する。

10　授 業 計 画

第 1 回　病気・障害を持つ小児と家族に与える影響

第 2 回　小児の状況(環境)に特徴づけられる看護

第 3 回　症状を示す小児と家族の看護(疼痛・啼泣・発熱・嘔吐・下痢・脱水・発疹ほか)

第 4 回　症状を示す小児と家族の看護(呼吸困難・チアノーゼ・意識障害・けいれん・出血・ショック)

第 5 回　小児のアセスメント(バイタルサイン・身体測定･呼吸器系・心血管系)

第 6 回　小児のアセスメント(筋・骨格系・神経系・生殖器系)

第 7 回　検査・処置を受ける小児と家族の看護

第 8 回　校内演習①：検査・処置を受ける小児と家族への対応

第 9 回　校内演習②：検査・処置を受ける小児と家族への対応

第 10 回　急性期にある小児と家族の看護・ファロー四徴症の子どもの看護

第 11 回　周手術期にある小児と家族の看護・口唇口蓋裂の小児の看護

第 12 回　慢性期にある小児と家族の看護・糖尿病の小児の看護

第 13 回　終末期の小児と家族の看護、障害のある小児と家族の看護・脳性麻痺の小児の看護

第 14 回　虐待と看護、災害を受けた小児の看護

第 15 回　筆記試験　／　まとめ

第 8.9 回　校内演習（徳地暢子）（松田美穂）（佐藤みか）（髙畑美佳）（安永さゆり）

11　学 習 方 法

講義、演習、レポート

12　評 価 方 法

筆記試験 ／　提出物

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門　Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論　　医学書院

【電子版】系統看護学講座　専門　Ⅱ　小児看護学②　小児臨床看護各論　　医学書院

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

健康障害を持つ小児の特徴と症状、看護の実際について学びましょう。

健康障害を持つ小児を支える家族に対する看護について学びましょう。

小児看護方法論Ⅲ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	髙畑美佳(看護師)

8　授業概要

1.健康問題のある子どもと家族の事例から、情報収集・アセスメント・看護問題の明確化のプロセスを理解する。
2.効果的な看護を展開するため子どもとその家族を対象とした援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。
（病院の小児看護業務に携わった経験を持つ教員が、小児の健康上の問題について講義する。）

9　到達目標

1. 子どもの代表的疾患について、病態・治療が説明できる。
2. 健康障害のある子どもの健康に関わる問題についてアセスメントし看護過程の展開ができる。
3. 2.の知識を基に、その疾患や子どもの特徴に合わせた看護援助が説明できる。
4. 子どもと家族への援助方法を具体的に説明できる。

10　授 業 計 画

第 1 回～第 3 回　　事例展開①　学童期にある気管支喘息の子どもとその家族の看護

第 4 回～第 6 回　　事例展開②　幼児期後期にある白血病の子どもと家族の看護

第 7 回～第 9 回　　事例展開③　幼児期前期にある川崎病の子どもとその家族の看護

第 10 回～第 12 回　事例展開④　乳児期にあるロタウイルス感染症の子どもとその家族の看護

<u>第 13 回</u>　　<u>校内演習：(1) 小児看護技術</u>
<u>安楽な呼吸の支援、発熱時の援助、感染対策</u>

<u>第 14 回</u>　　<u>校内演習：(2) 小児看護技術</u>
<u>事例患児の発達段階を考慮した子どもとその家族への説明・支援ツールの作成・発表</u>

第 15 回　　まとめ / 試験

第 13.14 回　校内演習（髙畑美佳）（松田美穂）（徳地暢子）（佐藤みか）（安永さゆり）

11　学 習 方 法

① ２年次に受講した小児看護概論と小児方法論Ⅰを十分に復習したうえで、健康な子ども像をイメージしながら講義・演習に臨む。
② 事前に子どもの代表的な疾患の病態・治療に関して復習し臨む。その知識を基に看護過程の展開を臨む。
③ 常に子どもならではの特徴を意識し、援助の根拠と関連させながら受講する。
④ 小児看護学実習Ⅱを踏まえて、子どもの特有疾患の病態・治療・看護など基礎的知識をレポート提出。

12　評 価 方 法

試験(筆記) / 授業内課題 / 受講態度

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論　　医学書院
【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看護学②　小児臨床看護各論　　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

「疾病と治療Ⅴ」の授業内容を理解していることを前提としてすすめていきます。子どもの解剖生理、疾患の病態生理、治療などの復習をして授業に臨んで下さい。
授業の理解度によっては、講義の内容や順番が変更になる場合があります。

母性看護学概論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	中江秀美(助産師)

8　授業概要

母性とは何かを幅広くとらえ、母性をめぐる様々な現状と動向を理解する。人間のセクシュアリティやリプロダクティブヘルス/ライツについて理解するとともにヘルスプロモーションの考え方について学ぶ。

（病院の母性看護業務に携わった経験を持つ教員が、母性を取り巻く現況について講義する。）

9　到達目標

１．母性とは何か、現代における母性のとらえ方について理解できる。
２．母性統計の変遷から母性の特徴を理解できる。
３．母性に関連した法的保護を理解できる。
４．母性を取り巻く性の多様性と国際化について理解できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状
（母性とは/リプロダクティブヘルス）

第 2 回　人間の性と生殖
（性の多様性／性同一性障害）

第 3 回　母子保健統計の動向

第 4 回　母子保健における関係法規

第 5 回　母子保健における関係法規

第 6 回　女性保護に関連した現状と法律

第 7 回　母子保健の国際化／在日外国人の母子保健

第 8 回　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学①　母性看護学概論　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

母性を取り巻く環境、特に国際化と性の多様性とは大きく変化し、その変化は法にまで及んでいる。社会情勢にも注意を払ってもらいたい。

母性看護方法論　Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	中江秀美(助産師)

8　授業概要

女性のライフサイクルにおける母性各期のホルモン変動を理解する。

家族の発達の視点から、母性の発達・成熟・継承の意義について学ぶ。

（病院の母性看護業務に携わった経験を持つ教員が、母性各期の健康問題について講義する。）

9　到達目標

1. 女性のライフサイクルの変化と健康問題が理解できる。
2. 母性各期のホルモン変動を理解しリプロダクティブヘルスへの援助について学ぶ。

10　授 業 計 画

第 1 回　　ライフサイクルにおける女性の健康

第 2 回　　母性各期のホルモン変動

第 3 回　　思春期女性の健康問題と看護

第 4 回　　成熟期女性の健康問題と看護

第 5 回　　家族計画／リプロダクティブヘルス

第 6 回　　性周期と受胎調節

第 7 回　　更年期女性の健康問題と看護

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習

12　評 価 方 法

試験 /演習の成果

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学①　母性看護学概論　医学書院

家族計画と受胎調節については配布資料

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

対象となる学生は成熟期に向かう時期にあることから、基礎体温を測定してもらいたい。この取り組みにより、授業の理解を助け、自らの卵巣機能を知る機会になることを期待する。

母性看護方法論　Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	松田美穂（助産師） 湯浅幸子（助産師）

8　授業概要

周産期における看護ができる能力を養う。妊娠・分娩・産褥の期間を通して、母子の健康を維持・促進し、新生児を家族の一員として迎え、親として適切に世話することができるように援助する方法を学ぶ。

（病院の母性看護業務に携わった経験を持つ教員が、周産期における看護について講義する。）

9　到達目標

1. 周産期における看護ができる能力を養う。
2. 妊娠・分娩・産褥の期間を通して、母子の健康を維持・促進し、新生児を家族の一員として迎え、親として適切に世話することができるように援助する方法を学ぶ。
3. 母性看護に必要な看護技術を習得できる。

10　授 業 計 画

第 1 回	遺伝相談・出生前診断	
第 2 回	不妊症・不妊検査・不妊治療における制度	
第 3 回	妊娠期における看護	（妊娠期の身体的特性）
第 4 回	妊娠期における看護	（妊娠期の心理・社会的変化）
第 5 回	妊娠期における看護	（妊婦と胎児のアセスメント/妊婦と家族の看護）
第 6 回	妊娠期の看護に必要な技術	（妊婦健康診査）腹囲測定・子宮底の測定・レオポルド触診法 妊婦体験・妊婦体操・乳房の手当て
第 7 回	分娩期における看護	（分娩の要素/分娩の経過）
第 8 回	分娩期における看護	（産婦・胎児・家族のアセスメント）
第 9 回	分娩期における看護	（産婦と家族の看護/分娩期の看護の実際）
第 10 回	産褥期における看護	（産褥経過/褥婦のアセスメント）
第 11 回	産褥期における看護	（褥婦と家族の看護/施設退院後の看護）
第 12 回	妊娠・分娩・産褥期における看護過程	
第 13 回	新生児期における看護	（新生児の生理/新生児のアセスメント）
第 14 回	新生児期における看護	（新生児の看護）
第 15 回	校内演習：新生児の看護に必要な技術	新生児諸計測・沐浴
第 16 回	試験	

第 1～14 回　松田美穂（90）・第 15 回　湯浅幸子（10）

第 15 回　校内演習（松田美穂）（中江秀美）（湯浅幸子）（久保多美子）（安永さゆり）

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学②　母性看護学各論　医学書院

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

授業予定内容については、学習効果を上げるためにも予習をして授業に望むこと。

母性看護方法論　Ⅲ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	湯浅幸子(助産師)

8　授業概要

看護過程の展開を通して、母性看護の能力を養う。

（病院の母性看護業務に携わった経験を持つ教員が、周産期における看護について講義する。）

9　到達目標

1. 母性各期の異常とその看護について理解できる。
2. 事例を基に母性の特性を捉えた看護過程が展開できる能力を養う。

10　授 業 計 画

第 1 回　　異常妊娠と看護

第 2 回　　異常分娩と看護

第 3 回　　産褥時の異常と看護

第 4 回　　母性に特有な視点（ウェルネス的視点）・ウェルネス型看護診断とは

第 5～8 回　　看護過程の展開
事例 1）妊娠期の看護過程の展開演習（個人ワーク）・まとめ

第 9～12 回　　事例 2）産褥期の看護過程の展開演習（個人ワーク）・まとめ

第 13～14 回　　事例 3）新生児の看護過程の展開演習（個人ワーク）・まとめ

第 15 回　　まとめ・試験

11　学 習 方 法

講義 / 自己学習 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　母性看護学②　母性看護学各論　医学書院

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

母性看護をさらに実践に移した形で深めたいと思う。日頃から講義に関連した資料を集め活用できるようにしておくこと。授業内容に関わる小テストを実施するので復習しておくこと。

精神看護学概論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	中谷洋見(看護師)

8　授業概要

精神看護学の位置づけ、目的、対象の特徴、心の健康について、看護の機能と役割について理解する。
（病院の精神看護業務に携わった経験を持つ教員が、人間の心のはたらきについて講義する。）

9　到達目標

1. 精神看護学の位置づけ、目的、対象の特徴、心の健康について、看護の機能と役割について理解できる。
2. 人格がそれぞれの人の生活にどのように影響するか理解できる。
3. 人間関係としての家族・集団の特性とダイナミクスについて学ぶ。
4. 精神を病むとはどういうものなのか考える。

10　授 業 計 画

第 1 回　　精神看護学で学ぶこと
「心のケア」と現代社会　　精神看護学とその課題

第 2 回　　精神看護学で学ぶこと　　精神障害者の体験と精神看護　精神看護学で何を学ぶのか

第 3 回　　精神保健の考え方

第 4 回　　人間の心のはたらきとパーソナリティ　人間の心の諸活動

第 5 回　　人間の心のはたらきとパーソナリティ　心のしくみと人格の発達

第 6 回　　関係のなかの人間

第 7 回　　関係のなかの人間

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護学① 精神看護の基礎　　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

心を病むという意味を真剣に考えてほしい。

精神看護方法論　Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	山野泰子

8　授業概要

精神の健康についての考え方が理解できる。ライフサイクル別に精神保健問題とその対応が理解できる。心の健康を維持増進させるための必要な援助方法を理解する。

9　到達目標

1. 精神障害とよばれている心の不健康状態に、どのような種類があるか、どんな領域に広がっているのかを概観的に知り、精神障害とは何かを正しく理解できる。
2. 精神障害のときにしばしばみられる精神症状の主なものについて学ぶ。
3. 精神科での治療について学ぶ。

10　授 業 計 画

第 1 回	精神科で出会う人々	精神を病むことと生きること
第 2 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像
第 3 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像
第 4 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像
第 5 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像
第 6 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像
第 7 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像
第 8 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像
第 9 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像
第 10 回	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像
第 11 回	精神科での治療	精神科における治療
第 12 回	精神科での治療	
第 13 回	精神科での治療	
第 14 回	精神科での治療	
第 15 回	まとめ / 試験	

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護学① 精神看護の基礎　　医学書院

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院（参考図書）

14　学生への要望

精神看護の基礎となるものを学習し、精神看護の役割と進むべき方向を展望してほしい。

精神看護方法論　Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	中谷洋見(看護師) 篠原亘広　柏民泰尚 松本仁宏　岩田正剛 三浦幸子

8　授業概要

精神障害者の病気、症状、問題の特徴、及び治療法を理解し、対象に応じた援助方法を習得できる。
（病院の精神看護業務に携わった経験を持つ教員が、精神障害を持つ患者の看護と制度について講義する。）

9　到達目標

1. 精神障害や疾患をかかえた人をケアする際の原則が理解できる。
2. 入院治療と看護の展開について理解できる。
3. 精神保健医療福祉をめぐる法制度（精神保健福祉法）について学ぶとともに、サービス提供の場と機能、それぞれの場における看護師の役割について理解することができる。

10　授 業 計 画

第 1 回	リエゾン精神看護	
第 2 回	リエゾン精神看護	
第 3 回	社会のなかの精神障害	精神障害と治療の歴史
第 4 回	社会のなかの精神障害	精神障害と法制度
第 5 回	地域における精神看護	生活を支える制度
第 6 回	ケアの人間関係	ケアの原則　　関係をアセスメントする
第 7 回	ケアの人間関係	患者－看護師関係でおこること　　チームのダイナミクス
第 8 回	回復を助ける	
第 9 回	回復を助ける	
第 10 回	安全を守る	
第 11 回	安全を守る	
第 12 回	身体をケアする	
第 13 回	身体をケアする	
第 14 回	地域における精神看護	地域で精神障害者を支援するための方法
第 15 回	まとめ / 試験	

第 1～5 回・15 回、中谷洋見(30)・第 6～7 回　篠原亘広・第 8～9 回　柏民泰尚
第 10～11 回　松本仁宏・第 12～13 回　岩田正剛・第 14 回　三浦幸子(70)

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護学①　精神看護の基礎　　医学書院
【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護学②　精神看護の展開　　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院（参考図書）

14　学生への要望

多様な精神症状の背景には、解決できないまま抱え続けてきた葛藤や、傷ついた体験があり、精神障害者ゆえにスティグマを負った人生があるということに気づいてほしい。

精神看護方法論　Ⅲ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	1 単位	30 時間	必修	中谷洋見(看護師)

8　授業概要

精神障害者及び家族に対し、コミュニケーション技術を駆使してアセスメントし、看護理論を用いて看護過程が展開できる。

（病院の精神看護業務に携わった経験を持つ教員が、精神障害のある患者の看護の展開について講義する。）

9　到達目標

1. 事例・演習を通して看護過程を展開し、精神看護の能力を養う。
2. 地域で生活する精神障害者の援助を理解することができる。

10　授 業 計 画

第 1 回	精神看護の特徴		
第 2 回	精神看護の特徴		
第 3 回	看護過程の展開	事例 1）統合失調症の急性期	
第 4 回	看護過程の展開	事例 1）統合失調症の急性期	
第 5 回	看護過程の展開	事例 1）統合失調症の急性期	
第 6 回	看護過程の展開	事例 1）統合失調症の急性期	
第 7 回	看護過程の展開	事例 1）統合失調症の急性期	発表・意見交換・評価
第 8 回	看護過程の展開	事例 2）統合失調症の慢性期	
	看護過程の展開	事例 2）統合失調症の慢性期	
	看護過程の展開	事例 2）統合失調症の慢性期	
	看護過程の展開	事例 2）統合失調症の慢性期	発表・意見交換・評価
	看護過程の展開	事例 3）気分障害患者	
～	看護過程の展開	事例 3）気分障害患者	
	看護過程の展開	事例 3）気分障害患者	
	看護過程の展開	事例 3）気分障害患者	
	看護過程の展開	事例 3）気分障害患者	発表・意見交換・評価
第 13 回	校内演習：治療的コミニュケーション		
第 14 回	看護師における感情労働と看護師のメンタルヘルス		
第 15 回	まとめ / 試験		

第 13 回　校内演習（中谷洋見）（佐藤みか）（安永さゆり）（小泉敬子）（久保多美子）

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク / クラス討論 / VTR

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護学①　精神看護の基礎　　医学書院
【電子版】系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護学②　精神看護の展開　　医学書院

配布資料

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

人間関係という視点は、病気の成り立ちを理解する上でも、傷ついた心が癒されるためにも重要であることを学んで欲しい。

成人看護学実習Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員

8　目　　的

1. 人々の健康上の問題を解決するため、看護過程に沿った、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
2. 発達段階、経過別、症状別、治療・処置別に対象をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための能力を養う。
3. ライフサイクルにおける身体的、精神的、社会的な成人期の特徴を理解する。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9　達成目標

1. 成人期にある対象を理解し、発達段階、経過別、症状別、治療・処置別の援助を習得する。
2. 成人期の生活や健康を包括的に理解し、健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々の看護過程が実践できる。
3. 成人期の生活や健康を包括的に理解し健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護援助ができる。
4. 保健問題の動向と福祉との連携や保健対策を概括的に理解する。
5. セルフケア再獲得における精神面、身体面、社会面の援助ができる。

10　実習内容

1. 慢性病の病態の特徴や慢性病をもちながら生活している人の特徴がわかる。
2. 成人期の生活や健康を包括的に理解し生活習慣病など慢性経過をたどる対象が自己管理できるよう援助する。
3. 成人各期の対象の特徴を理解し長期経過における疾病のコントロールと生活習慣の関係、また社会資源の活用や対象をとりまく家族への援助ができる。
4. 糖尿病、高血圧、がん、肝疾患、肺気腫など慢性期の患者を受け持ち、看護過程の展開ができる。
5. セルフケア拡大への援助ができる。

11　実習方法

受け持ち患者の疾患･看護について理解を深め、看護過程の展開を行い、必要なケアについて計画・実施・評価する。

12　評 価 方 法

オリエンテーション、援助場面、実習記録、カンファレンス、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、DVD、詳細は実習概要参照

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

成人看護学実習Ⅰ(セルフケア)の対象がもつ身体的、精神的、社会的な問題を理解し、看護過程の展開を学んでください。

成人看護学実習Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員

8　目　　的

1. 人々の健康上の問題を解決するため、看護過程に沿った、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
2. 発達段階、経過別、症状別、治療・処置別に対象をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための能力を養う。
3. ライフサイクルにおける身体的、精神的、社会的な成人期の特徴を理解する。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9　到達目標

1. 成人期にある対象を理解し、発達段階、経過別、症状別、治療・処置別の援助を習得する。
2. 成人期の生活や健康を包括的に理解し、健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々の看護過程が実践できる。
3. 成人期の生活や健康を包括的に理解し健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護援助ができる。
4. 保健問題の動向と福祉との連携や保健対策を概括的に理解する。
5. 急激な健康状態の変化が起こっている患者に対し観察適切な対処、医療処置、心理的安定などの援助ができる。

10　実習内容

1. 急性経過をたどる患者を統合的に理解し、病態生理、治療の目的、症状、経過、検査など観察しアセスメントできる。
2. 術前、術中、術後患者の看護の体験ができ、術中の患者の変化がわかり、術直後の観察やアセスメント、また手術の経過や予後の不安などに対する支持的援助ができる。
3. 周手術期の患者、急性心筋梗塞など急性期の患者を受け持ち、看護過程の展開ができる。
4. 急性期にある対象と家族を理解し苦痛の緩和や、対象と家族に応じた援助ができる。

11　実習方法

受け持ち患者の疾患･看護について理解を深め、看護過程の展開を行い、必要なケアについて計画・実施・評価する。

12　評 価 方 法

オリエンテーション、援助場面、実習記録、カンファレンス、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、DVD、詳細は実習概要参照

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

成人看護学実習Ⅱ(周手術期)の対象がもつ身体的、精神的、社会的な問題を理解し、看護過程の展開を学んでください。

成人看護学実習Ⅲ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	4 学年	前期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員

8　目　　的

1. 人々の健康上の問題を解決するため、看護過程に沿った、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
2. 発達段階、経過別、症状別、治療・処置別に対象をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための能力を養う。
3. ライフサイクルにおける身体的、精神的、社会的な成人期の特徴を理解する。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9　到達目標

1. 成人期にある対象を理解し、発達段階、経過別、症状別、治療・処置別の援助を習得する。
2. 成人期の生活や健康を包括的に理解し、健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々の看護過程が実践できる。
3. 成人期の生活や健康を包括的に理解し健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護援助ができる。
4. 保健問題の動向と福祉との連携や保健対策を概括的に理解する。

10　実習内容

1. 回復過程を悪化、阻害する要因をアセスメントでき、合併症や二次感染をおこすことなく順調に回復できるよう援助できる。
2. 患者とその家族が欠損した形態や低下した機能の回復に向けてどのように受け止め、取り組もうとしているか知り、リハビリへの意欲を引き出せるよう援助できる。
3. 回復期、リハビリ期にある患者を受け持ち、看護過程の展開ができる。
4. 福祉との連携や社会資源の活用などを知り、援助できる。

11　実習方法

受け持ち患者の疾患･看護について理解を深め、看護過程の展開を行い、必要なケアについて計画・実施・評価する。

12　評 価 方 法

オリエンテーション、援助場面、実習記録、カンファレンス、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、DVD

詳細は実習概要参照

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

成人期のリハビリテーション期にある対象の身体的、精神的、社会的な問題を理解し、看護過程の展開を学んでください。

成人看護学実習Ⅳ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	4 学年	前期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員

8　目　　的

1. 人々の健康上の問題を解決するため、看護過程に沿った、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
2. 発達段階、経過別、症状別、治療・処置別に対象をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための能力を養う。
3. ライフサイクルにおける身体的、精神的、社会的な成人期の特徴を理解する。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9　到達目標

1. 成人期にある対象を理解し、発達段階、経過別、症状別、治療・処置別の援助を習得する。
2. 成人期の生活や健康を包括的に理解し、健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々の看護過程が実践できる。
3. 成人期の生活や健康を包括的に理解し健康の保持、増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護援助ができる。
4. 保健問題の動向と福祉との連携や保健対策を概括的に理解する。

10　実習内容

1. ＩＣＵ・ＣＣＵの看護を理解し、参加できる。
2. 終末期における患者とその家族を理解し、さまざまな苦痛に対する援助ができる。
3. 患者とその家族が人生の最後をどのように過ごしたいかなど死生観を尊重した援助ができる。
4. ＱＯＬの視点から患者とその家族の希望を聞き、その人らしさを尊重した日常生活の援助ができる。
5. 死亡した患者および家族に対して適切な言動がとれ、死亡時のケアに参加できる。

11　実習方法

受け持ち患者の疾患･看護について理解を深め、看護過程の展開を行い、必要なケアについて計画・実施・評価する。

12　評 価 方 法

オリエンテーション、援助場面、実習記録、カンファレンス、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、DVD

詳細は実習概要参照

【電子版】ｅナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

成人期のクリティカルケア・終末期にある対象の身体的、精神的、社会的な問題を理解し、看護過程の展開を学んでください。

老年看護学実習Ⅰ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3学年	後期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 目　的

介護・治療を必要とする在宅高齢者の老化による機能低下や適応力の低下を理解し、コミュニケーションがとれ、残存機能を生かした援助ができる。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9 到達目標

1. 対象に及ぼす老化現象をアセスメントし、安全・安楽な援助ができる。
2. 認知症の特性を知り、症状に応じた援助ができる。
3. 対象の残存機能を生かした事故防止ができる。
4. 対象の生活を支える家族や地域の重要性について理解できる。
5. 高齢者を支える医療・福祉の支援体制と連携について理解できる。

10 実習内容

1. 3週間の実習は、1週間ごとに実習場所をローテーションして行う。
2. オリエンテーションを通じてそれぞれの病棟の特性と役割・機能を理解する。
3. レクリエーションは、対象を把握し、ねらいを明確にした上で、グループごとに実施する。
4. 看護処置・日常生活援助技術は、目的を明確にし、対象の特性を把握した上で実施する。
   まとめの会までに経験録に当日分の経験項目のチェックをする。
5. 毎日15：00より、まとめの会で振り返りを行う。

11 実習方法

グループでチームワークよろしく、実習施設の特性を考慮しつつ看護援助を実施する。

12 評価方法

実習態度、実習記録、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13 教科書及び参考書

テキスト、資料、参考書、参考文献

詳細は実習概要参照

【電子版】eナーストレーナー　医学書院

14 学生への要望

高齢者の特性を理解し患者に必要な援助を考え実践してください。また実践した援助を評価し、次の実習に繋げて行ってほしいと思います。

老年看護学実習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	4学年	前期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 目　的

健康障害により治療を必要としている高齢者の、心理的特徴・身体的諸機能・セルフケア能力などを把握し、適切な援助ができる。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9 到達目標

1. 高齢者の加齢に伴う変化と健康障害との関連について理解できる。
2. 高齢者の健康障害と病状過程の特徴を捉えた看護過程を展開できる。
3. 高齢者とその家族関係を把握し、援助の必要性について理解できる。
4. 高齢者に関わる関係職種・機関について学び、チームアプローチの必要性と看護師の役割について理解できる。
5. 自己の課題を意識し、主体的・積極的に実習に参加できる。

10 実習内容

1. オリエンテーションを受け病棟の特性や構造について学ぶ。
2. 受け持ちについて看護学実習説明書を用いて患者(家族)に説明し、同意書を交わす。
3. 受け持ち患者について看護過程を展開し、看護計画を実施･評価する。
4. 臨地実習指導者とともに受け持ち患者の日常生活援助を行う。
5. 受け持ち患者で経験できない技術は臨地実習指導者とともに他の患者で実施する。
6. 15：00よりまとめの会行う1日の実習を振り返り、翌日の目標を明確にする。
7. テーマに関する資料を作成し1週目金曜日にテーマカンファレンスを行う。
8. 2週目水曜日に受け持ち患者の看護計画について中間カンファレンスを行う。
9. 実習最終日に、実施した看護計画の評価をもとに、最終カンファレンスを行う。

11 実習方法

受け持ち患者の疾患･看護について理解を深め、看護過程の展開を行い、必要なケアについて計画・実施・評価する。

12 評価方法

実習態度、実習記録、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13 教科書及び参考書

テキスト、資料、参考書、参考文献

詳細は実習概要参照

【電子版】eナーストレーナー　医学書院

14 学生への要望

実習目標の達成に向けて、自己の課題を意識し、主体的・積極的に実習に参加してください。

小児看護学実習Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	2 学年	後期	1 単位	45 時間	必修	看護学科教員

8　目　　的

1.健常な小児について発達段階に応じたコミュニケーションがとれる。
2.日常生活援助と保育の実際が理解できる。
（看護業務に携わった経験を持つ教員が、実習方法について指導する。）

9　到達目標

1.健常な小児の成長発達について対象を通して理解する。
2.小児にとっての遊びの重要性がわかる。
3.基本的日常生活の援助の実際を学ぶ。
4.発達段階を考慮した事故防止について理解する。
5.集団における感染予防について理解する。

10　実習内容

1. 積極的に小児とコミュニケーションを取る。
2. 健康な小児の成長・発達の観察をし、発達の実際や個別性を知る。
3. 保育の実際について見学･経験し、日常生活援助や成長・発達を促す援助を理解する。
4. 発達段階に応じた事故防止への配慮や環境の工夫を理解する。
5. 集団における感染予防の実際を理解する。
6. 自己の行動が小児に及ぼす影響について考え、好ましい行動をとる。

11　実習方法

0 歳児から 5 歳児の年齢の異なる子どもへの日常生活における援助の実際を見学・経験し、健康な小児の発達や個別性をふまえた関わりを理解する。

12　評 価 方 法

オリエンテーション、援助場面、実習記録、カンファレンス、指導場面、発問等をふまえ、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、VTR
詳細は実習概要参照
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

・ 小児看護学で学習した理論や知識をふまえ、積極的に実習してください。
・ 子どもの予測できない行動に注意を払い、事故防止に努めてください。

小児看護学実習Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	4 学年	前期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員

8　目　　的

健康障害のある子どもを理解し、発達段階と健康レベルに応じた看護の実際を学ぶ。
（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9　到達目標

1. 受け持ち患児の成長発達および健康問題をアセスメントできる。
2. 受け持ち患児の成長発達と健康レベルに応じた看護の展開ができる。
3. 子どもの成長発達と健康レベルに応じた日常生活援助が工夫できる。
4. 小児外来を受診する子どもの観察ができる。
5. 5.小児看護における事故防止や感染予防の必要性が分かり、必要な援助ができる。

10　実習内容

1. 子どもの疾患や症状に応じて必要な援助を計画的に実施する。
2. 受け持ち患児に必要な看護技術を習得する。
3. 受け持ち患児の成長発達を観察･評価し、健やかな成長発達を促すため必要な援助を工夫し実施する。
4. 小児の特性を知り、家族とともに日常生活の援助を実施する中で看護の役割を果たす。
5. 受け持ち患児の成長発達にあわせた遊びや学習の援助を工夫し、基本的生活習慣や QOL の向上を図る。
6. 小児外来における看護の役割や病棟、地域との連携を学ぶ。
7. 個人情報の保護に配慮して看護を実践する。

11　実習方法

受け持ち患児の成長発達や疾患･看護について理解を深め、必要なケアについて計画・実施・評価する。

12　評 価 方 法

援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、ビデオ
詳細は実習概要参照
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

成長発達についての視点を大切にして疾患を持つ子どもと関わってください。
子どもの事故防止と感染予防に配慮し、家族も含め患児へのケアについて学習してください。

母性看護学実習

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員

8　目　　的

1. 女性の生涯を通じての性と生殖に関する理解を深め、妊娠、出産、産褥についての援助方法など母性看護の基礎を習得する。
2. 妊娠に伴う身体的、心理的、社会的変化を理解する。
3. 少子化の中で子供をより健康な状態で産み育てるための母性への援助、母子をめぐる生活環境など母性看護の役割拡大をふまえ、その支援体制や看護職の関わり方を習得する。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9　到達目標

1. 周産期の母性及び新生児の生理的変化について理解できる。
2. 母子および家族も含めた身体的、精神的援助ができる。
3. 分娩における経過とそれに伴う援助ができる。
4. 妊娠期の異常について理解し、援助ができる。
5. 産褥の経過とそれに伴う援助ができる。
6. 母子保健医療チームの一員として他職種の役割、相互依存について理解できる。
7. 母子の生活や健康を包括的に理解できる。

10　実習内容

1. 対象が妊娠、出産、育児をどのように受け止めているか把握できる。
2. 妊娠高血圧症候群、流産、早産など妊娠中の異常や症状、経過を観察、アセスメントし援助できる。
3. 分娩の経過や異常について観察、アセスメントし援助できる。
4. 産褥の経過（感染、子宮復古、乳汁分泌）や異常について観察し，援助できる。
5. 母子の退院について母親の役割が果たせるよう指導援助できる。
6. 新生児の特徴を知り、バイタルサイン、黄疸、体重減少などを観察しアセスメントができる。
7. 新生児の感染や環境に配慮しながら、援助できる。
8. 妊産褥婦を受け持ち、援助できる。

11　実習方法

グループを編成し、実習施設の特性を考慮して疾患や看護について理解を深める。

12　評 価 方 法

援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、ビデオ

詳細は実習概要参照

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

患者様との信頼関係を築く基礎を学んでください。

精神看護学実習

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7 担当教員
専門分野Ⅱ	3 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員

8　目　的

1. 精神疾患を持つ対象の特徴を理解し、看護を行なうための基礎知識、対人関係を基軸とした援助方法などを習得する。
2. 日常生活や対人関係を円滑に行えない対象を理解し家族援助も含めた看護過程の展開を実践し問題解決能力を養う。
3. 障害を持つ人が社会に参加しながら自分らしく生活するための支援体制や看護職の関わり方を習得する。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9　到達目標

1. 精神障害を持つ対象の安全管理の特殊性、必要な環境調節の方法が理解できる。
2. 精神障害を持つ対象の日常生活を把握し、自立に向けて援助できる。
3. 治療（精神療法、作業療法、レクリエーション療法など）を受ける対象への援助ができる。
4. 精神に障害を持つ対象の生活や健康を包括的に理解し、問題解決のための看護過程が展開できる。

10　実習内容

1. 看護過程の展開
   1 週目：情報収集および情報のアセスメントができる。
   2 週目：看護上の問題が明確化でき、看護計画が立案できる。
   3 週目：看護計画に基づいて実施でき、評価できる。
2. カンファレンスの実施
3. デイケア・作業療法の見学

11　実習方法

グループを編成し、実習施設の特性を考慮して疾患や看護について理解を深める。

12　評 価 方 法

援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、視聴覚教材
詳細は実習概要参照
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

患者様との信頼関係を築く基礎を学んでください。

在宅看護概論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	2 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	阿部美知子(看護師)

8　授業概要

地域保健福祉活動の全体像、地域看護の概念・枠組み・行われる場について知り、在宅療養者及びその家族を対象とする在宅看護の基礎を学ぶ。

（訪問看護の経験を持ち、在宅看護領域における資格を有する教員が、在宅看護について講義する。）

9　到達目標

1. 生活者としての療養者と家族が理解でき、在宅で療養している人々の生活や特性がわかる。
2. 地域保健医療福祉の全体像、地域看護の概念枠組み、地域看護の行われる場について理解する。
3. 在宅療養者及びその家族を対象として、対象の理解を基に、在宅看護の基礎を学ぶ。
4. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割を理解できる。
5. 社会資源の活用及び関係職種との協働を理解できる。

10　授 業 計 画

第 1 回	在宅看護を学ぶにあたって
第 2 回	在宅看護の変遷と現状
第 3 回	在宅看護の目的･位置づけ
第 4 回	在宅看護の対象：療養者及び介護者･家族
第 5 回	在宅看護の特徴：生活の場における看護
第 6 回	在宅看護の特徴：自立を支援する看護
第 7 回	在宅看護の特徴：生活の中で起こる問題の予測と予防
第 8 回	訪問看護師に求められる基本姿勢
第 9 回	ケアマネジメントと社会資源の活用
第 10 回	訪問看護を提供する場と制度
第 11 回	在宅看護にかかわる法令：介護保険制度
第 12 回	在宅看護にかかわる法令：障害者総合支援法、難病法
第 13 回	地域包括ケアシステムにおける多職種連携
第 14 回	在宅療養者の状態・状況にあわせた看護：医療機関・施設との入退院時の連携
第 15 回	まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 自己学習 / VTR

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　　医学書院

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

在宅で療養している人々の生活や特性を理解してほしい。

在宅看護方法論Ⅰ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6 必 選 別	7　担当教員
統合分野	2 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	百合　葵(看護師)

8　授業概要

在宅看護において療養者と家族の“生活する”ことを支える日常生活の支援や日常生活を中心とした在宅看護援助を学ぶ。

（訪問看護の経験をもつ教員が、在宅で療養における看護について講義する。）

9　到達目標

1. 在宅看護の活動におけるコミュニケーションについて理解できる。
2. 療養上のリスクマネジメントについて理解できる。
3. 療養者の日常生活を生活行為として総合的に理解することができる。
4. 在宅での日常生活の援助を学ぶ。

10　授 業 計 画

第 1 回　在宅で看護を展開するにあたって
在宅看護の活動を支えるコミュニケーション

第 2 回　療養上のリスクマネジメント
1)　在宅看護におけるリスク
2)　環境の整備による安全の確保、身体損傷の防止、薬物による事故の防止、感染の防止
3)　災害に対する準備と対応

第 3 回　呼吸・食生活・嚥下に関する在宅看護技術

第 4 回　排泄・清潔に関する在宅看護技術

第 5 回　移動・移乗に関する在宅看護技術

第 6～7 回　校内演習：移動・移乗・清潔に関する在宅看護技術

第 8 回　まとめ/試験

第 6～7 回　校内演習（百合　葵）（阿部美知子）（北村弘江）（中谷洋見）（川田政子）

11　学 習 方 法

講義 / 自己学習 / VTR

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

在宅における生活援助を習得し、訪問における看護援助が実施できるようになって欲しい。

在宅看護方法論Ⅱ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6 必 選 別	7　担当教員
統合分野	3 学年	前期	1 単位	30 時間	必修	百合　葵(看護師) 長内秀美･難波朱美 石原佳明

8　授業概要

在宅看護技術について学び、基本を理解するとともに
（訪問看護の経験をもつ教員が、在宅医療における看護処置について講義する。）

9　到達目標

1. 在宅看護の援助技術を学ぶ。デモスト・グループ演習を通して実践能力を高める。
2. 在宅での医療的ケア技術の基本が理解でき、それに対する看護を学ぶ。
3. 在宅療養者の症状・状態別看護が理解できる。
4. 在宅療養者の家族への援助が理解できる。

10　授 業 計 画

第 1 回	在宅看護の展開 1)　在宅看護過程展開のポイント　　2)在宅看護過程の展開方法
第 2 回	在宅人工呼吸器について(在宅医療機器メーカーによる医療機器の体験学習)
第 3～4 回	在宅酸素療法(HOT)、非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)、在宅人工呼吸療法(HMT)の看護
第 5 回	在宅中心静脈栄養法・経管栄養法の援助技術と看護
第 6 回	校内演習：在宅において経管栄養法を実施している療養者やその家族への指導(演習/GW/発表)
第 7 回	排泄機能に障害のある療養者への看護技術(ストーマケア、膀胱留置カテーテル)
第 8 回	校内演習：排泄機能に障害のある療養者やその家族への指導(演習/GW/発表)
第 9 回	在宅における褥瘡の予防とケア
第 10 回	外来がん治療の支援、在宅における疼痛緩和療法について
第 11 回	在宅における CAPD 管理について
第 12 回	独居の療養者に対する在宅看護
第 13 回	精神疾患の療養者に対する在宅看護
第 14 回	在宅で療養する子どもへの看護
第 15 回	まとめ/試験

第 1～8・10～12・15 回　百合　葵、第 9 回　難波朱美、第 13 回石原佳明、
第 14 回　長内秀美（100）
第 6・8 回　校内演習（百合　葵）（阿部美知子）（佐藤みか）（安永さゆり）（小泉敬子）

11　学 習 方 法

講義 / 自己学習 / グループワーク / ロールプレイ / クラス討論 / VTR

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

在宅における生活援助を習得し、訪問における看護援助が実施できるようになって欲しい。

在宅看護方法論Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
統合分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	阿部美知子(看護師))

8 授業概要

在宅看護の事例展開について学ぶ。

（病院の看護業務の経験を持ち在宅看護領域における資格を有する教員が在宅の看護過程の展開について講義をする。）

9 到達目標

1. 在宅看護の事例・演習を通して、看護過程の展開を学ぶ。
2. 情報収集・看護診断・計画立案・実施・評価ができる。
3. 在宅療養者の病期に応じた看護を理解する。
4. 在宅療養者やその家族に対し健康維持、QOL の維持・向上を目指した看護を理解する。

10 授業計画

第1回	在宅看護における看護過程/情報収集・アセスメント技術	
第2回	看護過程の展開	事例1）がんの在宅療養者への援助、意思決定支援…導入・グループ討議
第3回		事例1）がんの在宅療養者への援助…グループ討議・まとめ
第4回		事例1）がんの在宅療養者への援助…発表・意見交換・総評
第5回		事例2）ALS で人工呼吸療法を実施している在宅療養者への援助…グループ討議
第6回		事例2）ALS で人工呼吸療法を実施している在宅療養者への援助…グループ討議・まとめ
第7回		事例2）ALS で人工呼吸療法を実施している在宅療養者への援助…発表・意見交換・総評
第8回		事例3）脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…グループ討議
第9回		事例3）脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…グループ討議・まとめ
第10回		事例3）脳血管障害で在宅生活をしている療養者への援助…発表・意見交換・総評
第11回		事例4）認知症がある在宅療養者への援助…グループ討議・まとめ
第12回		事例4）認知症がある在宅療養者への援助…発表・意見交換・総評
第13回		事例5）パーキンソン病の在宅療養者への援助…グループ討議・まとめ
第14回		事例5）パーキンソン病の在宅療養者への援助…発表・意見交換・総評
第15回	まとめ/試験	

校内演習（阿部美知子）（百合　葵）（佐藤みか）（安永さゆり）（小泉敬子）

11 学習方法

講義 / 自己学習 / グループワーク / クラス討論 / VTR

12 評価方法

試験 / レポート

13 教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　　医学書院

【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14 学生への要望

在宅看護における看護過程の特徴を学び、個別性のある展開に活かしてほしい。

高　度　先　駆　的　看　護

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	水重克文 前田寿和 長楽鉄乃祐 宮下郁子 岩井艶子 六車輝美

8　授業概要

国際社会の中で看護実践する専門職である自覚を持ち、広い視野で 21 世紀の看護を創造する能力を習得する。

9　到達目標

1. 国際社会の中で看護実践する専門職業人である自覚を持ち、広い視野で 21 世紀の看護を創造する能力を習得する。
2. 高度先駆的医療の動向について理解する。
3. 神経･筋疾患やがん患者や循環器医療を受ける対象の特徴と援助方法について理解できる。
4. 周産期医療の現場で行なわれる高度先駆的医療を必要とする患者や家族を援助するために必要な知識を習得する。
5. 最新の精神障害者看護を理解し、対象のニードにあった看護実践ができる。
6. 看護のキャリアアップを目指し、認定看護師や専門看護師の役割と実践能力を理解し卒業後の指針とする。

10　授 業 計 画

第 1 回　　現代における高度先駆的医療と特徴的な看護について調査する

第 2 回　　遺伝カウンセリングの現状

第 3 回　　呼吸循環ケア　（最新の循環器医療に伴う検査・治療と看護）

第 4 回　　呼吸循環ケア　（最新の循環器医療に伴う検査・治療と看護）

第 5 回　　精神看護　　（精神医療の動向 / 心理教育における看護の役割）

第 6 回　　産婦人科領域における医療の現状（周産期ケア　（3D / 4D 胎児超音波画像診断 / 周産期医療に必要な緊急処置とケアポイント））育成医療の方向性と最新の小児医療のあり方

第 7 回　　診療看護師の役割と看護実践活動

第 8 回　　試験

第 1・8 回六車輝美（50）・第 2 回岩井艶子（10）・第 3～4 回水重克文（10）
・第 5 回長楽鉄乃祐（10）・第 6 回前田寿和（10）・7 回宮下郁子（10）

11　学 習 方 法

講義 / グループワーク

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

適宜資料配布、新刊雑誌を随時紹介

14　学生への要望

各自、新刊雑誌には常に目を通しておくこと。

医　療　安　全　管　理

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	中谷洋見(看護師)

8　授業概要

医療看護事故の構造と事故防止の視点より、現場に即した医療安全教育を展開する。
（病院の看護管理業務に携わった経験を持つ教員が、医療安全について講義する。）

9　到達目標

1. 看護事故の構造と事故防止の考え方を学ぶ。
2. 診療の補助業務に伴う事故防止の視点から、現場に即した医療安全の行動が培われる。
3. 療養上の世話に伴う事故防止の視点から、現場に即した医療安全の行動が培われる。
4. 業務領域を超えて共通する業務上の危険を明らかにし、事故防止の視点からの知識・技術を習得する。

10　授 業 計 画

第 1 回　　医療安全を学ぶことの大切さ

第 2 回　　事故防止の考え方

第 3～4 回　　診療の補助業務に伴う事故防止

第 5 回　　療養上の世話における事故防止

第 6 回　　業務領域を超えて共通する間違いと発生要因

第 7 回　　組織としての医療安全対策　　わが国の医療安全対策の展望

第 8 回　　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　統合　看護の統合と実践②　医療安全　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

医療事故は、実務者にとって常に背中合わせにある重大な問題です。専門職を目指す皆さんには特に注意を向けて考えて欲しい。

国　際　看　護　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	鎌野倫加 荻田育代（看護師）

8　授業概要

本授業では、グローバル化を視野に入れた国際社会における看護について、基本的な理解ができることを目指します。そのために地球規模の健康格差とその背景、国際協力活動と、世界の多様な文化をふまえた看護の役割について学びます。

（病院勤務経験を持つ教員が、医療における看護の国際化について講義する。）

9　到達目標

1. 国際看護の概念が説明できる。
2. 戦争・紛争と難民・避難民の政治的・社会文化的背景をふまえて、国際貢献の方法が説明できる。
3. 世界のヘルスニーズの現状と保健・医療システムについて説明できる。
4. 国内外における国際保健医療活動の役割と課題・展望が述べられる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　看護における国際化の視点・地球規模の健康格差とその背景

第 2 回　　国際保健における看護の対象と役割

第 3 回　　国際協力活動と看護－①

第 4 回　　国際協力活動と看護－②

第 5 回　　国際協力活動と看護－③

第 6 回　　国際協力活動と看護－④

第 7 回　　世界の多様な文化をふまえた看護の実際

第 8 回　　まとめ / 試験

第 3～6 回　鎌野倫加・第 1、2、7、8 回　荻田育代（100）

11　学 習 方 法

講義 /グループワーク / 視聴覚教材

12　評 価 方 法

提出物 / 筆記試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　　統合　　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院

14　学生への要望

世界のヘルスニーズは自国の公衆衛生からグローバルヘルスに移行しています。地球人として、国境を越えて活躍する保健・医療従事者の存在意義について考えてみてください。

看　護　管　理

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	学内講師(看護師)

8　授業概要

チームケアを展開していく中で、リーダーシップを養い、幅広く看護管理の習得を学ぶ。
（病院の看護管理業務に携わった経験を持つ教員が、看護管理について講義する。）

9　到達目標

1. リーダーシップを養い、看護管理能力の習得のために幅広く、これからの看護管理のあり方について考える。
2. 看護管理の概念が理解できる。
3. マネジメントプロセスとマネジメントサイクルの概要について述べられる。
4. 看護のマネジメントが必要とされる場について理解できる。
5. 看護におけるマネジメントの変遷と課題分析を述べられる。
6. 21 世紀に必要とされる医療システム、看護マネジメントが述べられる。

10　授 業 計 画

第 1 回　看護とマネジメント
看護管理とは / マネジメントとは / 看護におけるマネジメント

第 2 回　看護におけるマネジメントの前提
看護の定義 / 看護職 / 看護実践の領域と場 / 医療制度

第 3 回　ケアのマネジメント
ケアのマネジメントと看護職の機能 / 看護基準と看護手順 / 患者の権利の尊重 / 安全管理

第 4 回　看護職の協働 / 他職種との協働 / 情報

第 5 回　看護サービスのマネジメント

第 6 回　看護サービスのマネジメント / 組織目的のマネジメント / 協働のためのマネジメント /
情報のマネジメント / 技術のマネジメント / 評価

第 7 回　マネジメントに必要な知識と技術
組織とマネジメント / 組織のなかの人間関係 / 組織の調整 / 組織と個人

第 8 回　これからの看護管理の課題分析
まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / グループワーク / ロールプレイング

12　評 価 方 法

試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学①　看護学概論　　医学書院
【電子版】e ナーストレーナー　医学書院

14　学生への要望

チームでケアを展開する専門職として重要な管理の能力を身につけてください。

災　害　看　護　学

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	阿部美知子(看護師) 射場光一

8　授業概要

　地球環境の変化や気候変動がもたらす自然災害の頻発・激甚化に加え、新型コロナウイルスが猛威を振るう災禍での災害発生は重大な社会問題です。本授業では、災害とは何か、それが及ぼす影響、災害時の保健医療体制と看護の役割等について講義する。

（病院の看護業務の経験と災害看護活動の経験を持つ教員が講義する）

9　到達目標

1. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響について説明できる。
2. 災害の種類と各期の特徴、法制度について説明できる。
3. 災害時の支援体制と医療体制が説明できる。
4. 災害各期における看護の対象と役割が説明できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　視聴覚教材で学ぶ災害看護

第 2 回　　災害と災害医療の基礎知識

第 3 回　　災害看護の基礎知識 / 災害と心のケア

第 4 回　　災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護

第 5 回　　被災者特性に応じた災害看護の展開

第 6 回　　グループワーク：災害避難所運営の実際－①

第 7 回　　グループワーク：災害避難所運営の実際－②

第 8 回　　まとめ / 試験

第 1～5、8 回　阿部美知子（70）・第 6～7 回　射場光一（30）
第 6.7 回　グループワーク（阿部美知子）（松田美穂）（小室直子）（西村登志子）（中江秀美）

11　学 習 方 法

講義 / 視聴覚教材 / グループワーク / ロールプレイング

12　評 価 方 法

提出物 / 筆記試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　統合　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学　医学書院

14　学生への要望

　災害現場に出ずとも、病院で 24 時間ケアにあたる看護師は、災害発生時の病棟管理能力が求められます。知識とともに普段から異常時に行動できる『臨機応変』さを身に着ける努力をしましょう。

救　急　看　護

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	吉川圭

8　授業概要

救急医療の中の救急看護の役割を理解し、広い視点で将来の救急看護学を考える。

9　到達目標

1. 医療現場での救急処置・救護が確実に出来る看護師を養成する。
2. 救急領域の実態と問題点、関連知識を身につける。
3. 急性期に関する医学・医療の深さと広さ、救急看護の多様性が述べられる。
4. 救急医療の中の救急看護の役割を理解し、広い視点で将来の救急看護を考える。

10　授 業 計 画

第 1 回　救急看護の概念 / 救急看護の対象の理解
救急看護とは / BLS（一次救命処置）

第 2 回　ACLS（二次救命処置）、急変を起こす病態の理解

第 3 回　外傷患者の救急処置

第 4 回　救急時に使用される医薬品

第 5 回　一次救命処置　実習（成人の救命処置　AED の使用法）

第 6 回　一次救命処置　実習（小児の救命処置）

第 7 回　一次救命処置　実習（チーム蘇生、窒息患者の救命処置）

第 8 回　まとめ / 試験

11　学 習 方 法

講義 / 校内実習

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

BLS ヘルスケアプロバイダーマニュアル—AHA ガイドライン G2015 準拠　日本語版

14　学生への要望

より実りのある講義にしていくため、予習・復習して授業に参加して欲しい。

看　護　情　報　シ　ス　テ　ム　論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	岡田宏基 髙畑美佳(看護師)

8　授業概要

電子カルテ導入が進む医療機関の中で看護情報について学ぶ。

（病院の看護業務の経験を持つ教員が、医療機関における電子化と情報ついて講義する。）

9　到達目標

1. 情報を活用する上で守らなければならない倫理、法的根拠を理解する。
2. どのようにデータを情報として活用するか理解する。
3. 電子カルテ導入が進む医療機関の中で看護分野での情報科学技術の活用について理解する。

10　授 業 計 画

第 1 回　　看護情報システム化に必要な法的・倫理的視点

第 2 回　　患者情報の管理

第 3 回　　医療における情報の記録　（　グループワーク　）

第 4 回　　個人情報の保護　　（　ロールプレイ、グループワーク　）

第 5 回　　個人情報の保護　／　情報保護の取扱い　（　グループワーク　）

第 6 回　　医療における情報システム　（　グループワーク　）

第 7 回　　情報活用の未来

第 8 回　　まとめ / 試験

第 1～2 回　岡田宏基・第 3～8 回　髙畑美佳（100）

11　学 習 方 法

講義 / グループワーク / ロールプレイ

12　評 価 方 法

レポート / 試験

13　教科書及び参考書

【電子版】系統看護学講座　別巻　看護情報学　医学書院

講師持参資料

14　学生への要望

看護の分野で情報科学をどのように活用しているか、その上で守らなければならない倫理や法的根拠知り、今後の活用について考えて欲しい。データーと情報の違いを理解してどのようなデータを情報として看護に活用できるかの理解を欲しい。

看　護　ゼ　ミ　ナ　ー　ル

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	安永さゆり(看護師)

8　授業概要

　看護学術集会に参加し、聴講する演題や基調講演・招聘講演・シンポジウムなどグループごとに学会タイムスケジュールを立案し、主体的に必要な学習を進める。学術集会参加後にはグループごとの学びを共有する。
（病院の看護業務の経験を持つ教員が、看護を探求する方法について演習する）

9　到達目標

1. 看護研究や学会・学会参加の意義を理解し、自身の研究テーマについて抽象化できる。
2. 専門職として研鑽し続ける基本能力(課題を見出して取り組む・情報を探索し活用する)が修得できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　ガイダンス
　　グループ学習
　　テーマ決定（各グループ毎）
　　テーマ例：看護師の職業倫理観、臓器移植と看護師の役割、家族看護のあり方、情報の伝達と管理、癒しと看護、在宅看護における看護師の役割など

第 2 回　　グループワーク：文献検索 / 調査 / 情報収集

第 3 回　　グループワーク：文献検索 / 調査 / 情報収集

第 4 回　　グループワーク：グループ内の意見交換 / まとめ

第 5 回　　講演受講（学会等）

第 6 回　　講演受講（学会等）

第 7 回　　講演受講（学会等）

第 8 回　　まとめ / 発表 / 意見交換 / 評価

第 5.6.7 回　グループワーク（安永さゆり）（松田美穂）（小室直子）（西村登志子）（阿部美知子）

11　学 習 方 法

自己学習 / グループワーク / 学術集会参加 / 意見交換

12　評 価 方 法

レポート（発表内容などにより総合的に判断）

13　教科書及び参考書

各分野の専門書、学術雑誌

14　学生への要望

　看護学の発展について、研究が果たす役割を知り、基 本的な研究に関する知識や研究の成果を実践に活用する基本的なスキルを修得しましょう。

看　護　政　策　論

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	4 学年	後期	1 単位	15 時間	必修	渡邊照代

8　授業概要

保健・医療・福祉政策および看護政策の現状と課題に対して、多様な社会集団の相互作用の中で、人びとの健康生活、地域社会に貢献する看護の政策的働きかけの方法を教授する。

9　到達目標

1. 医療･看護に関する法や制度について概観できる。
2. 看護政策の現状と課題、および看護職の役割を理解できる。
3. 臨床で直面する問題を医療政策・看護政策の観点から捉え、整理する事ができる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　保健医療福祉制度とヘルスケアシステム

第 2 回　　看護制度とは

第 3 回　　医療政策と看護政策の現状と課題

1. 医療法の改正
2. 看護職員確保の政策
3. 医療機能分化政策
4. 看護体制と料金体系の改革
5. 看護教育に関する政策
6. 保健師助産師看護師法
7. 保健医療分野の情報化推進に関する政策

～

第 5 回
第 6 回

第 7 回　　看護政策決定過程と専門職能団体の動き

第 8 回　　試験

11　学 習 方 法

講義 / 演習 / グループワーク

12　評 価 方 法

試験 / レポート

13　教科書及び参考書

看護管理学習テキスト第３版　第１巻　ヘルスケアシステム論　日本看護協会出版
看護六法　新日本法規（参考図書）

14　学生への要望

看護を取り巻く制度と政策について理解し、幅広く看護が見渡せるようになってください。

クリティカルシンキングⅠ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
統合分野	3学年	後期	1単位	15時間	必修	安永さゆり(看護師)

8　授業概要

　看護学実習を通して、疑問・問題に感じた場面・状況・事柄を意識的に振り返り、既習の専門的知識を用いて事実関係を再アセスメントする。よりよい解決の方法を導き出すことを通して、学生個々が根拠に基づいた思考・判断力を身につける。

（病院の看護業務の経験を持つ教員が、看護実践を伝える論述について講義する。）

9　到達目標

1. ケーススタディの意義・目的・特徴とプロセスについて理解できる
2. クリィティカルシンキングの意義と看護実践で求められる要素について理解できる
3. クリティカルシンキングを用いて看護実践を振り返り、論述する具体的方法を理解できる
4. 抄読を通じて論理的思考力を養うことができる

10　授業計画

第1回　ガイダンス
1）学習目的、目標、方法、評価について
2）ケーススタディとは？(意義・目的・限界と考慮点)
3）クリティカルシンキングとは？(意味と要素/EBNにおける活用)
4）　なぜ臨床やケーススタディでクリティカルシンキングが求められるのか

第2回　ケーススタディのプロセスと具体的論述方法
（はじめに/事例紹介/看護の実際/考察/結論/おわりに）

第3回　必要な知識と技術
（倫理的配慮/論述の基本的姿勢/文献検索とその方法/看護理論/引用参考･文献の記載のルール）

第4回　ケーススタディの事例を選定し、研究計画書作成（グループワーク）

第5回～第7回　ケーススタディの抄録・集録・パワーポイントの作成

第8回　ケーススタディの発表、抄録・集録・パワーポイントの修正

チュータ（安永さゆり）（佐藤みか）（小泉敬子）（久保多美子）（西村登志子）

11　学習方法

講義 / 抄読 /レポート作成ほか

12　評価方法

筆記試験 / レポートなど

13　教科書及び参考書

・新版　看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）
・配布資料ほか

14　学生への要望

　前半の講義でケーススタディの具体的方法、クリティカルシンキングの意義を理解すること、それを踏まえて抄読を重ねることを経て、後半は3年次での臨地実習の事例を用いた演習を行います。まずはよく似た事例のケーススタディや自分の興味･関心のあるテーマについて研究論文を読む機会を多く持つことで充実した学習ができるよう期待します。

クリティカルシンキングⅡ

1　科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4　単　位	5　時　間	6　必 選 別	7　担当教員
統合分野	4 学年	前期	1 単位	15 時間	必修	小室直子(看護師) 他看護学科教員

8　授業概要

　領域別看護学実習で受け持った患者のケーススタディを行う。チューター教員の指導のもと、実施した看護場面・状況・事柄を振り返り、看護理論や中範囲理論等を用いてクリティカル(論理的、合理的でバイアスがないこと)に論文を作成・発表する。

（病院の看護業務の経験を持つ教員が、看護実践を基に思考･判断力する技術について講義する）

9　到達目標

1. チューターとの調整を通して学ぶ態度を修得できる。
2. ケーススタディを通して、クリティカル(論理的、合理的でバイアスがない)な思考方法を修得できる。
3. 文献検索・抄録・収録・発表原稿・プレゼンテーション資料の作成・発表ができる。
4. 看護学の発展について、研究が果たす役割を知り、基 本的な研究に関する知識や研究の成果を実践に活用する基本的なスキルを修得できる。

10　授 業 計 画

第 1 回　　ガイダンス(目的・方法・スケジュール)
　　ケーススタディの対象は 4 年次に受け持った患者とする

第 2 回　　自己の実践例を使ってのケーススタディを作成する　（ケースとテーマの決定）
　　→チューター教員の決定

第 3 回　　文献検索

第 4 回　　クリティカルシンキング実践

第 5 回　　抄録作成

第 6 回　　収録作成

第 7 回　　プレゼンテーション資料・発表原稿作成

第 8 回　　ケーススタディ発表会
　　チューター：全看護学科教員

11　学 習 方 法

講義 / 自己学習 / ケーススタディ（抄録、集録、パワーポイント）作成

12　評 価 方 法

評価表に沿った評価(提出期日、発表 、抄録、集録、プレゼンテーション資料をもとに)

13　教科書及び参考書

新版　看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）
以下参考図書
クリティカルシンキング入門編・実践編（北大路書房）　事例で学ぶクリティカルシンキング（医学書院）
クリティカルシンキングアプローチ（廣川書房）　クリティカルシンキング（東洋経済新報）

14　学生への要望

　本校は、2 年次「看護研究Ⅰ」、3 年次「クリティカルシンキングⅠ」、4 年次で「看護研究Ⅱ、クリティカルシンキングⅡ」と、学びの系統性・連続性を踏まえたカリキュラムになっています。発表会事務・運営(抄録・収録集作成、座長・タイムキーパー等)も学生主動となりますので、責任をもって主体的に行動して下さい。

総 合 演 習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
統合分野	4学年	後期	2単位	60時間	必修	松田美穂・小室直子 (看護師) 他看護学科教員

8 授業概要

模擬患者を設定し、看護情報･計画立案から実施に至る過程をグループ学習し、看護技術を統合して援助が出来る。統合技術としての臨床実践能力を習得する。

（病院の看護業務の経験を持つ教員が、総合的な看護実践能力の育成について演習する。）

9 到達目標

1. 卒業前に統合実技実習として位置づける。
2. 看護師としての就業を前に、統合技術としての臨床看護実践能力を習得する。
3. 事例について模擬患者を設定し、看護情報・計画・立案から実施に至る過程をグループ学習し、看護技術を統合して援助ができる。
4. 看護におけるチームアプローチの方法や総合的な看護実践能力の育成を図り、実践上の問題の探求及び解決能力を習得する。

10 授 業 計 画

第1回　プロジェクト学習と看護、臨床判断とは
第2～5回　事例の解釈　CBLAの導入（講義・演習）　4事例について調べる
第6～9回　事例の解釈　CBLA　（演習グループ別）　4事例について調べる
第10～17回　4事例に沿って以下のCBLA（演習グループ別）
　呼吸管理・動脈血採血・酸素飽和度
　心電図モニタ・不整脈・心不全
　痛み・嘔吐・症状コントロール
　輸液管理・水・電解質
第18回　輸液/シリンジポンプ（実技演習）
第19～23回　事例研究　吐血（演習グループ別）
第24～25回　発表、リフレクション
第26～28回　事例研究　転倒（演習グループ別）
第29回　実技試験・リフレクション
第30回　プロジェクト学習の発表準備
第31回　プロジェクト学習の発表

第26～29回　実技試験・リフレクション：全看護学科教員

11 学 習 方 法

実技演習 / グループ・個人レポート

12 評 価 方 法

OSCE / 筆記試験 / ポートフォリオ提出 / 発表・演習態度

13 教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、ビデオなどを使用する。

14 学生への要望

卒業に向けて、「21世紀を担うプロフェッショナルとしての臨床実践能力を習得されていること」と信じています。

在宅看護論実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
統合分野	4学年	前期	2単位	90時間	必修	看護学科教員

8 目　的

1. 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を習得する。
2. 実習の対象である、成人、老年、小児、妊産褥婦、精神障害者などを通して生活を支援する活動と在宅看護活動における看護職の役割を習得する。
3. 地域で暮らす人々のヘルスニーズを把握し、家族援助も含めた看護過程の展開を実践し問題解決能力を養う。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9 到達目標

1. 対象の生活背景が理解でき、健康問題を引き起こした原因を考え現在の状況が理解できる。
2. 障害のレベルを低下させる因子を考え予防する方法を実践できる。
3. 地域保健活動の実践機関としての機能と業務、地域保健活動の実際を理解する。
4. 地域におけるヘルスニーズや家族を単位とした保健指導の実際を通して問題解決のためのアセスメント、計画、実施、評価ができる。
5. 健康レベルと種類にあわせた社会資源の活用方法や保健医療福祉機関の連携と看護の継続性が理解できる。
6. 個々の家庭にあった援助方法を考えることができ、家族への支援ができる。

10 実習内容

1. 訪問看護を通して看護過程の展開
   1週目：情報収集および情報のアセスメントし、看護上の問題が明確化できる。
   2週目：看護計画を立案し、計画に基づいて実施・評価できる。
2. 保健センターにおいて地域のヘルスニーズと保健指導について学ぶ：3週目
3. 保健センターにおけるテーマカンファレンスの実施：3週目

11 実習方法

グループを編成し、実習施設の特性を考慮して疾患や看護について理解を深める。

12 評価方法

援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13 教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、視聴覚教材
詳細は実習概要参照

14 学生への要望

地域で生活する人々がその人らしく暮らすために、健康を保持増進するために、どのように看護職は働き他職種と協働しているか考えてください。

統合実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単　位	5 時　間	6 必選別	7 担当教員
統合分野	4 学年	後期	2 単位	90 時間	必修	看護学科教員

8　目　　的

1. 知識・技術を統合し、実務に即した看護実践能力の向上をめざす。
2. 科学的思考を身に付け、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。

（看護業務に携わった経験を持つ教員が、看護実践や実習方法について指導する。）

9　到達目標

1. 対象や他職種とのコミュニケーションが適切にとれ、お互いに人間として成長し合えるような関係を作り出すことができる。
2. チーム医療や他職種との協働の中で、メンバーシップ・リーダーシップを身につけることができる。
3. 看護をマネジメントできる基礎的能力を身に付けることができる。
4. 夜間実習の体験を通し、その業務や対象者の理解を深めることができる。
5. 複数の患者を受け持ち、優先度を考慮し、時間配分、適切なアセスメント、状況判断、対応ができる。
6. 看護管理・病棟管理の実際について理解できる。
7. 医療安全の知識を踏まえ安全安楽に実施でき、緊急・急変の発生時に適切な判断・対応について理解できる。

10　実習内容

1. メンバーナースとして複数（2 名）の患者を受け持ち、看護の優先度を考えながら看護をマネジメントする。
2. リーダーナースと行動を共にし、リーダシップを考え、他職種との協働を学ぶ。
3. 看護師長または看護部長と行動を共にし、病棟病院の管理について学ぶ。
4. 夜間実習を体験し、夜間の患者・病棟・病院および看護の状況を理解する。
5. カンファレンスを実施する。

11　実習方法

グループを編成し、実習施設の特性を考慮して疾患や看護について理解を深める。

12　評 価 方 法

援助場面、カンファレンス、実習記録、指導場面、発問等を通して、評価表に基づき評価する。

13　教科書及び参考書

テキスト、資料、参考文献、ビデオ

詳細は実習概要参照

14　学生への要望

組織で働く看護師としてどうあるべきか考え、看護師として働くイメージをもってください。

四国医療専門学校　看護学科
〒769-0205　香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1
電話　0877-41-2350
ファックス　0877-41-2352